

某 年 度

郡 費 歳 入 明 細 簿

某 郡 役 所

備考
 本簿ハ歳入ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ歳出ヲ經常部臨時部共ニ項目ニ細別シ各其豫算ニ因リ收
 出整理スルヲ要ス而シテ別ニ元受ノ部ヲ設ケ現金ノ出納及現在額ヲ明ニシ併セテ本簿貸借ノ計
 算ヲシテ完全ナラシムルモノトス

郡行政 自治事務

(1) 經常部 財産收入 地所貸下料

年月日	摘 要	命令 番 號	借 方			貸 方			残		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
四	豫算額	1.	110	00	0				110	00	0

那行政
自治事務

(9) 臨時部 道路橋梁費 道路新開費

年月日	摘要	命 令 番 號	借 方			貸 方			借 或 入 貸	殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢	厘
四一	豫算額	1.				50	00	0	貸	50	00	0

五百五十七

臨時部 道路橋梁費 橋梁新架費 (10)

年月日	摘要	命 令 番 號	借 方			貸 方			借 或 入 貸	殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢	厘
四一	豫算額	1.				50	00	0	貸	50	00	0

五百五十六

郡行政
自治事務

(7) 經常部 郡會議費 議場費

年月日	摘要	命令番號	借方			貸方			借或入貸			殘			
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	
四一	豫算額	1.				10	00	0	貸	10	00	0			

五百五十九

臨時部 歲出 道路橋梁費 (8)

年月日	摘要	命令番號	借方			貸方			借或入貸			殘			
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	
四一	豫算額	1.				100	00	0	貸	100	00	0			

五百五十八

(5) 經常部 郡會議費 旅費

年月日	摘要	命令番號	借方			貸方			借或入貸	殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢	厘
四一	豫算額	1.				30	00	0	貸	30	00	0
四四	議員某外何人旅費	5.	10	00	0				貸	20	00	0

經常部 郡會議費 雜給 (6)

年月日	摘要	命令番號	借方			貸方			借或入貸	殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢	厘
四一	豫算額	1.				10	00	0	貸	10	00	0

那行政
自治事務

(3) 臨時部 歲 入												
年月日	摘要	命令番號	借方			貸方			借或入貸	殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢	厘
四一	豫算額	1.	100	00	0			借	100	00	0	

五百六十三

經常部 歲 出 郡會議費 (4)												
年月日	摘要	命令番號	借方			貸方			借或入貸	殘		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢	厘
四一	豫算額	1.				50	00	0	貸	50	00	0
四四	旅費	5.	10	00	0			„	40	00	0	

五百六十二

(1) 元 受													
年月日	摘要	命令番號	借方			貸方			借或入貸	残			
			圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢	厘	
四	二三		50	00	0				借	50	00	0	
	二三	何村長外一人納	23.						借	50	00	0	
	四	不用品拂下代受入	4.	10	00	0			借	60	00	0	
	四	都會 支拂	5.				10	00	0	借	50	00	0

經常部 歳入 (2)													
年月日	摘要	命令番號	借方			貸方			借或入貸	残			
			圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢	厘	
四	一		500	00	0				借	500	00	0	
	一	豫算額	1.						借	500	00	0	
	二三	分賦額	23.				50	00	0	借	450	00	0
	三	雜收入	4.				10	00	0	借	440	00	0

某 年 度

郡 費 整 理 簿

某 郡 役 所

郡 令 達

●群馬縣令第四十六號 明治三十二年十一月十一日
郡令公布式左ノ通相定ム
但本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス
一郡令ハ郡役所ノ揭示場ニ揭示スルヲ以テ公布式トス

●群馬縣訓令甲第百六號 明治三十二年十一月二十四日 郡役所ハ町村役場
郡令郡告示等取扱方左ノ通り相定ム

第一條 郡令公布ノ際郡長ハ所轄各町村役場ニ少クトモ其ノ謄本二部以上ヲ配布スヘシ

第二條 郡令ノ謄本町村役場ニ到達シタルトキハ町村長ハ其ノ一部ヲ保存シ其他ハ之ヲ町村ノ公
布式ニ準シ取扱フヘシ

第三條 郡告示告諭ノ公布方郡令ニ準據スルトキハ其ノ取扱方ハ本規定ニ依ルヘシ

●群馬縣乙第百五十一號 明治十一年十二月二十一日 郡 役 所
布告布達類揭示場設置之義左之通相心得不用之分ハ排下取計其旨可申出此旨相達候事
但不用揭示場民費建設ニ係ルモノハ人民ヘ下渡官民兩費ニ涉ルモノハ排下之上其費途支出之
割合ヲ以テ分配可取計事

一揭示場ハ各郡役所門外便宜ノ地ヲ撰ヒ一ヶ所宛設置スヘシ
但從前揭示ヲ要セサル地ニ在テハ故ラニ設置ニ及ハス尤人民協議ヲ以各町村ニ設置スルト警
察署於テ揭示スル違式註違條例表札類ハ此限ニ非ス

一從前建設スル揭示場郡役所最寄町村ノ内設置有之分ハ追テ各地ヘ移轉之積リ相心得自今新設ニ
及ハス破損等アルニ臨ミ最寄ノ役所ヘ移轉シテ修繕ヲ加フヘシ

一郡役所ヘ設置スヘキヲ差線リ人民輻湊ノ地ヘ建設スル等其地ノ便宜タルヘシ

●群馬縣訓令甲第四十三號 明治二十九年四月九日 勢多郡役所 群馬郡役所 多野郡役所
吾妻郡役所 利根郡役所 佐波郡役所

地方官官制第四十四條ニ依リ郡廢置以前ニ發シタル郡令訓令等ハ左項ノ通心得ヘシ

- 一 地方官官制ニ依リ郡長ノ發シタル行政命令ハ郡廢置ノ爲ニ効力ヲ失ハサルモノトス
- 二 箇以上ノ行政區域ヲ併テ新郡ヲ置キタル場合ハ新郡ノ郡長ニ於テ孰レカ一方ノ命令ヲ遵守スヘキ旨ヲ命令シ他ノ一方ハ之ヲ廢除スルカ或ハ双方共ニ之ヲ廢止シ新ニ行政命令ヲ發スル等適當ノ處分ヲナスヘシ
- 一 郡ノ一部ヲ割テ他郡ニ編入シタル場合ニ於テ其編入セラレタル郡ノ一部ハ新ニ屬シタル郡ノ行政命令ニ服従スヘキコト勿論ナリトス

令 達

●群馬縣令第四十五號 明治三十二年十一月十一日

縣令公布式左ノ通相定ム

但本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

一 縣令ハ群馬縣報ニ登載スルヲ以テ公布式トス

●群馬縣訓令第四百七號 明治三十二年十一月二十五日

- 廳中一般 郡役所 市役所 警察署
- 警察分署 監獄支署 農事試驗場 測候所
- 縣立學校 町村役場

縣報發刊手續等左ノ通り相定ム

縣報發刊日

第一條 縣報ハ金曜日ニ發刊シ臨時急施ヲ要スルトキ及第四條末項ノ場合ニハ號外ヲ發刊ス

但發刊日ノ前日休日ニ相當スルトキハ定日ノ翌日發刊シ縣報ニ登載事項ナキトキハ休刊ス

縣報登載事項

第二條 縣報ニ登載スル事項左ノ如シ

- 一 縣令 二 告示 三 告諭 四 應達 五 達
- 六 訓令甲號 七 訓令乙號 八 彙報 九 廣告

但第四號乃至第七號ニシテ一部ニ令達スルモノハ登載セサルモノトス

第三條 發刊縣報ノ目錄ハ附録トシテ毎年二回一月及七月之レヲ發刊ス

但明治三十三年一月ハ之レヲ發刊セズ

縣報配布

第四條 縣報ハ左ノ通配布ス(廿二年訓令甲百十四號ニテ改正)

- 一 縣廳中高等官 二 知事 官房 三 內務部(各課)係 四 警察部各課
- 五 監獄署各課 六 警察署 七 警察分署 八 巡查教習所
- 九 監獄支署 十 農事試驗場 十一 測候所 十二 縣立學校
- 十三 物産陳列場 十四 縣參事會 十五 縣會議員 十六 縣下各新聞社
- 右一部宛
- 十七 郡役所 十八 市役所 十九 町村役場
- 右二部宛

- 二 社寺公私立學校等ニ令達スルモノヲ登載シタル縣報ハ其ノ關係個所ヘ各一部ヲ配付ス
- 三 司法事務ニ關係アル令達ヲ登載シタル縣報ハ東京控訴院並本縣內地方裁判所同支部及各區

裁判所へ送付ス

前項第二號第三號ノ場合ニ於テハ別ニ關係アル令達ノミヲ號外トシ印刷シ配付スル事アルヘシ
縣報發刊順序

第五條 縣報登載事項ノ決裁ヲ經タルトキハ處務細則ノ規定ニ依リ印刷原稿ヲ木曜日午前第十時迄ニ内務部第一課庶務係ニ回送スヘシ

第六條 縣報登載事項發議主任ニ於テ其公布縣報定時發刊日ヲ待ツコト能ハスト認ムルトキハ號外發刊ノ件ニ關シ内務部第一課庶務係ノ同意ヲ求ムヘシ

但庶務係ニ於テ異議アルトキハ内務部長之レヲ決ス
第七條 縣報印刷ノ原版ハ内務部第一課庶務係ニ於テ之ヲ校正スヘシ

但内務部長ノ認許ヲ經テ發議主任ニ校正ヲ依托スルコトヲ得
第八條 増刷ヲ要スルモノハ縣報登載事項發議主任ニ於テ其旨内務部第一課庶務係ニ通知スヘシ

庶務係ニ於テ異議アルトキハ内務部長之レヲ決ス
第九條 司法事務ニ關係アル縣令及各省へ報告スヘキ縣令並ニ内務省へ報告スヘキ告示ノ原稿ニ

縣報配布順序

第十條 縣報ハ第四條第一項第一號及第三號ニ記載シタル個所へ宛テ直チニ本廳知事官房ヨリ送付ス
但郡役所町村役場へ配布スル縣報ノ内一部ハ每週取纏メ郡役所へ送付シ部内町村へハ郡役所

ヲシテ配布セシム(廿二年訓令甲百十四號ニテ十一條改正)
第十一條 縣報ヲ第四條第二號ノ個所へ送付スル場合ニハ郡市役所へ送付シ市役所ハ直チニ郡役

所ハ町村役場ヲシテ之レヲ配布セシム

附 則

第十二條 縣報ハ縣報印刷所ヲシテ之ヲ販賣セシム

第十三條 縣報印刷所並ニ縣報代價ハ別ニ之ヲ告示ス

●群馬縣告示第九十八號 明治三十二年十一月三十日

群馬縣報登載事項縣報販賣所及本廳ニ於テ許可シタル販賣代價左ノ通

一 縣報登載事項

一 縣 令 二 告 示 三 告 諭 四 廳 達 五 達

六 訓令甲號 七 訓令乙號 八 彙 報 九 廣 告

二 縣報販賣所

群馬縣前橋市曲輪町百五番地

成 立 舍

三 縣報販賣代價

一 一ヶ月分 郵稅共金拾貳錢

一 一 部 壹枚以上五枚迄金五厘 六枚以上拾枚迄金壹錢 拾壹枚以上貳拾枚迄金貳錢

以上拾枚毎ニ壹錢ヲ加フ拾枚以内亦同シ

但郵送ニ係ル分ハ郵券代ヲ加フ

●群馬縣訓令甲第五百十三號 明治二十一年八月四日 郡役所「戶長役場」

從來閣省ノ訓令ニシテ郡役所戶長役場ニ關係アルモノハ官報ニ掲載アルニ拘ハラズ其都度更ニ縣

應ヨリ及訓令候處自今別段不及訓令候條官報ニ依リ取扱フ可シ

●群馬縣訓令甲第五十號 明治三十三年五月四日 高崎市役所
從前高崎町役場へ配布セシ訓令中其役所ニ關係アルモノ、外別冊ノ通心得ヘシ

別冊ハ別ニ配付ス

●群馬縣訓令甲第八十七號 明治二十四年七月十五日 郡役所 町村役場
他府縣ニ於ケル左記ノ事項ハ自今官報ニ登載シ別段通牒セサル等ニ付官報ニ依リ之ヲ了知シ不都合ナキ様致ス可シ

一 郡市役所村役場罹災ノ爲メ書類焼失流亡ノ件

一 市町村ノ廢置分合及境界變更ノ件

一 市町村ノ名稱及役場位置變更ノ件

●群馬縣達第六十二號 明治十九年十月二十二日 「戸長」役場
華族世襲財産公告ノ義ハ其役場揭示場へ七日間揭示致スヘシ

救 恤

●群馬縣丙第八十一號 明治十四年八月三十一日 郡役所
濟貧恤窮願出候節ハ自今郡長警察署長協議ノ上連署ヲ以救助方具申可致此旨相達候事

但上申取調方ハ最初着手シタル郡役所又ハ警察署ニテ擔當スヘシ

●群馬縣戊第二十八號 明治十四年八月三十一日 警察署
濟貧恤窮願出候節ハ自今郡長警察署長協議ノ上連署ヲ以救助方具申可致此旨相達候事

但上申取調方ハ最初着手シタル郡役所又ハ警察署ニテ擔當スヘシ

●群馬縣訓令甲第七十八號 明治三十二年八月十六日 郡役所 市役所 町村役場
行旅病人及行旅死亡人取扱規程左ノ通相定ム

但シ明治三十年四月訓令甲第三十七號ハ廢止ス

第一條 行旅病人若ハ行旅死亡人ノ同伴者ニ對シ市町村長ニ於テ救護スルノ必要アリト認メタルトキハ總テ行旅病人ノ例ニ準シ取扱フヘシ

第二條 省令(明治三十二年六月内務省令第二十三號以下全之)第十四條ニ規定セル市町村費ヲ以テ繰替フヘキ費用ハ左ノ種目及限度ニ依ルヘシ

但特別ノ事情アルトキハ市長ハ知事町村長ハ郡長ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

一 醫師診察料 初回金五拾錢以內

但第二回以後ノ診察料ハ每一回金貳拾錢以內トス

一 醫師手術料 實 費

一 醫師診斷書料 金貳拾錢以內

一 產婆手術料 一回金參拾錢以內

一 醫師旅費 瀨車賃每一哩金四錢
車馬賃每一里金拾四錢

一 醫師日當 一日金壹圓

但往復六里未滿ノトキハ支給セズ

一 產婆旅費 瀨車賃每一哩金參錢
車馬賃每一里金拾貳錢

一 產婆日當 一日金七拾錢

- 但往復六里未滿ノトキハ支給セス
- 一藥 價 一日金八錢以内
- 一療養品費 實 費
- 但醫師産婆ニ於テ必要トシ市町村長ニ於テ相當ナリト認メタルモノニ限ル
- 一食料 一日金拾貳錢以内
- 一看護人費 一人トシ一日金拾錢以内
- 但重症又ハ身体自由ナラサル病者幼者若ハ發狂人ニ限ル
- 一被服料其他雜品費 冬期金壹圓以内
其他金四拾錢以内
- 一寢具料 一人金壹圓以内
- 但寢具ヲ購フハ貸借スルヲ得サル場合ニ限ル必要ナキニ至リタルトキ賣却シテ費用ニ差繼クヘシ
- 一薪炭油諸費 冬期一日金五錢以内
其他一日金貳錢以内
- 一入院料 一日金四拾錢以内
- 但入院料ヲ支給スルトキハ藥價療養品費食料看護人費並寢具料ヲ支給セサルモノトス
- 一借家料 一ヶ月金六拾錢以内
- 一小屋掛料 一式金壹圓以内
- 但宿泊セシムヘキ家屋ナキ場合ニ限ル救護ヲ止メタルトキハ賣却シテ費用ニ差繼クヘシ
- 一病人運搬費 一人又ハ二人若ハ人力車ヲ以テス、人夫一人金貳拾五錢以内、人力車每一里金拾錢以内
- 但發病地ヨリ救護地マテ運搬ヲ要スル場合ニ限ル

行旅死亡人費

- 一死体番人費 晝一人夜二人、一人一晝、一夜各金貳拾五錢以内
- 但番人ヲ付スルハ倒死變死等ニテ特ニ之ヲ付スル必要アル場合ニ限ル、番人ヲ付シタルトキ必要アルニ於テハ薪、炭、蠟燭ヲ給スルコトヲ得其ノ額ハ一晝夜金拾錢以内トス
- 一死体檢案料 金五拾錢以内
- 一死体檢案書料 金貳拾錢以内
- 一死体取片付人夫賃 一人又ハ二人、一人金貳拾五錢以内
- 一假土葬費 金壹圓五拾錢以内
- 一墓標費 金拾錢以内
- 一廣告料 二回金壹圓七拾錢以内
- 但外國人ニ係ルトキハ官報ヲ以テ二回公告スヘシ其費用ハ實費トス
- 病人送還費
 - 一病人及付添人晝食料 一人一回金五錢以内
 - 一同宿泊料 一人一夜金貳拾錢以内
 - 一同馬、馬車、人力車賃 每一里金拾錢以内
 - 一同瀛車瀛船賃 下等實費
 - 但船内ニ於テ食餌ノ供給ヲ受クル場合ニアツテハ晝食料宿泊料ヲ給セス
- 一付添人日當 一日金拾五錢
- 行旅病人ヲ送還スル付添人ハ一人ニ限ル、其ノ一日ノ行程ハ陸路十二里計、瀛車二百哩、瀛船

百海里詰以上トス

但陸路ハ病症ニヨリ一日六里以上ノ行程ニ減スルコトヲ得

第三條 省令第六條ノ規定ニ依リ被救護者ヲ公私ノ施設ニ委託シタル場合ニ於テ救護ノ資料及費用ヲ要スルモノニ在テハ其ノ施設所定ノ最低價額以上ヲ支辨スルコトヲ得ス

前項公私ノ施設ニ於テ救護ノ資料及費用ノ所定ナキ場合又ハ私人ニ委託シタル場合ニ於テハ其ノ救護ノ資料及費用ハ前條ノ規定ニ依リ之ヲ支辨スルコトヲ要ス

第四條 行旅病人ヲ救護シタル市町村長ハ直ニ附録第一號同第二號書式ニ依リ調書ヲ製スヘシ

第五條 被救護者ノ扶養義務者若ハ家族アルコト判明シタルトキ又ハ扶養義務者若ハ家族ナリト思料シ得ラル、者アル場合ニ於テハ市町村長ハ左記ノ事項ヲ記シ直ニ其ノ所在地ノ市町村長ニ之カ通知ヲ囑託スヘシ

一 救護ヲ始メタル年月日

二 救護ノ場所

三 醫師ノ診斷書寫

四 附録第一號書式調書寫

五 附録第二號書式調書寫

六 被救護者引取ノ期間

(信書到達ノ日數、引取者ノ出發準備日數並ニ其ノ旅行日數ヲ見計ラヒ相當ニ取定メ又被救護者ニ於テ留置救護ヲ請求シタルトキ之ニ對シ市町村長ノ指定シタル期間並ニ市町村長ニ於テ留置救護ヲ必要ト認メタルトキハ其指定期間及其ノ理由ノ概要ヲ附記スルヲ要ス)

七 疾病ノ狀況其ノ他特別ノ事故ニ依リ被救護者ノ扶養義務者若ハ家族ニ於テ本條第六項ノ指

定期間内ニ被救護者ヲ引取ルコトヲ得サル事情アルトキハ其ノ理由申立ノ期限

八 前各項ノ外市町村長ニ於テ通知スヘキ必要アリト認メタル事項

第六條 被救護者ノ扶養義務者若ハ家族ナク又ハ分明ナラス其ノ他被救護者ノ引取ヲ爲スモノナキモ住所地府縣ヲ知り得タルトキハ市町村長ハ第五條第一號乃至第五項第八項ノ事項ヲ記シ直ニ當該府縣廳ヘ引取ノ通知ヲ發スヘシ

前項住所地府縣モ亦分明ナラサルトキ若ハ本縣ニ住所ヲ有スルトキハ市町村長ハ必要ノ間救護ヲ爲シ之ヲ止メタルトキハ遲滞ナク本縣知事ニ費用下附ノ申請ヲ爲スヘシ

第七條 省令第二條第一項ノ規定ニ依リ被救護者ノ引取ヲ爲スヘキ必要ナキニ至リタル場合ニ於テハ市町村長ハ遲滞ナク前ニ通知ヲ囑託シタル市町村長ニ對シ被救護者ノ扶養義務者若ハ家族ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ囑託スヘシ

第八條 戶籍法第三百三十二條第一項ニ該當スル行旅死亡人アリタルトキハ市町村長ハ檢視調書ノ謄本ヲ當該戶籍吏ニ請求シ其ノ他ノ場合ニハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ徴シ附録第三號書式ニ依リ調書ヲ製スヘシ

第九條 行旅死亡人ノ相續人扶養義務者若ハ家族アルコト判明シタルトキ又ハ相續人扶養義務者若ハ家族ナリト思料シ得ラル、モノアル場合ニ於テハ市町村長ハ第八條ノ調書寫ヲ製シ直ニ之ヲ通知スヘシ

但時宜ニ依リ相續人扶養義務者若ハ家族所在地ノ市町村長ニ通知ヲ囑託スルコトヲ得

第十條 行旅死亡人ノ遺留金員又ハ行旅病人及行旅死亡人取扱法第十二條ニ依リ賣却シテ得タル

金貨ハ先ツ之ヲ假埋葬費ニ充ツヘシ其ノ救護中死亡シタル者ニ在テモ亦同シ

前項ノ金貨ヲ以テ費用ヲ辨償スルニ足ラサル場合ニ於テ省令第十二條ノ規定ニ依リ遺留物品ヲ賣却スルトキハ先ツ有價證券ヲ賣却シ次ニ其ノ他ノ物件ヲ賣却シ其ノ費用ニ充ツヘシ

但有價証券以外ノ物件ハ費用ノ辨償額ニ達スルマテテ限度トシ賣却スルヲ要ス

價格金五圓未満ノ物件ヲ賣却スルトキハ競賣ニ付スルヲ要セス

第十一條 行旅死亡人ノ遺留物件ヲ競賣ニ付セントスルトキハ市町村長ハ競賣ノ日時及場所物件名ヲ七日間其ノ所在地市町村ノ揭示場ニ告示スヘシ

競賣ハ競買申込人ヲシテ競買見積書ヲ差出サシメ其ノ最高價ノ者ニ賣却スヘシ

但金銀及金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以上ノ代價取引所ノ相場アル物品ハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ市町村長ハ任意ニ賣却スルコトヲ得

第十二條 前數條ノ規定ニ依リ遺留物件ヲ賣却シ辨償金額ニ達セサル場合又ハ遺留物件ナキ場合若ハ行旅死亡人ノ相續人扶養義務者ナク又ハ分明ナラサル場合ニ於テ住所地府縣ヲ知り得タルトキハ市町村長ハ直ニ當該府縣廳ニ對シ第八條ノ調書寫ヲ添ヘ費用ノ請求ヲ爲スヘシ

前項住所地府縣モ亦分明ナラサルトキ若ハ本縣ニ住所ヲ有スルトキハ遲滞ナク本縣知事ニ費用下付ノ申請ヲ爲スヘシ

第十三條 省令第七條第八條第十一條及第十二條並明治三十二年六月內務省令第二十四號第二條ノ計算書ハ附錄第四號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

第十四條 市町村長ニ於テ行旅病人及行旅死亡人取扱法第十四條ニ依リ遺留物件ヲ引渡ストキハ差引計算書(附錄第四號書式)並遺留物件目錄(附錄第二號書式)ヲ製シ受取人ニ交付スヘシ

遺留物件ノ正當受取人ナキトキハ市町村長之ヲ保管シ遲滞ナク非訟事件手續法第十六條ニ依リ管轄裁判所ノ檢事ニ通知シ民法第五十二條ノ相續財產管理人ノ選任セラル、ヲ俟テ之ヲ引渡スヘシ(明治三十三年訓令中第百九十五號ニテ追加)

市町村長ニ於テ本縣ニ住所ヲ有スル行旅病人ノ救護費又ハ行旅死亡人ノ假埋葬費ヲ當廳ニ請求スルトキハ官報若ハ某新聞紙ニ公告ノ年月日ヲ具シ戶籍謄本及被救護者並行旅病人行旅死亡人ノ扶養義務者家族相續人ノ滯納處分計算書寫又ハ滯納處分ノ執行ヲ止メタル調書寫ヲ添付スヘシ(上全)

郡長ニ於テ行旅病人救護費行旅死亡人假埋葬費ニ關スル市町村長ノ請求書ヲ進達スルトキハ該件ニ關スル一切ノ報告書ノ原書又ハ寫ヲ洩レナク添付スヘシ

第十六條 左ノ事項ハ市長ハ知事ニ市町村長ハ郡長ニ三日以内ニ報告スヘシ

一 行旅病人ノ救護ヲ爲シタルトキハ第四條ノ各調書寫及醫師診斷書寫並救護ヲ初メタル年月日及救護ノ場所

二 被救護者ノ扶養義務者若ハ家族ニ通知シタルトキハ其ノ者ノ住所氏名並通知年月日及引取期間其ノ他再通知ヲ發シタルトキハ其ノ事項

三 扶養義務者若ハ家族ヨリ受ケタル回答ノ寫

四 扶養義務者若ハ家族カ病人ヲ引取リタルトキハ其ノ引取年月日

五 病人ヲ送還シタルトキハ其ノ出發年月日及付添人住所氏名

六 單身ニテ出發セシメタルトキハ其ノ旨及出發年月日

七 救護ノ日ヨリ十四日毎ニ病人ノ症狀

- 八 救護費ノ償却ヲ得タルトキハ其旨
- 九 行旅死亡人ノ取扱ヲ爲シタルトキハ第九條ノ調査寫並死亡診斷書寫死体檢案書寫及假埋葬ノ年月及場所
- 十 行旅死亡人ノ扶養義務者若ハ相續人ニ通知シタルトキハ其ノ者ノ住所氏名並通知年月日其ノ他再通知ヲ發シタルトキハ其ノ事項
- 十一 扶養義務者若ハ相續人ヨリ受ケタル回答寫
- 十二 取扱費ノ辨償ヲ得タルトキハ其旨
- 十三 遺留物件ヲ引渡シタルトキハ其ノ者ノ住所氏名
- 十四 遺留物件ヲ競賣シタルトキハ其ノ日時場所及競賣物品名
- 第十七條 外國人タル行旅病人ヲ救護シ若ハ行旅死亡人ヲ取扱ヒタルトキハ前條第一號及第九號ニ限リ即日市町村長ヨリ知事ニ報告スヘシ
- 第十八條 郡市長ハ付録第六號書式ニ依リ其郡市内ニ於ケル一ケ年間ノ行旅病人及行旅死亡人統計表ヲ製シ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ

附錄第一號書式

行旅病人狀況書

- 一 氏名、族稱、職業、年齡、舊氏名
- 二 住所、居所ノ道府縣、郡、區、市町村名、大字名、番地
- 三 風采、相貌、特徴
- 四 祖父、祖母、父、母、兄弟、姉妹、子孫、配偶者、其他家族ノ在否並其氏名職業、住所、

- 居所、舊氏名
- 五 親族故舊ノ住所、居所職業氏名
- 六 隣保者ノ職業氏名
- 七 氏神檀那寺ノ名稱並其ノ所在地
- 八 住所居所近傍ノ模様其他行旅病人ノ氏名住所居所等取調ノ手掛トナルヘキ諸件アレハ其詳細
- 九 出發ノ理由、出發年月日、經歷地名、旅行先
- 十 外國人ニ在テハ其生地及國籍、本邦ニ在ル扶養義務者若ハ家族親族等ノ住所、居所、姓名等

全第二號書式

- 一 着用衣服
- 二 携帶品
 - 一 現金 何程
 - 一 有價証券 何圓券 何程
 - 一 衣服 一品毎ニ品質縞柄等ヲ明記スヘシ
 - 一 何々
 - 一 何々

全第三號書式

行旅死亡人調書

何道、府縣、郡區、市町村大字何番地

何 某

又ハ住所不詳(風采ヲ記ス)

男 (女)

何 年 位

一 死亡ノ模様

病、縊、溺死、等ノ模様

二 死亡ノ場所

三 死亡年月日(推定年月日)

四 相貌、特徴

五 着用衣服

一品毎ニ品質、縞柄等ヲ明記スヘシ

六 携帶品

一 現金 何程

一 有價証券 何圓券 何程

一 衣服 一品毎ニ品質、縞柄等ヲ明記スヘシ

書 遺言書 何通

署名者、發信者、受信者ノ判明スルモノハ必ス之ヲ記載スヘシ

何々々

七 其他本人ノ認識ニ必要ナル事項

全第四號書式

行旅死亡人諸費計算書

何道府縣郡區市町村大字何番地

何 某

又ハ住所氏名不詳(風采ヲ記ス)

男 (女)

何 年 位

一金 何程

内譯

種目	員數	事由摘錄	金額	員
醫師診察料				
醫師(產婆)手術料				
醫師診斷書料				
醫師(產婆)旅費				
醫師(產婆)日常				

同車馬賃	同瀛車賃	同宿泊料	付送還病人食料及	病人運搬費	小屋掛料	借家料	入院料	薪炭油諸費	寢具料	被服其他雜品費	看護人費	食料	療養品費	藥價

五百八十四

付添人日當	死體番人費	死體番人薪炭油費	死體檢案料	死體檢案書料	死體取片付人夫賃	假土葬費	墓標費	公告料	何々	一金何程	內譯	金何程	金何程	金何程

寢具賣却代
小屋掛賣却代
本人所持金

郡行政 救恤

五百八十五

金 何 程
内

本人遺留物件賣却代

金 何 程
金 何 程

何 何
品 品

差引 金 何 程

請求高(又ハ餘贏金)

右ノ通り相違無之候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

備考 行旅病人行旅死亡人ノ同伴者アリテ共ニ救護シタル場合ニ於テハ計算書ハ各別ニ調製ス
ヘシ

全第五號書式

行旅病人(行旅死亡人)扶養義務者(家族)(相續人)資力調査
行旅病人(行旅死亡人) 何 ノ 某

扶養義務者(家族)(相續人)續柄

何 ノ 某

一諸稅負擔

最近一ヶ年内ニ於ケル國稅、縣稅、市町稅納額等ヲ各稅目毎ニ列記スヘシ

一所有物件

右之通相違無之候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

備考 本調査ハ各扶養義務者家族相續人毎ニ製スヘシ
全第六號書式

明治何年行旅病人行旅死亡人救護取扱表

何郡市役所調

區 分	前年ヨリ越	救護取扱人員合計	内		費用償却未済
			費用償却済數	縣負擔トナリタル數	
病 人	女 男	人 人	人 人	人 人	人 人
死 亡 人	女 男	人 人	人 人	人 人	人 人

備考 救護中死亡者ハ死亡ノ欄ニハ之ヲ朱記シ重複ヲ避シヘシ

外國人ニ關スル分ハ別表ニ調製スルヲ要ス

●群馬縣訓令甲第百二號 明治二十七年十一月五日

郡役所 町村役場

棄兒迷子取扱手續

棄兒迷子取扱手續

第一條 棄兒迷子アリタルトキハ市役所町村役場ニ於テハ五日以内ニ引受人ヲ定メ官(私)養育ノ方法ヲ立テ養育方ヲ引受人ヨリ出願許可ヲ受ケサスヘシ

第二條 郡市長ニ於テ前條許可ヲ與ヘタルトキハ三日以内ニ其旨當廳ニ報告スヘシ

第三條 棄兒迷子死亡シ又ハ原籍發見本人引渡ヲ爲シタルトキハ其旨三日以内ニ郡市役所ニ届出

サスヘシ

第四條 引受人ノ轉居又ハ改氏名死亡等ノ節ハ本人若クハ相續人ヨリ三日以内ニ郡市役所ニ届出サスヘシ

但死亡者跡相續人ニ於テ引續キ養育ヲ爲ストキハ其旨同時ニ届出サスヘシ

第五條 引受人ヲ變更シ又ハ他ノ養子ト爲サントスルトキハ郡市長ノ許可ヲ受クサスヘシ

第六條 棄兒迷子ニシテ他ニ引受人ナク市町村預リトナリタルトキハ市ニ在テハ直ニ町村ニ在テハ所轄郡役所ヲ經由シ市町村預リトナリタル日ヨリ三日以内ニ其旨當廳ニ報告スヘシ

第七條 前條棄兒迷子ニシテ新ニ引受人ヲ定メタルトキハ第一條ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第八條 郡市長ニ於テ第三條第四條ノ届書ヲ受領シ又ハ第五條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ三日以内ニ當廳ニ報告スヘシ

○群馬縣乙第二十六號 明治十年五月二十二日 「正副區戸長」

棄兒養育致候寄留人へハ自今寄留地之管轄廳ニ於テ養育米可下渡旨内務省ヨリ達有之候就テハ棄兒養育中ノ者當縣へ寄留又ハ他管下へ寄留致シ候者有之候ハ、其都度無等開可届出此旨相達候事

○群馬縣乙第十八號 明治十年五月四日 「正副區戸長」

棄兒養育ノ儀年齢滿十三年以内ニ自費養育願濟ノ者ハ追テ該兒滿十三年ニ至リシ時御賞譽可相成候條滿期或ハ病死等ノ節ハ自費養育ノ年間相認メ其都度可届出此段相達候事

○群馬縣訓令甲第九十七號 明治三十三年八月三十一日 郡役所 市役所

出獄人保護ニ關シ社團又ハ財團ヲ法人ト爲スニ付民法第三十四條ニ依リ司法大臣ノ許可ヲ要スル申請書ノ經由方申出ル者アルトキハ其ノ事業ノ順序狀況並ニ設立者ノ身元經歷等ヲ調査シ又法人

ヨリ司法大臣ニ差出スヘキ認可申請書及願届書ノ經由方申出ツルトキハ其事實等調査ノ上何レモ意見ヲ付シ進達セラルヘシ且該法人ノ事務ニ付テハ専ラ公益ヲ主トシ營利ノ行爲アル可カラサルハ勿論其設立ノ目的及條件以外ニ涉ル可カラサル儀ニ付所管内ニ於テ該法人ニ對シテハ嚴重監督ヲ加ヘラレ仍民法第七十一條及民法施行法第二十三條ノ場合ニ該當スト認ムルモノアルトキハ直ニ詳細其旨具申スヘシ

褒 賞

○群馬縣訓令甲第五十四號 明治三十一年五月七日

郡役所 市役所 警察署 警察分署

褒章條例ニヨリ行賞内申方左記ノ通相心得慎重ニ調査シ且ツ秘密ヲ旨トシ取計フ可シ

第一條 郡長又ハ警察署長ハ褒章條例ニヨリ褒章ヲ賜フヘキ者ト認メタル時ハ當廳へ内申スヘシ

未タ褒章ヲ賜フニ該當セサルモ之ニ亞キ行賞スヘキモノト思料スルトキハ其旨ヲ明カニシ當廳へ内申スルコトヲ得

第二條 第一條ニヨリ内申ヲ爲スニハ必ス左ノ事項ヲ詳悉スヘシ

- 一 住所族籍 一 官位勳等 一 姓名年齢 一 受賞受刑ノ有無(賞罰トモ其全文ヲ記スヘシ)
- 一 履歴書 一 市町村長ノ具狀書アレハ其寫 一 戸籍寫
- 一 褒章ヲ賜ハルヘキ要旨ノ内

- 人命救助者
- 一 最モ危難ト見認ムヘキ實况
- 一 數人ニテ救助セシ場合ニ於テハ其内最モ先盡力ノ者ヨリ甲乙ノ區別

一 水難者ヲ救助スル者ハ游泳シテ其ノ所ニ到リシヤ又ハ舟筏或ハ助網等ヲ以テセシヤノ區別
 一 水難者ト救助者ト船又ハ陸トノ距離及ヒ河溝ノ淺深廣狹水勢ノ緩急等
 一 現場ノ摸樣概圖

一 救助者ノ手續書

一 德行 行者

一 性質品行及平素ノ行狀

一 志行最モ卓絶ト認ムル件

一 志操ヲ變セサルノ年數

一 生計ノ情况親族トノ關係及ヒ貧富ノ程度等

一 實業 精勵者

一 性質品行及平素ノ行狀

一 實業ニ従事ノ實況

一 實業ニ模範タル事蹟

一 公益ヲ興セシ者

一 性質品行及平素ノ志行

一 事業經營ニ關スル功程及其實蹟並ニ將來維持ノ方法

一 費用ノ額本人出金又ハ寄付金

一 學校病院等ヲ建設セシモノハ其構造並ニ建坪其他教員生徒又ハ醫員患者等ノ員數

一 道路河渠堤防橋梁ノ修築ニ係ルモノハ其工事ノ模樣着手及竣工ノ年月施行前後實地ノ景況

其他延里程幅員詳細繪圖面及設計書等

一 他ニ公益事業ニ係ルモノアレハ其成績ヲ附記スヘシ

一 公同事務勤勉者

一 性質品行及ヒ平素ノ行爲

一 德望

一 勞效顯著ト認ムル事項

一 公同ノ事務ニ従事セル年數

一 市町村長等ノ職ニ在ル者ハ左ノ事項取調ヲ要ス

一 報酬ノ有無

一 市町村内ノ折合

一 事務整否

一 基本財産ノ増殖維持ニ係ル件

右ノ外ト雖モ緊要ノ事項ハ記載ヲ要ス

第三條 德行者實業精勵者公益ヲ興セシ者公同事務勤勉者ニツキ内申スル場合ニハ必ス將來勞效

ヲ積ミ美譽ヲ重ヌルノ見込有無ニ關シ特ニ意見ヲ付スヘシ

第四條 人命救助者德行者ニツキ内申スル場合ニハ郡長ハ所轄警察署長ト警察署長ハ所轄郡長ト

協議シ連署スヘシ

第五條 行賞ヲ内申シタル者死歿セシトキ及輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ速ニ其事由ヲ申報ス

ヘシ

其死歿ノ場合ニ在テハ該相續人ニ對シ第二條內申事項中「褒章ヲ賜ハルヘキ要旨」ヲ除キ其他洩レナシ取調ヘ内申スヘシ

●群馬縣訓令甲第三號 明治二十六年一月二十三日 市役所 町村役場

公益之爲メニ金穀物件ヲ寄附シタルモノ賞與上申ノ儀ハ左ノ書式ニ據リ取調差出スヘシ
明治何年何月何日何々費寄附取調書

高金 何程

内 譯

縣國(郡市)(町村)大字名

何 之 誰

金 何程

同

金 何程

同

但拾圓以上

計 金 何程

合 何 人

縣國(郡市)(町村)大字名

何 之 誰

金 何程

同

金 何程

同

但拾圓未滿壹圓以上

計 金 何程

合 何 人

縣國(郡市)(町村)大字名

何 之 誰

金 何程

同

金 何程

同

但壹圓未滿

計 金 何程

合 何 人

調查凡例

一 新委任官及奏任官以上ノ待遇ヲ受ルモノ并ニ從六位及勳六等以上ノモノ及華族(戶主并ニ其祖父母父母妻嫡長子孫及其妻)ハ別紙ニ調査シ官位勳等ヲ詳記スヘシ

一 市町村又ハ組合或ハ會社等ノ寄附金ニ係ルモノハ某市町村又ハ某會社ト記スヘシ

一 土地物件勞力ヲ以テ寄附シタルトキハ當時ノ相場ニ依リ價格ヲ算出シ物件ノ左傍ニ其金額ヲ併記スヘシ

一 勞力ヲ以テ寄附シタルトキハ最終ノ日ヲ以テ納濟ノ期限トナシ其記載方ハ前項ニ同シ

●群馬縣第三號達 明治十七年一月十九日 警察 署

公益ノ爲メニ金穀財産等ヲ寄附シタル者納濟ノ上賞與開申ノ儀ハ凡テ左ノ書式ニ照準シ且納期ハ別紙ニ具シ差出スヘシ

右相違候事

明治 年 月 日何々費寄附取調書

高金 何程 何 郡 町 村

内譯

金 何 程 族 籍 姓 名
同 同

合計金 何 程 人

金 何 程 族 籍 姓 名
同 同

合計金 何 程 人

但拾圓未満壹圓以上(十七年戊十號ニテ但書改正)

一本書ハ十六年第十七號公達第二條ノ等差ニ從ヒ一廉毎ニ合計ヲ爲シ記載スルモノトス

一族籍ハ郡町村華士族平民(勲位アル)ノ別ヲ記スヘシ

一姓名ハ何ノ誰ト記シ非戸主ハ戸主ノ名ト續柄ヲ肩書スヘシ町村組合會社等ニテ聯合出金シタルハ某町某村某組合會社ト記スヘシ

一地所米穀物品勞力等ヲ以テ寄附ニ充テタル當時ノ相場ニ依リ之カ價格ヲ算出シ以テ出金ノ段ニ掲ケ其物品ハ左傍ニ併記スヘシ

一勞力ヲ以テ寄附ニ充テタルハ最終ノ日ヲ以テ納濟ノ期限トナス
但記載方ハ前項ニ依ル

一寄附金額壹圓未満ノモノハ別ニ取調差出スヘキモノトス(十七年戊十號ニテ追加)

群馬縣乙第五十八號 明治十二年九月十日

學校病院其他道路橋梁濟貧恤窮等ノ爲メ金圓又ハ物品等差出候者ハ賞與ノ儀自今賞狀並ニ賞金等及下附條郡長ニ於テ傳達方取計可申此旨相達候事

群馬縣乙第五十九號 明治十二年九月十二日

學校病院其他道路橋梁濟貧恤窮等ノ爲メニ金圓又ハ物品等ヲ差出シタルモノ成規之賞與不行前罪ヲ犯シ懲役並禁獄ノ刑ヲ受ケタル時ハ該賞與ハ不行儀ト可相心得旨「太政官第二十六號ヲ以公達相成候」ニ付テハ自今賞狀下附之際犯罪ノ有無取調傳達可致此旨相達候事

群馬縣番外 明治八年八月十七日

管内小學校ニ寄附獻金等致候者共寄特ヲ以テ賞金賞詞ヲ賜ルノ都度金額ト姓名ヲ記シ其校前或ハ人民輻輳ノ地ヘ揭示可致候事

群馬縣訓令甲第九號 明治二十三年一月二十一日 郡役所 町村役場

自今町村經濟ニ屬スル學校病院土木恤救等ノ費途ニ對シ金穀物品ノ寄附ヲ出願スルモノアルトキハ該管理者ニ於テ許否スヘシ

群馬縣訓令甲第十一號 明治二十六年二月二十五日 市役所 町村役場

市町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ對シ金穀物品ヲ寄附シタル者賞與申請ハ該寄附金穀物品ニ付市町村會又ハ水利組合會ノ決議ヲ經金員又ハ物件領收ノ上申請候義ト心得ヘシ

群馬縣訓令乙第三百五十五號 明治二十六年四月四日 郡役所 市役所 町村役場

市町村ノ設立支持スヘキ小學校ニ對シ其市町村ノ金穀物品ヲ充用スルハ素ヨリ寄附ト認ムヘキモノニ無之ヲ以テ明治十六年第一號ノ布告ニ依リ賞與可相成限リニ無之候條爲心得此旨訓令ス

統計

群馬縣訓令甲第八十四號 明治三十三年十一月三十日 郡役所 市役所 町村役場
 內務省及內閣統計局統計材料報告別表ノ通相定メ明治十八年乙第十七號全二十二年訓令甲第四百
 十號全二十五年訓令甲第九號及全三十一年訓令甲第九十八號ニ廢止ス

第一表

何(郡市)何(町村)吏人員月俸階級別

何(郡市)役場所

階級	郡			人員	支給金額
	事務備	給仕	小使		
階級	事務備	給仕	小使	人員	支給金額
別	拾貳圓以上 拾貳圓未滿	拾貳圓未滿	拾貳圓未滿	人員	支給金額
人員				人員	支給金額
月俸				月俸	支給金額
金額				金額	支給金額
合計				合計	支給金額

市								町				村				
計	市長	助役	參事會員名譽職	收入役	附屬員		區長名譽職	區長代理名譽職	常設委員名譽職	內學務委員	收入役	町村長	助役	常設委員名譽職	內學務委員	
					書記	事務										郡費支辨事務備
	五拾圓未滿上	貳拾五圓未滿上		貳拾五圓未滿上	貳拾五圓未滿上	貳拾五圓未滿上					六圓未滿上	拾圓未滿上	拾圓未滿上			六圓未滿上

吏		員	
書記 六圓以上	事務備 六圓未滿	區長 一名	區代理 一名
		職	職
		計	

一市役所町村役場ハ一月二十日限り市ハ縣廳ニ町村ハ郡役所ニ報告スヘシ郡所役ハ町村役場ノ報告ヲ統計シ郡役所ニ於テ調査スヘキモノトテ合セ一表ニ調製シ一月三十一日限り縣廳ニ報告スヘシ

一本表ハ十二月三十一日現在ヲ以テ調査スヘシ

一年給及日給ノ者ハ月給額ニ改算シ各項ノ合計ニ於テ四捨五入シ圓位ニ止メ記載スヘシ

一年給及日報酬金(年額)ハ之ヲ十二分シ其一分ヲ月額トシ日給ヲ以テ支給スル者ハ三十日ヲ以テ月額ニ改算スヘシ

但公暇日ニ日給ヲ支給セサル者ハ二十五日分ヲ以テ月給額ニ改算スヘシ

一表中掲ケル月給及報酬金ハ十二月三十一日現員ニ支給スヘキ一月ノ金額ヲ掲載スヘシ

一兼務ノ者ハ人員金額トモ其兼務ノ方ヲ朱書ヲ以テ別項ニ掲載スヘシ

但給料或ハ報酬ヲ受ケサル者ハ其種別人員等ヲ欄外ニ附記スヘシ

一委員ハ常設(臨時委員ハ省シ)ノ委員ニシテ市町村會議員及市町村公民中ヨリ選舉セラレタルモノヲ指シテ掲ケヘシ

但參事會員等ヨリ兼ヌルモノハ其種別人員等ヲ欄外ニ附記スヘシ

一表中掲載スル市事務備、町村事務備ノ欄ニハ市制町村制ニ附屬員トアルモノ、内定備ニシテ事

務ヲ執ル者ヲ掲ケヘシ
 一見習ノ者アラハ其階級ノ次ニ何々見習ト揚載スヘシ
 一郡參事會員郡常設委員ハ人員ノ外他ニ記載ヲ要セス
 一郡費支辨事務備ノ欄ニハ郡費支辨ニ係ル臨時事業ニ從事スル雇ノ類ヲ記載スヘシ
 一町村制第十六條ニ依リタル町村行政全部ノ組合吏員ハ各其欄内ニ別記シ×ヲ附ス可シ
 但一部ノ事務ノ爲メ設ケタル組合ノ吏員ハ掲載スルヲ要セス

第二表

何(郡市)何(町村)吏員退隱料受領人員及金額

何(郡市)何(町村)役場所

種別	人員		金額	種別	人員		金額
	市役所	町村			市役所	町村	
市長				町村長			
市吏員				町村吏員			
助役				助役			
何々				何々			
總計				總計			

一市役所町村役場ハ一月二十日限り市ハ縣廳ニ町村ハ郡役所ニ報告スヘシ郡役所ハ町村役場ノ報

告ヲ統計シ一月三十一日限り縣廳ニ報告スヘシ
 一本表ニ掲クル人員ハ十二月三十一日ノ現員ヲ掲ケ金額ハ其現員ニ支給スヘキ年額ヲ掲載スヘシ
 假令ハ市長ニシテ退隱料年額三十圓ヲ受クルモノ二人アレハ人員二人支給額六十圓ト掲載スル
 カ如シ
 一市制及町村制第七十九條ニ依リ官職其他ノ職務ニ就キ給料ヲ受クル者ト雖モ本表ニハ之ヲ合算
 シ除クヘカラス

第三表

何郡(市)何町村會

何(郡)何(市)何(町)何(村)役場所

種別	會數	員			選舉權ヲ有スル者		
		華族	士族	平民	華族	士族	平民
市會							
町會							
村會							
町村組合會							
町村組合會							

町村總會	總計

一市役所町村役場ハ一月二十日限り市ハ縣廳ニ町村ハ郡役所ニ報告スヘシ郡役所ハ町村役場ノ報告ヲ統計シ一月三十一日限り縣廳ニ報告スヘシ
 一町村組合會ハ町村制第十六條ニ依テ設置スルモノヲ云フ
 一町村總會ハ町村制第三十一條ニ依テ設置スルモノヲ云フ其議員數ハ掲載スルニ及ハス
 一會數ハ開會ノ度數ニアラス設置ノ數ナリ
 一議員ハ選舉權ヲ有スル者ノ内ニ包含スルモノトス
 一本表ハ十二月三十一日現在ヲ以テ調査スヘシ
 但選舉權ヲ有スル者ノ調ハ十二月三十一日ノ現在ニ據リ難キモノハ最近調査ノ現在數ヲ掲ケ其年月日ヲ説明スヘシ

第四表

諸車

何(郡)何(市)何(町)何(村)役場所

乘馬	用荷	積	人力車		牛車	其他	合計
			一人乘	二人乘			
一匹立	二匹立以上	一匹立	三匹立以上				

收自 明至	前 期	積 立	割 賦
入治 明何	乘 客	員 賞	金
入何 治何	物 賃	與 金	金
金何 年何	々	後 期	金
(月何 何年)	計	線 越	計
		金	

一本表ハ市内ニ在ル會社ニ就テハ市役所ニ於テ其他ハ郡役所ニ於テ會社別ニ調査シ毎年五月三十
 一日限リ縣廳ニ報告スヘシ
 一本表決算時期會社ニ依リテ會計年度或ハ曆年或ハ特ニ定メタルモノハ總テ其會社ノ決算期ニ依
 リテ記載スヘシ次表モ之ニ同シ
 一株式會社ニアラスシテ合資及合名會社ナルトキハ株主人員ノ項ハ出資社員數ト改ムヘシ
 一株主人員ヨリ積立金ニ至ル五項ハ年末(年度末)ノ現數ヲ掲クヘシ
 一上欄ノ積立金ハ創業ヨリノ積算額ニ其年(年度)ノ積立金ヲ合算シタルモノヲ掲クヘシ
 一興業費ハ鐵道線路車輛馬匹土地家屋等ノ如キ建設ノ爲メ要セシ費目ヲ總稱スルモノニシテ創業
 以來ノ總額ヲ記入スヘシ
 但シ同費中へ消却セシ金額アラハ表尾ニ其金額ヲ明記スヘシ
 一收入及支出金ハ何年何月ヨリ何年何月ニ至ル一ケ年間ノ總數ヲ掲クヘシ
 同上ノ二
 明治何年何月末日調

區 域 線 路 長 線 路 延 長

總 計			
--------	--	--	--

表中區域ノ欄ニハ會社ニ於テ定メタル停車場ヲ記載スヘシ
 乘客數 (一年又ハ一年度間) 車輛 (年末又ハ年度末現數)
 經過里數 (一年又ハ一年度間) 馬 匹 (年末又ハ年度末現數)
 第七表

何々電燈(株式、合資、合名)會社ノ一 明治何何年分 何(郡市)役所

本 支 局 數	局 數	興 業 費 (全 上)
株 主 人 數	員 數	
資 本 金	收 入 金	前 期 繰 越 金
積 立 金	各 街 燈 火 料	街 燈 火 料
	何 各 戶 火 料	何 々 料
	合 計	計

支明自	消費石炭代	積立賦金
出治明	發電所消耗費	後期賞與金
金何年何月	諸給料	何後期賞與金
合	計	計
差引	益	金
合	計	計

一本表ハ市内ニ在ル會社ニ就テハ市役所ニ於テ其他ハ郡役所ニ於テ會社別ニ調査シ毎年五月三十日限リ縣廳ニ報告スヘシ

一本表決算時期會社ニ依リテ會計年度或ハ曆年或ハ特ニ定メタルモノハ總テ其會社ノ決算期ニ依リテ記載スヘシ次表モ之ニ同シ

一株式會社ニアラスシテ合資及合名會社ナルトキハ株主人員ノ項ハ出資社員ト改ムヘシ

一本局數ヨリ積立金ニ至ル七項ハ年末(年度末)ノ現數ヲ掲クヘシ

一上欄ノ積立金ハ創業ヨリノ積算額ニ其年(年度)ノ積立金ヲ合算シタルモノヲ掲クヘシ

一興業費ハ創業以來總額ヲ記入スヘシ

但シ同費中へ消却セシ金額アラハ表尾ニ其金額ヲ明記スヘシ

一收入及支出金ハ何年何月ヨリ何年何月ニ至ル一ケ年間ノ總數ヲ掲クヘシ

明治何年何月末日調

市	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
郡	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
線	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
路	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
長	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
線	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
條	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
長	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
街	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
燈	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
基	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
數	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
各	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
戶	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
數	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
燈	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
所	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
數	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
點	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
火	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
用	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
料	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上

總	計	計	計	計	計
計	計	計	計	計	計

表中点火料ハ一年又ハ一年度間ノ總數ヲ記載スヘシ

消費石炭數量 (一年又ハ一年度間)

●群馬縣規第二十五號 明治十七年九月十六日 各課 警察本署 監獄本署

內務省本年乙第三十六號達府縣統計書樣式ニ照準自今毎年本縣統計書ヲ編纂出版スヘクニ付右樣式ニ倣ヒ資料取調毎年四月三十日限編輯係へ送致スヘシ尤本年ニ限り來ル十一月二十日迄ニ取調送致スヘシ

但樣式ハ編輯係ヨリ配布ス

右相達候事

●群馬縣規第十八號 明治十八年三月五日 各課 警察本部

本縣統計書編纂資料ノ其課署ニ係ルモノ取調ノ爲メ自今二名或ハ一名ノ主任ヲ置キ常ニ資料採集ニ注意シ時期ヲ誤ラサル様負擔セシムヘシ

但主任ノ姓名ハ這回ハ勿論變更ノ都度庶務課編輯係へ通報スル義ト心得ヘシ

右相達候事

●群馬縣規第十八號 (本文全七)

監獄署

報 告

●群馬縣訓令甲第百十九號 明治二十五年十月十九日 郡役所 市役所 町村役場
明治二十二年三月訓令甲第二十九號本縣報告例別冊之通り改正ス(報告例ハ追録中ニ登載セリ)
●群馬縣訓令丙第十八號 明治二十一年五月九日

「第一部」 「第二部」 警察本部 「收稅部」
明治二十年六月第三十一號達地方事務並ニ管内景况報告調左之通改正候條右ニ據リ調査シ毎年一月三十日迄調査「第一部文書課」へ送附スヘシ(二十一年丙第四十五號ニテ改正)
議 事

縣會「常置委員會」ニ關スル事項 「地方稅」支出收入並「備荒儲蓄金」ノ收支景况
町村會「聯合町村會」「水利土功會」ニ關スル事項及町村費
「地方稅」經濟ニ屬スル財產及町村有ニ屬スル財產増減

文 書
官制ニ關スル規則ノ制定變更令達發布ニ關スル事項 文書收受發送
官吏ノ現員及叙任轉免
叙勳恩給及褒章

農 商
養蠶ノ景况 生絲織物ノ市况及産額
農工商業ノ進歩改良及盛衰 農談會及商工會ニ關スル事項
貨幣ノ融通 鑛物ニ關スル事項

牧場ノ景况 水旱風雹虫害其他諸作物被害景况
官民有林ノ改良及植樹 官林又ハ官有地拂下及貸渡シ事項
水陸運輸ニ關スル事項 恤窮棄兒及行旅死亡人ニ關スル事項

庶 務
「戶籍」 官有地ノ下附拂下又ハ貸渡シ事項
社寺興廢及報告ニ關スル事項 地籍及地圖ニ關スル事項
公用土地ノ買上々地寄附其他官有地ノ管理又ハ地種目變換等ニ關スル事項

土 木
土木工費 河川堤防道路橋梁等ノ工事ニ關スル事項
廳舎建築及修繕ニ關スル事項 改修又ハ開鑿工事ニ關スル事項
上水敷設

兵 事
徵兵 徵發物件戒嚴令ニ關スル事項
演習行軍其他兵事ニ關スル事項

學 務
公立學校幼稚園書籍館ニ關スル事項 教育會及教員講習會ニ關スル事項
學事進歩改良及盛衰其他教育ニ關スル事項
監 獄

文書收受發送

特赦假出獄

囚徒増減

衛生

傳染病及種痘ニ關スル事項

地方衛生會及衛生諸會

會計

縣廳經費

諸貸下金ニ關スル事項

警察本部

上文書收受發送

警察廳舎建築修繕

巡查教習ニ關スル事項

賭博犯者及強盜

政社交ハ政談演説ニ關スル事項

賦(收稅部分ハ消滅ニ付省略)

本縣警察ニ關スル事項

一此ノ報告ハ「明治十九年内務省報告例半年報第三項」ニ據リ「半々年間」施行シタル事務ノ要領ヲ報告スベキモノトス其報告書中「前半々年」ト進退消長如何ノ參考ヲ要スルモノハ之レカ増減比

監獄管理ニ關スル諸規則

懲罰減免及假免

囚徒課役

避病院及消毒所ニ關スル事項

公私立病院其他衛生ニ關スル事項

會計事項

公債

警察上取締規則

警察署及官吏

民情風俗ノ變遷

新聞紙雜誌

人民集合其他警察ニ關スル事項

較テ示シ事實ヲ詳細掲クヘシ

一此ノ報告ハ事務執行ノ要領ヲ掲クト雖モ新設ニ係ル事項ハ渾テ其事實ヲ詳細掲クヘシ

一報告中金額ハ四位ニ反別ハ四位ニ石ハ斗位ニ數量ハ斤又ハ十位ニ止ムヘシ

一報告ノ項目ハ其梗概ヲ掲ケタルモノナレハ必要事件ハ追次掲載スヘシ

一前各項ニ掲ケタル外法律命令又ハ縣令等新法實施後ノ結果及ヒ其景況詳悉調査シ報告スヘシ

●群馬縣訓令甲第五十八號 明治三十二年七月四日 郡役所 市役所 町村役場

災害報告表式ヲ制定シ報告手續左ノ通相定ム

但不令ニ抵觸スル從前ノ災害報告書ハ爾今之ヲ廢止ス

報告手續

一 郡長ハ災害アリタルコトヲ知得シタルトキハ其ノ種別區域被害物件被害程度(見込)ヲ電話又

ハ電報ニテ即報スヘシ

二 災害アリタルトキハ別紙表式ニ依リ第一第二第三第九ノ各表ハ最モ迅速ニ調査シ第一報トシ

テ市役所町村役場ヨリ直ニ縣廳ヘ報告シ併セテ其ノ報告シタルコトヲ郡長ニ報告スヘシ

三 第一報告後七日以内ニ市町村ニ於テハ精確ノ調査ヲ遂ケ第二報トシテ別紙第一表ヨリ第九

表ニ至ル各表式ニ依リ市ハ直ニ町村ハ郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ報告スヘシ

四 郡役所ニ於テ前項第二報ノ報告ヲ受理シタルトキハ各町村及各河川ヲ一表ニ統計シ報告スヘ

シ

五 第十ヨリ第十四ニ至ル各表ノ調査終了後市ハ直チニ町村ハ郡役所ヘ報告シ郡役所ハ各町村ヲ

一表ニ統計シ縣廳ヘ報告スヘシ

六 郡市役所、町村役場ニ於テハ常ニ本訓令ニ規定セル報告式ノ用紙ヲ調製備ヘ置キ災害報告ノ際直ニ製表報告シ得ル様取扱フヘシ

第一 暴風雨又ハ何々被害取調表 (何年何月何日ノ災害ニ屬スル分)

郡市町村別	人		畜		家		屋		水
	死	傷	不明	死	潰	潰	潰	潰	
何市	人	人	人	頭	戸	戸	戸	戸	戸
何町村									
再掲									
何川									
何川									
何川									

摘要

備考

- 一 市、町、村ノ被害ト其ノ市、町、村内一河川ノ被害ト同一ナルトキハ河川ノ部ニハ河川名ノミヲ記シ被害員數ヲ記入スルニ及ハス
- 二 家屋欄中住家ハ右傍ヘ社寺學校土藏納屋等ハ左傍ヘ記入ノ事但河川ノ欄ヘハ同上ノ區別記入ヲ要セス
- 三 數回ノ災害ニ係ルモノハ毎回ニ就キ各別ニ製表スルヲ要ス
- 四 被害員數不詳ノ分ハ其欄中未詳ノ二字ヲ記入スルヲ要ス
- 五 河川ニ在リテハ其河川ノ爲メ被害アリタル大字名ヲ摘要欄内ニ記入スヘシ
- 六 河川ノ被害ハ市、町、村被害ノ内譯テ記載スルニアラス單ニ河川ニ關係セル死傷流亡等ヲ掲クヘシ例ヘハ市、町、村欄ニハ山崩其他ニ依リ死亡シタルモノト河川ニテ溺死等ノモノヲ併セテ河川ノ分ニハ更ラニ溺死等ノモノ、ハミテ掲クベシ以下倣之

第二 暴風雨又ハ何々被害取調表 (何年何月何日ノ災害ニ屬スル分)

郡市町村別	堤		防		川		除	
	決	潰	計	計	流	失	破	損
何市	所箇	長延	所箇	長延	所箇	長延	所箇	長延
何町村	所箇	長延	所箇	長延	所箇	長延	所箇	長延
何町村	所箇	長延	所箇	長延	所箇	長延	所箇	長延

- 三 被害員數不詳ノ分ハ其欄中未詳ノ二字ヲ記入スルヲ要ス
- 四 河川ニ在リテハ其河川ノ爲メ被害アリタル大字名ヲ摘要欄内ニ記入スヘシ
- 五 箇所及延長ノ欄中縣費支辨ノ分ハ右傍ヘ町村費支辨ノ分ハ左傍ヘ記入スヘシ其ノ填記スヘキモノナキトキハ必ス「」ヲ施スヘシ
- 六 道路橋梁ノ損失價額ハ市町村費負擔修繕再築費等ヲ記入スヘシ

第四

暴風雨又ハ何々被害取調表

(何年何月何日ノ災害ニ屬スル分)

種別	田	畑	宅	地	山林及原野	雜種地	計	何市	何町村	再掲 何川	何川	損失	
												別	別
流	全	全	全	全	全	全	全					別	別
埋	全	全	全	全	全	全	全					別	別
没	全	全	全	全	全	全	全					別	別
水	全	全	全	全	全	全	全					別	別
流	全	全	全	全	全	全	全					別	別
失	全	全	全	全	全	全	全					別	別
埋	全	全	全	全	全	全	全					別	別
没	全	全	全	全	全	全	全					別	別
水	全	全	全	全	全	全	全					別	別
流	全	全	全	全	全	全	全					別	別
失	全	全	全	全	全	全	全					別	別
埋	全	全	全	全	全	全	全					別	別
没	全	全	全	全	全	全	全					別	別
浸	全	全	全	全	全	全	全					別	別
水	全	全	全	全	全	全	全					別	別

摘要

備考

- 一 市、町、村ノ被害ト其ノ市、町、村内一河川ノ被害ト同一ナルトキハ河川ノ部ニハ河川名ノミヲ記シ被害員數ヲ記入スルニ及ハス
- 二 數回ノ災害ニ係ルモノハ毎回ニ就キ各別ニ製表スルヲ要ス
- 三 被害員數不詳ノ分ハ其欄中未詳ノ二字ヲ記入スルヲ要ス
- 四 河川ニ在リテハ其河川ノ爲メ被害アリタル大字名ヲ摘要欄内ニ記入スヘシ

第五

暴風雨又ハ何々被害取調表

(何年何月何日ノ災害ニ屬スル分)

種別	用悪水路及開樋	溜池井堰溝渠	堤堰電柱	山崩	岸破	雜種	何市	何町村	流		失		破		損	
									所	間	所	間	所	間	所	間
流	全	全	全	全	全	全			別	別	別	別	別	別	別	別
延	全	全	全	全	全	全			別	別	別	別	別	別	別	別
長	全	全	全	全	全	全			別	別	別	別	別	別	別	別
損	全	全	全	全	全	全			別	別	別	別	別	別	別	別
失	全	全	全	全	全	全			別	別	別	別	別	別	別	別
破	全	全	全	全	全	全			別	別	別	別	別	別	別	別
損	全	全	全	全	全	全			別	別	別	別	別	別	別	別

市町村名	山林總反別	山林植付反別	植付反別中被害反別	植付反別ニ對スル災害反別割合	災害平均歩合	被害見積價格

摘要

備考

- 一 發火ノ原因消防ノ模様並各樹種災害ノ模様ヲ摘要欄内ヘ詳記スヘシ
- 二 數回ノ災害ニ係ルモノハ毎回ニ就キ各別ニ製表スルヲ要ス
- 三 被害員數等不詳ノ分ハ其欄中未詳ノ二字ヲ記入スルヲ要ス
- 四 合計ノ欄植付反別ニ對スル災害反別割合ハ山林植付總反別ヲ以テ被害總反別ヲ除シタルモノナリ

國稅收納

群馬縣乙第百六十五號 明治十七年十二月二十七日

「戸長」役場

地租ニ關スル諸帳簿樣式別冊ノ通相定ム

(別冊)

- 一 土地 臺帳 (第壹號樣式)
 - 是ハ土地ノ沿革及ヒ反別地價地租等ヲ明ニスルノ基礎ニ供フ
 - 一 土地所有者名寄帳 (第二號樣式) (改正ニ付略)
 - 一 地租延納年賦金臺帳 (第三號樣式)
 - 是ハ土地一筆限負擔ノ延納高ヲ所有者一人限リ列記シ當初ノ原額及年々ノ上納額ヲ明ニス
 - 一 反別地價帳
 - 一 地價圖
 - 一 野取圖
- 右帳圖ハ稱呼ノ如何ニ拘ハラズ地租改正ノ際調製セシモノヲ指ス目錄ヲ作り其儘是ヲ保存ス
- 一 開墾歛下年期ヲ請求スル時
 - 一 荒地免租年期ヲ請求スル時
 - 一 地目變換ニ付地價ノ査定ヲ請求スル時
 - 一 開墾歛下年期明ニ付地價ノ査定ヲ請求スル時
 - 一 荒地免租年期明ニ付地價ノ査定ヲ請求スル時
 - 一 土地分 裂
- 右六項其他ニ付土地丈量ノ際製セシ野取繪圖及ヒ地形ヲ畫キシ畫圖

年度地目	年七								
	合計	計	何々	溜池	社郷地村	計	何々	原野	山林
一等級									
反別									
二等級									
反別									
三等級									
反別									
別									

其二 地位等級譯之部

(戊號) 第一號土地臺帳(屬ス)

(合併分裂ニヨリ等級ニ異動ヲ生シ舊等級ヲ保ツ能ハサルモノハ末區ニ一括登記スヘシ)

年	七							十		
	何々	何々	何々	畑	田	田	田	田	田	田
	何々	何々	何々	何	一	十	七	四	四	等
	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等
	何	何	裂合併	五	二	何	八	五	五	等
	、	、	分	等	等	等	等	等	等	等
	、	、	、	何	三	裂合併	九	六	六	等
	、	、	、	等	等	分	等	等	等	等

◎群馬縣乙第十號 明治十九年一月二十日 「戸長」役場
 明治十七年(十二月)本縣乙第百六十五號達土地臺帳ニハ免租ニ係ル土地(全筆ノ荒地、學校敷地、民有斃馬捨場、同火葬場、墓地ノ類)ヲ地番順ニ記入スルハ勿論ナリト雖名寄帳ニハ記入スルニ及ハス

●群馬縣訓令甲第九十二號 明治二十四年八月十日 町村役場
 土地分裂又ハ合併ヲ届出ツルモノアルトキハ反別地價地租等ヲ調査シ土地臺帳及名寄帳ノ訂正ヲ了シ然ル后チ進達スヘシ

●群馬縣訓令甲第四十三號 明治二十七年五月二十一日 郡役所 市役所 「收稅署」 町村役場

明治二十七年二月「大藏省訓令第十一號」ニ依リ市町村ニ於テ調製スヘキ國稅金徵收ニ關スル帳簿及其他ノ様式別冊ノ通相定ム

國稅金徵收ニ關スル帳簿及其他ノ様式

地 租 名 寄 帳

何 市 役 所
 何 郡 何 町 (村) 役 場

凡 例

- 一 田、畑、郡村宅地、市街宅地、雜地租ノ五科目ニ區分シ甲號書式ニ倣ヒ調製シ納期前現在額ヲ記入更ニ乙號式ニヨリ人別科目計ヲ付スヘシ
- 二 土地所有者ニシテ其土地所在ト同府縣内ノモノハ其府縣名同郡市内ノモノハ其郡市名同町村ノモノハ其町村名ノ記入ヲ省略スヘシ
- 三 土地所有者ニシテ其地所在ト町村役場所轄外ニ住居スルモノハ「明治十八年六月本縣甲第三十六號」ニヨリ代納人ヲ爲届出之ヲ所有ノ傍ラニ朱書スヘシ

四 家督相續若クハ遺產相續及改姓名又ハ代納人交換等ノトキハ便宜之ヲ更正スヘシ
 五 地目ノ欄ハ雜地租中ノ每地目ヲ記入シ其他ハ記入ヲ省略スヘシ
 六 所有筆數ノ僅少ナルモノハ甲號地目ノ標記及乙號様式ヲ省略シ甲號式中地目欄内へ每地目ヲ記入シ現在額ヲ徵收科目ニ分チ掲載スルモ妨ケナシ
 七 賣買及質入質取其他異動ニ係ルモノ、増ハ墨書減ハ朱書スヘシ
 甲 號 ○印ハ朱書

及現在動額	大字		地目	段別	地價	地租	摘	要
	番	字						
荒地成					〇八〇〇	七三〇〇	一八〇〇	何年何月何日許可 何年迄何ケ年
荒地起返					九〇〇〇	八一〇〇〇	二〇三五〇	何年何月何日許可
					一〇〇〇〇	九〇〇〇〇	三三五〇〇	

何府縣何郡市町村大字何番地
 何 之 誰
 代納人大字何々何番地 何 之 誰

於テハ賣藥ノ例ニ準シ税目毎ニ一人別ニ分テ調製スルモ妨ナシ

賣藥

大字番地

氏

名

方名	許可年月日	廢業年月日	摘	要

記簿凡例

- 第一號收納簿
- 一 納期ノ一定スル國税金ハ名寄帳及一人別徵稅元帳又ハ「徵稅令書」へ添付スル一人別仕譯書ヨリ①印ノ如ク移記シ其合計ヲ「徵稅令書」金額ト對照シ差違ナキヲ認メタル後「徵稅傳令書」ヲ作リ②印ノ如ク市町村長ノ役印ヲ以テ割印シ之ヲ發付スルモノトス
 - 二 増額ノ爲メ追加「徵稅令書」ヲ受ケタルトキハ③印ノ如ク記載スヘシ
但其「徵稅傳令書」ヲ作り割印ヲ爲スハ前項ニ同シ
 - 三 減額ノ達ヲ受ケタルトキハ④印ノ如ク記載シ其「徵稅傳令書」ヲ訂正スルモノトス
 - 四 國税金ヲ領收シタルトキハ⑤印ノ如ク記載シ收入役檢印スルモノトス
 - 五 滯納者ノ報告ヲ爲シタルトキハ一人別ニ⑥印ノ如ク朱記スルモノトス

第二號隨時收入國稅收納簿

- 一 隨時收入ニ係ル國稅ノ「徵稅令書」ヲ受ケタルトキハ①印ノ如ク記載スヘシ
但其「徵稅傳令書」ヲ作り割印ヲ爲スハ第一號ニ同シ
- 二 國税金ヲ領收シタルトキハ②印ノ如ク記載スルモノトス

第三號國稅金收納集計簿

- 一 本簿ハ日々收納簿へ登記セシ金員ヲ集計シテ記載スルモノトス
- 二 「徵稅傳令書」ヲ發セシトキハ③印ノ如ク記載シ増額ノ爲メ追加「徵稅傳令書」ヲ發セシトキハ④印ノ如ク記載シ減額ノ達ヲ受ケタルトキハ⑤印ノ如ク記載シ其金額ハ納額ノ區へ朱記スルモノトス
- 三 日々領收スル國税金ハ⑥印ノ如ク記載シ納額ヨリ領收額ヲ扣除セシ差額ヲ未納ノ區へ記入スルモノトス
- 四 國税金ヲ金庫へ納付スルトキハ⑦印ノ如ク記載シ其金額ハ領收額ノ區へ朱記スルモノトス
- 五 滯納報告ヲ爲シタルトキハ⑧印ノ如ク記載シ其金額ハ納額ノ區へ朱記スルモノトス

第一號

明治何年度

國稅金收納簿

何市役所

何郡

何町(村)役場

郡行政 國稅收納

備考

- 一 畑租、郡村宅地、雑地租ハ第一様式田租ハ第二様式市街宅地租、所得税ハ第三様式ニ據ルモ
ノトス
- 二 「煙草、菓子」賣藥營業稅「松稅、車稅、牛馬賣買免許稅」ハ第三様式ニ據ル
但前半年分後半年分ヲ後半年分前半年分トス
- 三 「菓子製造稅」ハ第三様式ニ依ル前半年分後半年分ヲ第一期第二期トス

第一	畑租	郡村宅地租	雑地租	計	氏名
第一	金何程 ^① 〔收入役印以下皆同〕	金何程 ^①	金何程 ^①	〔第何號〕 〔金何程 ^① 〕 何月何日領收 ^①	
第二	金何程 ^① 〔増〕	金何程 ^①	金何程 ^①	〔第何號〕 〔金何程 ^① 〕 〔増〕 計金何程 ^① 何月何日領收 ^①	

第三	前年第六期	第三期	第四期	第五期	氏名
	第二	第一	第二	第一	
	金何程 ^① 〔減〕 内金何程 ^① 殘金何程 ^①	金何程 ^①	金何程 ^①	〔第何號〕 〔金何程 ^① 〕 〔減〕 何月何日領收 ^①	
	金何程 ^①	金何程 ^①	金何程 ^①	〔第何號〕 〔金何程 ^① 〕	
	金何程 ^①	金何程 ^①	〔第何號〕 〔金何程 ^① 〕 何月何日滯納報告 ^①	〔第何號〕 〔金何程 ^① 〕	
	金何程 ^①	金何程 ^①	〔第何號〕 〔金何程 ^① 〕	〔第何號〕 〔金何程 ^① 〕	

過誤納ノ事由	科目	納期	金額	納人	整理年月日
					下戻請求 [在拂命令]又ハ [下戻金]受領 現金交付

第三號
明治何年度

國稅金收納集計簿

(此帳簿ハ每納期各自ニ區分シテ見出テ付スヘシ)
但隨時收入ノ項毎ニ口取ヲナスモノトス

何郡市役所
何町(村)役場

第一期 畑 租

年月日	摘要	納額	領收額	未納
何月何日	「傳令書」發付	金①何程〇		金何程
何月何日	領收濟		金②何程〇	金何程

第二期 畑 租

年月日	摘要	納額	領收額	未納
何月何日	「傳令書」發付	金①何程〇		金何程
何月何日	領收濟		金②何程〇	金何程
何月何日	増額ノ分「傳令書」發付	金③何程〇		金何程
何月何日	領收濟		金④何程〇	金何程

合 計							
年 月 日	摘 要	納 額	領 收 額	未 納	何 月 何 日	何 月 何 日	何 月 何 日
	「傳令書」發付	金 ^① 何程○		金何程	何月何日	何月何日	何月何日
	領收濟		金 ^② 何程○	金何程	何月何日	何月何日	何月何日
	增額ノ分「傳令書」發付	金 ^③ 何程○		金何程	何月何日	何月何日	何月何日
	「傳令書」發付	金 ^④ 何程○		金何程	何月何日	何月何日	何月何日
	領收濟		金 ^⑤ 何程○	金何程	何月何日	何月何日	何月何日
	領收濟		金 ^⑥ 何程○	金何程	何月何日	何月何日	何月何日
	減額達書	金 ^⑦ 何程○		金何程	何月何日	何月何日	何月何日
	何人分滯納報告ス	金 ^⑧ 何程○		金何程	何月何日	何月何日	何月何日

隨 時 收 入				地 租	
年 月 日	摘 要	納 額	領 收 額	未 納	何 月 何 日
	「傳令書」發付	金 ^① 何程○		金何程	何月何日
	領收濟		金 ^② 何程○	金何程	何月何日
	同		金 ^③ 何程○	完 結	何月何日
	何金庫へ納付	金 ^④ 何程○		金何程	何月何日
	何金庫へ納付		金 ^⑤ 何程○	完 納	何月何日
	何金庫へ納付		金 ^⑥ 何程○	完 納	何月何日

全 廢ノ部		許可月日	鑑札番號	藥名	製造人又住所氏名	行商人住所氏名

御 料 地

●群馬縣告示第三百十二號 明治三十一年十二月二十一日
御料局前橋事務所本月三十一日限り廢止シ其管轄區域ヲ御料局宇都宮事務所ノ所管トセララル

●群馬縣告示第十五號 明治三十二年一月二十六日
御料局宇都宮事務所ヲ栃木縣宇都宮市塙田町三百六十番四百壹番地ニ設置セラレ候條御料地ニ關スル諸願伺届ハ左ノ宛名ヲ以テ該所ニ差出スヘシ(宛名省略)

●群馬縣告示第十三號 明治三十一年一月十四日

今般御料局前橋事務所ニ於テ物件競争拂下手續書ヲ制定セラレタルニ付該手續書ヲ閱覽セントスルモノハ本縣内務部又ハ郡市役所ニ就キ承合スヘシ

●群馬縣訓令乙第七百四號 明治三十三年八月三日 郡役所 町村役場
御料局宇都宮事務所ニ於テ今般御料地境界踏査施行セラルヘキニ依リ郡界ニ係ル分ハ郡長、町村、町村大字界及里道ニ係ル分ハ町村長請求ニ應シ立會スヘク右ノ外國界、國縣道、河川界ヲモ踏査(本縣官立會ノ管)セラルヘキニ付調査上可成便宜ヲ與ヘ候様取計マヘシ

●群馬縣告示第七十七號 明治三十一年三月八日
東京大林區署所管小林區署名稱區域管内ニ於ケル分左ノ通り

富岡小林區署管轄區域
北甘樂郡各町村 多野郡ノ内上野村中里村神川村美原村鬼石町三波川村口野村
高崎小林區署管轄區域
群馬郡各町村 多野郡内(上野村中里村神川村美原村鬼石町三波川村日野村ヲ除ク)各町村 吾妻郡ノ内高山村
横川小林區署管轄區域
碓氷郡内(烏淵村ヲ除ク)各町村
中ノ條小林區署管轄區域
吾妻郡内(高山村ヲ除ク)各町村 碓氷郡ノ内烏淵村
館林小林區署管轄區域
邑樂郡各町村 新田郡各町村 山田郡内(福岡村梅山村川内村桐生町大間々町相生村ヲ除ク)各町村

花輪小林區署管轄區域

勢多郡ノ内新里村東村黒保根村 山田郡ノ内福岡村川内村梅田村相生村桐生町大間々町

前橋小林區署管轄區域

前橋市 勢多郡内(新里村東村黒保根村ヲ除ク)各村 佐波郡各町村

沼田小林區署管轄區域

沼田小林區署管轄區域

利根郡内(東村赤城根村)各村町

利根郡内(東村赤城根村)各村町

群馬縣告示第三十五號

明治二十二年六月二十日

一受持區前橋治安裁判所管内

一役場位置東群馬郡前橋町大字曲輪町乙第九十四番地乙地

一明治二十二年六月十七日開場

(關久右衛門ハ辭職ニ付省略)

右ノ如シ開場公證事務取扱候旨其筋ヨリ通知アリタリ

群馬縣告示第二百一十一號 明治三十三年七月二十七日

高崎區裁判所管内公證事務取扱ノ件ニ關シ今般左ノ通前橋地方裁判所ヨリ通知アリタリ

公證人 高橋 賢

役場位置高崎市宮元町十五番地

群馬縣告示第九十七號 明治二十年十二月二十三日

昨明治十九年七月勅令第五十一號ニ據リ來ル二十一年一月一日以後本邦一般ノ標準時ヲ用ヒラレ

候ニ付テハ從前ノ通時刻區々ニ相成候テハ不都合ニ付來ル一月一日午前零時ニ於テ地理局ヨリ全

國各電信局へ標準時ノ初起ヲ通報シ爾後正午十二時ヨトニ右同様其時刻ヲ通報相成候條一般注意

スヘシ

群馬縣達第二百二十七號 明治二十年五月二十一日

郵便物受取人若クハ差山人居所不分明ナルトキハ郵便電信局又ハ郵便局ヨリ其地戶長役場ノ取調

ヲ乞フ儀モ可有之ニ付其際ハ故障ナク其求ニ應スヘシ

群馬縣乙第三號 明治十五年一月十六日

大坂府巡查奉職ノ者父母疾病ニ付歸省又ハ管勤休暇等ニテ旅行中事故有之飯署延期願出ルトキハ

其地警察署又ハ郡區長戶長ノ證明ヲ可受旨相達候趣ヲ以テ同府ヨリ照會ノ次第モ有之候條爾後

右等申出ノ者有之候ハ、篤ト取調事實相違無之ニ於テハ右證明書附致スヘシ此旨相達候事

(全年丙第五號及戊第四號ハ本文ト全ニ付省略)

群馬縣乙第八十八號 明治十七年八月七日

靜岡縣巡查ニシテ父母疾病ニ罹リ歸省願又ハ歸省中日限滿ントスル際父母死去シ滞在セントスル

トキハ醫師ノ診斷書若シハ親族報知書等へ所屬戶長ノ證明書ヲ添付スヘキ旨該縣ヨリ照會越候條

該縣巡查ニシテ證明ヲ乞フ者有之節ハ篤ト取調事實相違無之ニ於テハ右證明書付與スヘシ

(全年丙第四十八號及戊第四十六號ハ本文ト全ニ付省略)

群馬縣訓令甲第二十二號 明治二十年十月二十一日

警察署 警察分署

廣島縣巡查ニシテ實養父母ノ疾病看護ノ爲メ歸省ヲ出願スルモノ及ヒ歸省並ニ休暇旅行中天災事變ニ逢ヒ若クハ自己病痼ニ罹リ又ハ實養父母ノ疾病危篤ナルニヨリ期限内歸署スル能ハスシテ延期ヲ出願スルモノハ其地警察本分署ノ證明ヲ受クヘキ等ニ付自今右證書ヲ請求スルモノアルトキハ事實ヲ調査シ之ヲ付與ス可シ

◎群馬縣達第五十九號 明治二十年二月二十六日

警察署 警察分署

左ノ各縣巡查奉職ノ者其父母重病ニ罹リ他ニ看護者ナク又ハ不慮ノ變災ニ依リ一家ヲ保持シ難キ場合ニ於テ辭職ヲ請フ時ハ本籍地所轄ノ警察署又ハ分署ノ證明書ヲ添フヘキ等ニ付自今右證明書ヲ請求スル者有之節ハ篤ト其ノ事實ヲ按シ證明書ヲ付與スヘシ

◎群馬縣達第六十號 明治二十年二月二十六日

「戸長」役場

左ノ「各」縣巡查奉職志願ノ者ハ別紙書式ノ身分證明書ヲ添へ出願ス可キ等ニ付若シ其部内在籍者ニシテ右證明書へ奥印ヲ請フモノアル時ハ篤ト審査ノ上奥印ス可シ

福島縣

(別紙)

身分證明書

群馬縣上野國何郡何町(村)何番地
士族(平民)戸主(何誰)何男「兄弟」
「養子」「伯叔父」「甥」「附籍」「同居」
氏 名

何年何月

生年月日 年號(干支)何年何月何日生

兵役 關係アラハ其兵種ヲ記スヘシ
罰科 有無アラハ其罪名刑期等ヲ詳記スヘシ
身代限 有無アラハ其義務ヲ終ヘタルヤ否ヤヲ記スヘシ

年號年月日 右ノ通相違無之ニ付奥印候也

氏 名 實印

群馬縣何郡何町(村)戸長

氏 名 印

◎群馬縣訓令甲第百二十二號 明治二十四年十二月十日

町村役場

縣下在籍者ニシテ警視廳看守志願ノ者身元證明ヲ請フトキハ事實ヲ調査シ明治二十四年(十一月)訓令甲第百十六號ノ書式ニ據リ證明書付與ス可シ

参照

◎群馬縣訓令甲第百十六號 明治二十四年十一月十二日

町村役場

縣下在籍者ニシテ警視廳巡查志願ノ者身元證明ヲ請フトキハ事實ヲ調査シ左式ニ據リ證明書付與ス可シ

但明治十七年四月乙第三十九號達ハ廢ス

身元證明書

氏 名

原

籍

群馬縣何郡何町村何番地又ハ何某方同居

身分	華士族又ハ平民戸主或ハ何某何男兄弟
生年月日	年月日生
家資分散又ハ身代限リ	無 但シ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ハ復權ヲ得タルヤ否又從前身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ義務ノ辨償ヲ終リタルヤ否ヤヲ記スヘシ
兵役	國民軍或ハ現役歸休、豫備後備等 但シ徵集猶豫延期免除等ニ係ルモノハ其理由ヲ記スヘシ

右證明候也

年月日

群馬縣何郡何町村長 氏

名印

●群馬縣訓令第四百十三號

明治二十五年九月十六日

市役所 町村役場

石川縣巡查看守及其遺族ニテ巡查看守給助例ニ依リ年金ヲ受クヘキ者管下在籍或ハ寄留中ニシテ給助金請求書ニ市町村長ノ與書申立候節ハ給助令(明治十五年七月十七日太政官達第四十二號)第五條第一項並ニ第八條第九條ニ相當スル廉無之ヤ取調ノ上與書シ本人ヘ交付ス可シ

●群馬縣訓令第九十六號

明治二十八年九月三十日

市役所 町村役場

北海道集治監ニ於テ今般看守給助例施行細則實施候旨申來候ニ付管下人民ニシテ該給助ニ關シ市町村長ノ證明ヲ出願候モノ有之節ハ相當ノ證明ヲ與テヘシ

●群馬縣訓令第四百十七號

明年二十九九月一日

市役所 町村役場

大分縣ニ於テ本年九月ヨリ巡查看守給助法規則施行ニ付管下住民ニシテ該給助ニ關シ出願スルモノアルトキハ相當ノ證明ヲ與テヘシ

●群馬縣訓令第四百十號

明治三十三年四月十三日

郡役所 市役所 町村役場

千葉縣ニ於テ巡查看守給助例施行順序本月十三日日本縣告示第五十五號ノ通改定ニ付右規定ニ依リ給助ヲ出願スル者ニハ相當證明ヲ與テヘシ

●群馬縣告示第五十五號

明治三十三年四月十三日

千葉縣ニ於テ巡查看守給助例施行順序左記ノ通改定セリ

巡查看守給助例施行順序

第一條 巡查看守給助例ニ依リ給助ヲ受クヘキ者ハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 年金ヲ受クヘキ者(退職及傷痍者並ニ寡婦孤兒)ハ別紙第一(一)(二)號書式ノ願書ニ郡區長及

六 市町村長ノ與書證印ヲ受ク他府縣在籍者ニ在リテハ其ノ府縣應ヲ經テ本縣應ヘ出願スヘシ

二 一時給助金ヲ受クヘキ者、祖父母、父母、兄弟、姉妹並ニ孤兒滿二十歲以上癡篤疾)ハ別紙

第三(三)(四)號書式ノ願書ニ親族二名(親族ナキトキハ其ノ事由ヲ記スヘシ)ノ連署ヲ以テ郡

區長及市町村長ノ與書證印ヲ受ク他府縣在籍者ニ在リテハ其ノ府縣應ヲ經テ本縣應ヘ出願

スヘシ

三 療治料ヲ受クヘキ者ハ(會計年度ノ跨ルモノハ年度毎ニ)其ノ日數ト金額トヲ願書ニ詳記シ

公立病院長或ハ主治醫ノ藥價表ヲ添ヘ所屬課長ヲ經テ本縣主務課ヘ差出スヘシ

第二條 巡查看守給助例ニ依リ年金ヲ受クヘキ者ニハ第五號書式ノ證票ヲ付與スヘシ

第三條 年金ハ兩度(三月九月)ニ分テ既往半々年度分ヲ仕拂テヘシ

第四條 年金ヲ受クル者ハ仕拂期月ノ十日迄ニ年金證票ヲ本人居住地ノ市區町村長ニ差出シ第六

號書式ノ證明書ヲ得テ第七號書式ノ請求書ト共ニ本縣應ニ差出スヘシ

但シ代理人ヲ以テ請求スルモノハ委任狀(該期ノ年金ニ限ル)ヲ添付スヘシ

第五條 年金ハ本縣廳所在地居住ノ者ニハ本縣廳ニ於テ仕拂ヒ其他ノ者ニハ本人へ送付スヘシ

第六條 年金仕拂ノ通知ヲ受テタルトキハ即日其ノ通知書へ記名捺印ノ上差出スヘシ

第七條 代理人ヲ以テ受取ラントスルトキハ委任狀ヲ添付スヘシ

第七條 年金ヲ受クル者ニシテ左ノ各號ニ該シトキハ届書ニ第一號ノ場合ハ其ノ官廳其ノ他ノ場合ハ居住地市區町村長ヲ證明テ受テ速ニ本縣廳へ差出スヘシ

但改姓又ハ改名シタルトキハ給助年金證票ノ書替ヲ請求スヘシ

- 一 俸給ヲ受クル官職ニ就キ又ハ之ヲ罷免タルトキ
- 二 公權ヲ停止セラレタルトキ
- 三 本籍又ハ住所ヲ轉シタルトキ
- 四 改姓又ハ改名シタルトキ
- 五 年金給助ノ證票ヲ失フタルトキ
- 六 改印シタルトキ

第八條 年金ヲ受クル者ニシテ左ノ各號ニ該ルトキハ第一號及第二號ノ場合ハ本人ヨリ第三號及第四號ノ場合ハ戸主家族若シクハ親族ヨリ第七條ノ手續ニ準シ給助年金證票ヲ返納スヘシ

- 一 孤兒滿二拾歳ニ至リシトキ
- 二 寡婦再嫁シタルトキ
- 三 死亡シタルトキ
- 四 公權ヲ剝奪セラレタルトキ
- 五 失踪シタルトキ
- 六 許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セザルトキ

第十條 職務ノ爲メ負傷シタル者又ハ負傷後其ノ傷痕ニ原因シ若シハ傳染病ニ罹リテ死亡シタル者又ハ孤兒滿二拾歳ニ至ルモ癩篤疾ナルモノ給助ヲ出願スルトキハ公立病院長若シクハ主治醫ノ診斷書ヲ差出スヘシ主治醫診斷書ハ公立病院長ヲシテ調査證明セシムルモノトス

第一號 (用紙美濃紙)

(退職傷痕) 給助願書

私儀滿何年間勤続(或ハ今般負傷候處何等傷ニ策定相成候)ニ付テハ相當ノ給助金下賜度(或ハ別紙診斷書相添) 此段奉願候也

何所縣郡(市)町(村)大字番地族籍

元何所在勤巡查又ハ看守

何 某 印

何年何月生

右當(郡區)内本籍之者ニ相違無之候也

千葉縣知事宛

年 月 日

何(市)町(村)長

何(郡)區)長

何 某 印

第二號 (用紙美濃紙)

(寡婦孤兒) 給助願書

私(夫又ハ實養父)(巡查看守)何某何々之爲メ何年何月何日死亡候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度別

紙死亡診斷書及戶籍書相添此段奉願候也

年 月 日

何府縣郡(市)町(村)大字番地族籍

右何某(寡婦孤兒)

何 某印

何年何月生

全 族 籍

親 族 何

某印

全 全 何

某印

千葉縣知事宛

右當(郡區)内本籍之者ニ相違無之候也

何(市)町(村)長

何 某印

何(郡)區)長

何 某印

第三號 (用紙美濃紙)

死亡給助願

今般(巡查看守)何某職務ノ爲メ(或ハ負傷後)何年何月何日死亡候處私共備從來死者ニ因リ生計相營ミ罷在候ニ付テハ相當ノ御給助被成下度別紙死亡診斷書及戶籍書相添親族連署ヲ以テ此段奉願候也

年 月 日

何府縣郡(市)町(村)大字番地族籍

故(巡查看守)何某祖(父母)父母又ハ兄弟姉妹

何 某印

全 族 籍

親 族 何

某印

全 全 何

某印

千葉縣知事宛

右當(郡區)内本籍之者ニシテ(巡查看守)給助例第八條第九條ニ該ラサル者ニ候也

何(市)町(村)長

何 某印

何(郡)區)長

何 某印

(第二號第三號戶籍書式用紙美濃紙)

族 籍	華士族平民	姓	何
戶主又ハ別居實子	何年何月何日相續或ハ	名	何 某
二 三 男	別居實子		何年何月何年何ヶ月
誕生年月日	年號何年何月何日生		
本籍住所	何(府縣)何(郡區)何(市町村)何大字何番地或ハ何某方同居		

寄留住所	全
母父	年號(干支)何年何月何日生
養	全全
祖	全全
妻	某(府縣)何(郡區)何(市町村)大字何番地族籍何某何女何年何月何日入籍 年號(干支)月日生
嗣	某年號何月何日生
次	某某
兄弟	全全

右當(郡區)内戶籍簿之通相違無之候也

年 月 日 何(市町村)長 某印

第四號 (用紙美濃紙)

癩(篤)瘡給助願

明治年月ヨリ御給助相受ク罷在候處本月ヲ以テ滿二十歳ニ補至候得共從來癩(篤)疾ニ有之候間猶

何(市町村)長 某印
何(郡區)長 某印

相當ノ御給助被下度別紙醫員診斷書相添此段奉願候也

何府縣郡(市)町(村)大字番地族籍
故(巡查看守)何某(長男女)

年 月 日 何 某印
何年何月生

親族 何 某印

全 何 某印

右當(郡區)内本籍之者ニ相違無之候也

何(市町村)長 某印

年 月 日 何(郡區)長 某印

第五號

何府縣族籍
元(巡查看守) 何 某

何府縣族籍故(巡查看守)何某妻(長男又ハ養子等)

助 第 何 何年何月生
何 何年何月生

之 證

右ハ滿何年間勤繳(故巡查看守何某爲職務死亡)候ニ付金何圓ヲ給與ス
爲職務負傷
依テ比證ヲ付與スルモノ也
年 月 日

千葉縣印

何府縣族籍

元(巡查看守) 何

何府縣族籍故(巡查看守)何某妻(長男又ハ養子)等

何 某
何年何月生

何年何月生

右ハ滿何年間勤繳(故巡查看守何某爲職務死亡)候ニ付年金何圓ヲ給與ス
爲職務負傷
依テ此證ヲ付與スル者也

年 月 日

千葉縣知事印

給 助 之 證

此證ハ買賣讓與質入書入トナス禁ス

第六號 (用紙半紙)

證 明 書

何府縣郡(市)町(村)大字番地族籍
元千葉縣(巡查看守) 何 某

又ハ故(巡查看守)何某(寡婦孤兒) 何 某

孤兒ナレハ年齡

右ハ現今肩書ノ地ニ本籍(寄留)居住ノ者ニシテ年金證書檢閱セシニ異狀無之且ツ巡查看守給助例
第八條第九條ニ該當セサルモノニ相違無之依テ證明候也

何(市)町(村)長

何 某印

第七號 (用紙半紙)

請 求 書

一金

(退職、寡婦、傷痍、孤兒) 給助金

但何年何月ヨリ何年何月マテ給助年金何拾圓ノ割六ヶ月分又ハ何年何月ヨリ何年何月マテ給
助年金何拾圓ノ割何ヶ月分金何程ノ處何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何官廳ニ於テ何々
奉職ニ付何月何日ヨリ何月何日マテ何ヶ月ト何日分又ハ何々

右御渡相成度候也

何府縣郡(市)町(村)大字番地(寄留)

元千葉縣(巡查看守) 何 某印

又ハ故(巡查看守)何某寡婦(孤兒)

何 某印

千葉縣知事宛

「戸長」役場

●群馬縣訓令甲第八十三號 明治二十一年四月二十一日
本縣人民ニシテ埼玉縣下ニ於テ雇人タラントスル者ハ原籍又ハ現住地戸長ノ身元證明書ヲ要スル旨該縣ヨリ通牒有之候條身元證明書ヲ請フ者之レナラハ原籍若シハ現住地戸長ニ於テ添書ヲ與フヘシ

●群馬縣訓令乙第四百六十三號 明治三十三年五月二十五日 郡役所 市役所
國有林野ヲ國有林野法第八條第一號第二號ニ依リ特賣セラレ又ハ同法第十五條ニ依リ讓與セラレタルモノハ則チ特定ノ目的ヲ以テ願意ヲ許可セラレタルモノナルニ付買受者讓受者ハ其ノ目的通使用スヘキハ固ヨリナリ若シ妄リニ他ノ目的ニ使用シ又ハ轉賣讓與スルモノアルヲ看過セハ法規ノ本旨ヲ空ブヌルハミナチテ名ヲ公用公益等ニ籍リテ出願スルノ弊ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ特賣ニ付テハ明治三十二年八月農商務省令第二十六號國有林野及產物賣拂規則第三十六條讓與ニ付テハ國有林野法第十六條ノ規定アル所以ニシテ當該官廳ハ此ノ規定ニ依リ之ガ取締ヲ爲スニ努ムルモ其ノ發見セサル場合ナキヲ保シ難ク殊ニ目今不要存置林野ノ整理處分アル際ニ於テハ公用又ハ公益事業ノ爲ニ市町村又ハ公立小學校基本財産ノ爲ニ特賣ヲ出願スルモノ多カルヘク若シ賣拂後ニ於テ多數ノ規則違反者ヲ出スコトアラハ甚ク遺憾ノ事ニ有之此故ニ當該官廳ヲ助ケテ取締ノ周到ヲ期スルノ可ナルニ如クハガシ因テ特定ノ目的ヲ以テ特賣又ハ讓與セラレタルモノハ當該大林區署又ハ整理支局ヨリ直接ニ又ハ常廳ヲ經由シ其都度通報セララル、等ニ付其役所ニ於テハ豫メ

違反者ヲ出サ、ル様注意シ又違反者アリタル場合ハ當該大林區署又ハ整理支局へ通報候様取扱フヘシ

兵 事

兵 事 官 憲

●群馬縣告示第九十一號 明治三十年十月三十日
高崎聯隊區司令部本月二十四日高崎町大字下和田村第百番地新築廳舎へ移轉候旨通知アリ
●群馬縣告示第三百四號 明治三十一年十二月七日
今般憲兵條例改正ニ依リ第一憲兵隊高崎憲兵分隊本部ヲ群馬郡高崎町大字新町五十二番地へ開設シ旨其ノ筋ヨリ通知アリ

兵

●群馬縣訓令甲第三十六號 明治三十年四月十日 郡役所 市役所 町村役場
徵兵事務ノ義ハ徵兵事務條例ニ其綱領ヲ示シ徵兵事務條例施行細則ニ其順序方法ヲ規定シ支務未事六之ヲ執行者ノ選フ所ニ任セラル、ヲ以テ其細務ノ各地區々ニ亘ルカ如キハ固ヨリ妨ナキ義ニ候得共之ヲ實驗ニ徵スルニ條例及細則ノ主旨ニ副ハサルモノ間々有之仍テ條例細則其他訓令等ノ範圍内ニ於テ一定ヲ要スル事項ヲ別紙徵兵事務參考書トシテ其筋ヨリ回送相成候條右ニ依リ取扱フ義ト心得ヘシ

徵兵事務參考書
第一款 本書中令ト稱スルハ徵兵令、事務條例ト稱スルハ徵兵事務條例、細則ト稱スルハ徵兵事

兵 事 兵事官憲 徵兵

務條令施行細則トス

- 第二款 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第十九條ニ依リ現役兵補充兵ノ要員ヲ各徵募區ニ配賦スルニハ兵種ヲ分タス之ヲ爲シ各徵募區ノ検査全ク竣リタル後決定スルモノトス
- 第三款 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官兵種ノ撰定ヲ爲スニハ一徵募區ニ付同兵種ニ名以上タルヘシ又一徵募區ヨリ某兵種ノ現役兵一名補充兵一名ヲ採用セントスルトキハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ徵集ニ應スヘキ者ヲ此内ニ選定スヘカラス
- 第四款 條例第三十一條ノ處分ヲ爲スニハ一徵募區ノ某兵種相當者ヲ悉皆現役兵トシ又ハ補充兵トスヘカラス
- 但乙種合格者ヲ補充兵ト爲スハ此限ニアラス
- 第五款 要塞砲兵ハ要塞附近若クハ交通最モ便利ノ徵募區ヨリ採用スヘキヲ以テ該徵募區ヨリハ野戰砲兵ヲ採用セサルヲ要ス
- 第六款 鐵道隊兵ハ其兵種工兵ナルヲ以テ工兵當籤者中適當ノ者ヲ選ヒ之ニ充ツ故ニ工兵ノ補充兵ニハ鐵道隊ニ要スルモノヲモ含有スルモノトス
- 第七款 各徵募區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ配賦人員ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ島司郡市長東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ府ノ書記官及區長ニ通知シ島司郡市長及府ノ書記官ハ之ヲ徵兵參事員ニ内示スヘキモノトス
- 第八款 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除、兵役免除等ハ其調査ヲ了スルニ從ヒ逐次之カ處分ヲ爲シ又抽籤事務モ身躰検査施行中爲シ得ル限リ準備シ置クモノトス
- 第九款 令第二十條第一項ノ身躰未タ定尺徵兵検査規則第三條ノ尺ニ滿タストハ將來増育ノ見込ミアル者ヲ

指稱セルヲ以テ其増育ノ見込ミナキ者ハ之ヲ次年ニ回スタ要セズ直ニ徵集免除ノ處分ヲ爲スヘキモノトス

- 第十款 徵募事務執行ノ際監視ニ附セラレアル者ト雖モ其年十一月三十日迄ニ滿期トナルヘキ者ハ徵募ノ手續ヲ爲スヘキモノトス
- 第十一款 要員ノ不足ヲ補フノ順序ハ明治二十九年陸軍省訓令乙第三號備考第二項ニ依リ之ヲ補ヒ尙ホ不足スルトキ初メテ條例第四條第一項但書ニ依リ補フヘキモノトス其訓令第三號ニ依リ不足ヲ補フハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ノ職權ニ屬ス
- 第十二款 細則第十四條ノ要員不足シタルトキノ規定ハ徵募事務執行ノ際ハ勿論徵募事務完結後戰時若クハ事變ニ際スル時トモ 缺員ヲ生シ聯隊區内又ハ師管内ニ於テ補缺スルコト能ハサルトキニモ之ヲ適用スルモノトス
- 第十三款 明治二十九年陸軍省訓令乙第三號備考第二項ニ依リ遞次身長ヲ繰下ケタルモノハ之ヲ繰下ケサル者ト合シ抽籤ヲ行フモノニシテ即抽籤ハ甲乙兩種ノ外之ヲ區別スルコトナキモノトス
- 第十四款 體格ノ等位甲種若クハ乙種ニ相當スト雖モ其身材藝能職業等ノ各兵種職工及雜卒ニモ適スルノ見込ナキ者ハ徵集免除ニ屬スヘキモノトス
- 第十五款 令第二十二條第二十三條及明治二十八年勅令第二百二十六號ニ當ル者ハ條例第五十四條第五十五條第五十六條ニ依リ三月一日迄ニ出願スルヲ常例トスト雖モ正當ノ事由アリ又ハ同日後其事故ヲ生シ抽籤前徵集延期若クハ猶豫ヲ出願スル者アルトキハ其願書ヲ受理スヘキモノトス

第十六款 細則第二様式ノ徵集延期(猶豫)證書ハ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ假決ノ處分ヲ爲シタル者ニ限リ附與スルヲ以テ條例第四十八條ニ依リ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集延期ヲ許可スル者ハ其指令書ヲ交付シ現役兵證書ヲ引揚クヘシ

第十七款 抽籤施行後條例第三十一條ノ處分前ノ者他ノ徵募區ニ轉籍スルモ舊徵募區ニ於テ處分シ其取扱ハ條例第四十五條第四十九條第二項ノ例ニ依ルヘキモノトス

第十八款 現役兵入營前他ノ徵募區ニ轉籍シタル者ニシテ死亡免役又ハ疾病其他ノ事故ニ由リ入營セサル者ノ補缺ハ舊徵募區ノ第一補充兵或ハ海軍補充兵ヲ以テスヘキモノトス

第十九款 第一補充兵及海軍補充兵ニシテ現役兵ノ補缺トシテ徵集ヲ命セラレタル者疾病犯罪等ニ爲メ入營セサルトキハ令第二十七條ニ依リ取扱フヘキモノトス

第二十款 令第十三條ニ相當ノ學校ハ左表ノ如シ(左表略ス)

●群馬縣訓令甲第三十八號 明治二十二年三月三十日 「戸長」役場

徵兵事務執行上特ニ取扱ヲ要スヘキ事項左ノ通相定ム

一 徵兵令第二十條ニ依リ差出ス願書(疾病ナレハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘサスヘシ)ニ町村長與書証印ヲ爲ス時ハ左ノ調書ヲ添付スヘシ

- 一 戸籍寫
- 一 職業ノ現狀
- 一 財產調書
- 一 國稅地方稅町村稅ノ納額(種類ヲ區別ス)
- 一 官ノ救助ヲ受ケタル金額及其書類ノ寫
- 一 諸般ノ收入年金

但自活シ能ハサル証明ノ材料ハ成ルヘク添付ノコト

一同令第四十六條ノ屆ヲ受ケタル時ハ町村長ニ於テ直ニ郡長ヘ報告スヘシ

一同令第二十一條第二項ノ學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スルモノ同事務條例第六十二條ニ依リ徵集猶豫出願ノ際公使又ハ領事ノ証明書到着セサル場合ニ於テハ一時地方長官ノ証明書ヲ以テ代用スルヲ得ルニ付其事由ヲ具シ右証明書ヲ請求セシムヘシ

一 徵兵事務條例第二十三條ノ壯丁名簿進達前轉籍スル者アル時ハ町村長ニ於テ轉籍地ノ市町村長ヘ該名簿ヲ送付スヘシ

一 同施行細則第二條ノ人名書ニハ其事故ヲ頭書スヘシ

一 同細則第五條ノ町村吏員ニ於テ壯丁ヲ引纏メ徵兵署又ハ検査所ヘ出頭ノ節ハ其人名書ヲ差出スヘシ

一 逃亡失踪ノ故ヲ以テ徵集延期中ノ者轉籍スルトキハ町村長ニ於テ其旨郡長ヘ報告スヘシ

一 徵兵事務條例施行細則第一様式 寄留地應徵者住所區畫ニ本籍ハ右側寄留地ハ左側ニ記入シ其下ニ寄留ト書スヘシ若シ單身寄留ナレハ單身ノ二字ヲ加フヘシ

寄留地ノ住所ハ寄留地ノ町村長ニ於テ記入スヘシ氏名ノ區畫ニ附籍者ハ何ノ誰附籍ト記スヘシ

●群馬縣訓令甲第二十一號 明治二十二年十月三日 郡役所

明治二十二年以前ノ徵兵相當者ニシテ失踪逃亡ノ爲メ徵集ニ應セサル者ヲ取調其住所氏名年齢ヲ記シ本月三十一日迄ニ當廳ヘ差出可シ

但本年徵募事務終了後復歸シタル者ハ氏名ノ冒頭ニ其旨詳記スヘク且爾后所在發見シタルトキハ其都度届出可シ

●群馬縣訓令甲第二百二十二號 明治二十二年十月三日 町村役場

明治二十二年以前ノ徵兵相當者ニシテ失踪逃亡ノ爲メ徵集ニ應セサル者ノ内本年徵募事務終了後

復歸シタル者取調本月二十日迄ニ郡長へ可届出爾后所在發見シタルトキハ其都度同様届出可シ
 ●群馬縣訓令甲第二十九號 明治二十三年二月八日 郡役所 町村役場
 徴兵事務條例同施行細則ニヨリ市長ノ事務ニ關シ郡長又ハ町村長ヨリ照會通知等要スルトキハ東京府ニ於テハ該事務區長へ委任致シ候趣ニ付直ニ區長へ照會若クハ通知致ス可シ

現 役 兵

●群馬縣訓令甲第九十三號 明治二十二年七月十七日 町村役場
 徴兵事務條例第六十八條ニ依リ近衛師團現役兵中徴兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ヲ生シ其家族ヨリ現役免除出願ノ節ハ自今明治二十二年(三月)本縣訓令甲第三十八號達第一項ノ調書ヲ添付スヘシ

●群馬縣訓令甲第四百十七號 明治二十一年七月十九日 郡役所 「戸長」役場
 志願兵現役中傷痍疾病永久兵役ニ堪ヘサル其他ノ事故ニ依リ三年未滿ニシテ該役ヲ免シ豫備役若シハ後備役ニ編入セサル者ハ更ニ徴兵検査所ニ呼出シ身體検査ノ上徴否ヲ判定スヘシ
 但常備年期ノ第七年検査時限ヲ經過シタル者ハ此限ニ在ラス

●群馬縣訓令第三十一號 明治二十年六月一日 郡役所 「戸長」役場
 徴兵令ニ據リ徵集シタル海軍現役兵ニシテ身上ニ異動ヲ生スルトキハ入營前後ノ別ナク戸主又ハ親族ノ者ヨリ届出サセ郡長及戸長與書証印シ横須賀鎮守府へ差出スヘシ
 ●群馬縣訓令甲第九十一號 明治三十二年十月十二日 市役所 町村役場
 現役海軍下士卒ニシテ海軍下士卒服役條例第十五條ニ依リ免役ヲ出願スル者ノ内故ラニ事故ヲ作爲シタルノ疑ヲ有スルモノアリ不都合勘カラス候條向後該出願者アルトキハ特ニ嚴密ナル調査ヲ

遂ケタル上事實止ムヲ得サル者ノ外出願セシメサル様取計フヘシ
 ●群馬縣訓令甲第七十一號 明治三十二年七月二十二日 郡役所 市役所 町村役場
 六週間現役兵取扱手續左ノ通り相定ム
 但明治二十九年三月訓令甲第二十六號ヲ廢止ス

六週間現役兵取扱手續

- 第一條 郡市長ハ毎年六週間現役兵ニ相當スヘキ者ヲ調査シ其豫定人員ヲ一月二十日迄ニ當廳へ報告スヘシ
- 第二條 郡市長ハ徴兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ調製シ毎年四月十日迄ニ當廳へ差出スヘシ
- 第三條 但此名簿ニハ在職スル校名並ニ其所在地ヲ名簿姓名上欄(假決ノ部)ニ記入スヘシ
- 第四條 名簿差出後四月末日迄ニ就職ニ就キタルモノ、名簿ハ其都度差出シ五月一日以後ニ係ルモノハ總テ翌年廻トス
- 第五條 六週間現役兵身體検査ノ時日ト場所ハ郡市長へ通達ス
- 第六條 但時日切迫シタルトキハ聯隊區司令官ヨリ直ニ通知スルコトアルヘシ
- 第七條 本項ノ通知ヲ受ケタル郡市長ハ其旨本人へ通達ノ手續ヲナスヘシ
- 第八條 市町村長ハ疾病其他ノ事故ニヨリ検査ニ出場シ難キモノアルトキハ本人ヨリ聯隊區司令官宛ノ届書ヲ徴シ之ニ奥印ヲナシ町村長ハ郡役所ヲ經由検査當日迄ニ差出スヘシ其疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス
- 第九條 六週間現役兵ハ毎年六月一日午前第九時步兵第十五聯隊ニ入隊スルモノトス

第七條 疾病其他ノ事故ニ依リ期日ヨリ三日以内ニ入隊シ難キモノアルトキハ入隊當日迄ニ第五條ノ手續ニ準シ當廳ヘ届出サスヘシ

第八條 入隊前名簿ニ關スル異動アルトキハ市及町村(郡役所)ハ其都度當廳ニ報告スヘシ

第九條 六週間現役兵條例施行細則第九條ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ適任證書ヲ沒收シ之ヲ聯隊區司令官ニ還附シ同時ニ當廳ヘ報告スヘシ

●群馬縣訓令甲第六十四號 明治二十七年七月二十五日

郡役所 市役所

今般陸軍士官適任證書附與規則別冊ノ通り定メラレ候條同則第五條ノ事項ニ關シ陸軍官憲ヨリ調査ノ要求アルトキハ其求メニ應スヘシ

陸軍士官適任證書付與規則

第一條 士官適任證書ハ各兵科特務曹長及曹長ニシテ豫備將校ノ任ニ堪ユヘキ材幹ヲ具有シ品行方正勤務勉勵ノ者ニ付與ス

第二條 第一條ニ該當スルモノアルトキハ現役滿期前隊附ニ在テハ聯隊長聯隊長ヲ爲サ、ル諸隊ニ在テハ該隊長以下同シニ在テハ聯隊長同等以上ノ長官考科表寫ヲ添ヘ順序ヲ經テ師團長之ハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ適任證書付與ノ認可ヲ請フヘシ

第三條 士官適任證書ハ各所管ニ於テ雛形ノ如ク調製シ現役滿期ノ際聯隊長又ハ聯隊長同等以上ノ長官ヨリ本人ニ付與スヘシ

第四條 士官適任證書ヲ附與セシトキハ其人名書ニ考科表寫ヲ添ヘ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第五條 士官適任證書ヲ所持スル者ニシテ豫備將校ト爲ルヘキ品位ヲ傷フモノト認ムルトキ又ハ

家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ師團長又ハ屯田兵司令官其證書ノ返還ヲ命シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 士官適任證書ヲ所持スル者死亡シ又ハ同證書ヲ有スル曹長ニシテ傷痕疾病等ニ依リ兵役ヲ免シタルモノアルトキハ師團長又ハ屯田兵司令官ヨリ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附 則

第七條 本規則ハ士官ノ戰時補充ニ缺員アル間之ヲ施行ス

(士官適任證書雛形略ス)

●群馬縣訓令乙第七十六號 明治三十年二月十九日

郡役所 市役所

海軍兵身上異動ノ件ニ關シ別紙寫ノ通り横須賀鎮守府司令長官ヨリ照會越候條爾後一層注意スヘシ(別紙略)

豫 後 備 兵

●群馬縣訓令甲第一號 明治三十三年一月十九日

市役所 町村役場

陸軍召集條例第八條ノ在郷軍人名簿第一國民兵名簿記載例並様式別冊ノ通規定シタル旨第一師團長ヨリ通牒有之右ニ依リ取扱フヘシ

在郷軍人名簿(本籍者ノ部)

記 載 例

一 入隊ノ區畫ニハ徵集年及現役ヲ終リタル部隊ヲ記入スルモノトス
但將校同相當官ニハ徵集年ヲ記入セス(第一補充兵ニ在テハ徵集年終リタル部隊)

- 二 特業ノ區畫ニハ擔架術喇叭手縫工卒靴工卒銃工卒通信術建築術冷鐵術蹄鐵術鍛工術木工術照準手觀測手鞍工卒等ヲ記入スルモノトス
- 三 官吏公吏ノ區畫ニハ市町村長助役收入役帝國議會ノ議員及餘人ヲ以テ代フヘカラサル官吏ニシテ演習召集簡閱点呼ノ免除ヲ認可セラレタル者等ヲ記入スルモノトス
- 四 賞ノ區畫ニハ叙勳賜金等及其年月日ヲ記入スルモノトス
但從軍記章モ之ニ同シ
- 五 罰ノ區畫ニハ現役中及在郷中ノ罰金以上ニ係ルモノヲ記入スルモノトス
- 六 賞罰共ニ區畫ニ記載スル餘地無キニ至レハ其左方ニ附箋スルモ妨ナシ
- 七 服役年期ノ區畫ニハ兵役ヲ轉換シタル初期ヲ記入シ置キ該役ヲ終ル毎ニ其終期ヲ記入スルモノトス
但第一補充兵ニ在テハ第一補充兵役トシテ其服役年期ヲ記入スルモノトス
- 八 備考ノ區畫ニハ概テ左ノ事項ヲ記入スルモノトス
 - 一 年月日何地ヨリ轉籍(何地ヘ轉籍)
 - 一 年月日服役條例第百二條(第百三條)(第百四條)ニ依リ現役(常備後備ノ役)(兵役)免除(卅三年訓令甲廿二號ニテ訂正)
 - 一 年月日徵兵令第二十九條ニ依リ一ク年償勤
 - 一 年月日失官(懲罰令第十七條ニ依リ失官)
 - 一 年月日寄留地ニ於テ應召點呼參會許可
 - 一 年月日何官ニ任セララル

- 九 充員召集ノ區畫ニハ概テ左ノ事項ヲ記入スルモノトス
 - 一 年月日何部隊ヘ充員召集(補充召集)ニ應ス
 - 一 年月日復員ニ依リ歸郷
- 十 演習召集及簡閱点呼ノ區畫ニハ概テ左ノ事項ヲ記入スルモノトス
但簡閱点呼ノ區畫ニハ二段ニ記載ヲ要ス
 - 一 年月日無故不應召(無故不參會)
 - 一 年月日應召ノ所依疾病即日歸郷(疾病届出不參會)
 - 一 年月日犯罪刑期中ニ付不應召又ハ不參會
 - 一 演習猶豫許可(點呼免除許可)
- 十一 本籍地外ニ寄留スル者アルトキハ其寄留地並ニ召集通報人軍衛ノ命令ヲ傳達スルモノヲ含ムノ住所氏名ヲ附箋ヲ以テ記載シ置クモノトス(卅三年訓令甲廿二號ニテ訂正)
- 十二 本名簿ヲ訂正スルトキハ朱ノ二線ヲ以テ塗抹シ其訂正ノ事由ヲ欄外餘白ニ記入スルモノトス
ス他ノ所管ニ轉籍シタルモノハ備考區畫ニ所要ノ記入ヲナシ斜ニ左上下ニ朱ノ二線ヲ通シテ塗抹スルモノトス
- 十三 兵種官等ノ區畫ニハ第一補充兵ニ在テハ第一補充兵何兵ト記入スルモノトス
在郷軍人名簿(寄留者ノ部)
- 一 摘要ノ區畫ニハ寄留ノ年月日勤務演習ノ應否簡閱点呼參會處罰等ノ年月日事由其他必要ノ事項ヲ記入スルモノトス
第一國民兵名簿

記 載 例

一 國民軍編入志願許可ノ者ハ氏名ヲ朱書シ摘要ノ區畫ニ許可ノ年月日及其期限ヲ記入スルモノトス

二 第一國民兵ニシテ年齡滿限ニ達スルモノアルトキハ滿四十歳ニ達シタル翌月ノ一日ニ於テ朱ノ二線ヲ以テ塗抹シ摘要ノ區畫ニ何年何月何日年齡滿限ト記入スルモノトス

附 則

- 一 本規定ハ明治三十三年二月一日ヨリ施行セラル
- 二 本籍者ノ名簿ハ國民兵役終ル迄保存シ置キ第一國民兵名簿ノ補助ト爲スモノトス
- 三 總テ名簿用紙ハ美濃紙トス
- 四 表紙ハ厚紙トシ記載例左ノ如シ

在郷軍人名簿
(寄留在郷軍人名簿)
(第一國民兵名簿)

何市(町村)役(所)場

隊入	在郷軍人名簿(本籍ノ部)	地籍本	官兵等級種	公官勳爵	吏吏功位	名氏	明治 年 月 日生
集召員充	期年役服	後備	豫備	歸休	至自明治 年 月 日	呼点関簡	罰 賞
集召員充	期年役服	後備	豫備	歸休	至自明治 年 月 日	呼点関簡	罰 賞
隊入	在郷軍人名簿(本籍ノ部)	地籍本	官兵等級種	公官勳爵	吏吏功位	名氏	明治 年 月 日生

本籍地	寄留地	寄留期限	許可種類	摘要	徵集年	兵役種類	官等級氏名
在郷軍人名簿(寄留ノ部)							
集召員充	期年役服	後備	豫備	歸休	至自明治 年 月 日	呼点関簡	罰 賞
集召員充	期年役服	後備	豫備	歸休	至自明治 年 月 日	呼点関簡	罰 賞
隊入	在郷軍人名簿(本籍ノ部)	地籍本	官兵等級種	公官勳爵	吏吏功位	名氏	明治 年 月 日生

兵 事 豫後備兵

年 月 日

群馬縣當直

第三課長
各通 兵事係勤務者宛
召集事務取扱者

(第三書式)

召集ノ令アリ使丁何人至急差出有之度候也

年 月 日

群馬縣當直

使丁受負人宛

第四條 兵事係勤務者其ノ他ノ召集事務取扱者第三條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ登廳シ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 廳中當直室ニ左ノ書類ヲ設備シ置クヘシ
一 召集ニ關スル應達
一 召集令達書
一 召集令通知書
一 警報

一 召集事務取扱者及ヒ使丁受負人住所氏名簿
●群馬縣應達第二十一號 明治二十七年六月十五日 內務部 收稅部 知事官房

陸軍臨時召集發令ノトキノ手續ニ付テハ本年五月應達第十七號ヲ以テ達有之ニ付各當直員ニ於テ夫々迅速通知スルハ豫テ心得アルコトナルモ右事務ヲ處理スルニハ時間ニ制限アルモノニシテ即召集ノ電報縣廳ニ到達ノ時ヨリ二時間以内ニ縣廳ヨリ各郡役所各警察署等へ通知スル等凡ソ縣廳ニ於テ爲スヘキ事務ハ悉皆此二時間以内ニ於テ結了スヘキ(當直員ヨリ事務員ニ通知シ事務員儀ニ付若シ事務員へノ通知ニシテ遅々スル等ノコトアルニ於テハ終ニ事務員ガ實際事ヲ執ルノ時ナキニ至リ)

實ニ不容易不都合ヲ生スル恐レアリ依テ右應達第三條ノ當直ヨリ夫々へ通知ノ順序ハ左ノ方法ニ據ルモノトス
但本文通知書ヲ配付スル所ノ小使ハ毎夜三名ヲ、宿直シアルモ時ニ或ハ他ノ用ヲ以テ既ニ使

ニ出シタルトキニ該令ノ來ル等ノコトナシトモス如斯場合ニ於テハ守衛ヲ以テ近傍ノ一方ニ向ハシメ以テ少ク共三手以上ニ分テ通知シ又召集ノ電報ハ當直員二名ノ内一名自ラ之ヲ携帶シ知事(不在ナルトキハ其代理者)ニ差出シ一覽ノ上直ニ持歸リ登廳事務員ハ渡スモノトス又通知ハ若シ本人不在ナレハ其家人ヨリ直ニ本人ニ通知スヘキ旨ヲ申置クニ止メ使丁ハ其所在ヲ持參スルニ及ハサルニ付其旨使丁ニ申付ケ差出ヲ要ス

●群馬縣訓令第四百四十二號 明治二十九年十二月二十二日
知事官房 內務部 警察部 郡役所

召集事務ハ動員計畫ト密接ノ關係アルニヨリ自今動番號ヲ以テ發スル訓令ノ事項ハ召集事務ヲ管掌スル官吏公吏ハ之ヲ秘密ニ取扱フ義ト心得ヘシ
●群馬縣訓令甲第九十七號 明治三十二年十月二十日
市役所 警察署 警察分署 町村役場

本年勅令第三百九十八號陸軍召集條例第三條第二項ニ依ル公示ハ東京朝日新聞ニ掲クルヲ以テ公示ノ式ト定メタル旨第一師團長ヨリ通知有之候條右心得ヘシ
●群馬縣訓令甲第三十五號 明治三十三年三月三十一日
郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

第一師團公示第一號ヲ以テ明治三十二年十月第一師團公示第二號廢止ノ件左記之通東京朝日新聞
ヘ公示相成候旨通牒有之候條右心得ヘシ

(左記)

第一師團公示第一號

明治三十二年十月第一師團公示第二號陸軍召集條例第八十七條並同條例施行細則第九十四條ニ
依ル召集事務ニ關スル規程ハ明治三十三年三月三十一日限り廢止ス

明治三十三年三月二十八日

第一師團長 男爵川村景明

●群馬縣訓令甲第二百二十九號 明治三十年十二月二十三日

郡役所 市役所 町村役場

陸軍召集條例第八條ニ依リ簡閱点呼ニ參列ノトキハ左ノ規定ニ據ルヘシ

一 郡市町村長ハ兵員募集指定時間前ニ於テ點呼場ニ出場スヘシ

但事故アリ參列シ難キ場合ハ其旨書面ヲ以テ代理者^{町村長ハ郡}ヨリ執行官ニ通知スヘシ

●群馬縣訓令甲第五十五號

明治三十三年五月二十五日

郡役所 市役所 町村役場

陸軍豫備役後備補充兵役ニ在ル者ニシテ召集事務ヲ管掌スル官吏及公吏^{縣官吏、郡長、市町村書記}ト爲リ戰時
餘人ヲ以テ代フヘカラサル者ハ其官名若シハ職名兵役ノ種類武官名^{兵卒ハ兵}氏名及本籍住所ヲ取調

市役所ニ於テハ當廳ニ町村役場ニ於テハ郡役所ヘ毎年十月末日迄ニ申報スヘシ郡役所ニ於テハ取

經ノ上十一月五日迄ニ當廳ヘ申報スヘシ爾後翌年ノ報告期迄ニ新任轉免等ノ異動アルトキハ其都

度報告スヘシ

明治三十年群馬縣訓令甲第一百七十七號ハ自今廢止ス

●群馬縣訓令甲第二十四號

明治二十七年三月十五日

郡役所 市役所 町村役場

充員召集ノ際過員歸郷者ニハ部隊ニ於テ其趣ヲ兵員ノ軍隊手帳ニ記載シ証明ヲ與ユル旨其節ヨリ
通知有之候條右心得ヘシ

●群馬縣訓令甲第七十七號

明治二十七年八月十四日

郡役所 市役所 町村役場

陸軍臨時召集ニ際シ六種傳染病流行ノ場合ニ在テハ軍隊豫防方ニモ關係ヲ有スル義ニ付召集員ノ
自家ハ固ヨリ近隣ニ該病者有之トキハ召集令狀姓名ノ上ニ朱ノ三角印ヲ付スヘキ旨其筋ヨリ申越
候條右ニ取扱フヘシ

徵發借上

●群馬縣訓令甲第一百十九號

明治三十年十一月十二日

知事官房 內務部 警察部 郡役所

市役所 警察署 警察分署 町村役場

「本年陸軍省令第二十七號馬匹徵發事務規則」ニ關スル書類ハ^{明治廿九年十}訓令甲第四百四十二號同様

秘密ニ取扱フ義ト心得ヘシ

●群馬縣訓令甲第二百九號

明治三十三年二月二十五日

郡役所 市役所

車輛及物産收穫表入用ニ候條本年十二月陸軍省令第三十九號乙號雛形ニ準シ隔年ニ於テ十二月三
十一日現在ヲ調製翌年二月十五日迄ニ當廳ヘ差出スヘシ

但本年十二月三十一日調テ第一回トシ爾後隔年差出ス義ト心得ヘシ

●群馬縣訓令甲第五百五十七號

明治二十三年九月二十四日

郡役所

徵發事務條例第二十一條ニ依リ三年毎ニ調製スヘキ徵發物件表ハ翌年二月十五日迄ニ正副二通差

出スヘシ

但明治十六年(三月)本縣丙第十三號及同二十一年(一月)同訓令甲第十二號達ハ廢止ス
◎群馬縣訓令甲第三百三十三號 明治三十三年十月九日 郡役所 市役所 町村役場
借上馬匹取扱規則別冊ノ通改正候旨第一師團長ヨリ通知有之條條自今右ニ據リ取扱フヘシ

借上馬匹取扱規則 第一師團

第一章 總 則

第一條 本規則ハ平時演習ニ於テ馬匹借上ノ爲メ地方役所(郡、區、市役所町、村役場以下皆同シ)及軍部ノ取扱フヘキ事
項ヲ規定スルモノトス

第二條 借上馬匹ヲ分テ乘馬、鞍馬、駄馬ノ三種トス本書ハ專ラ駄馬、鞍馬借上ニ係ル手續ヲ記
載ス、雖モ乘馬借上ノ手續モ亦之ニ準ス

第三條 借上馬匹ニ係ル文書ノ往復、檢査、結約、解雇、金錢、收支、決算其他ノ事務ヲ掌理セ
シムル爲メ佐官一名ノ委員長ヲ置キ其許ニ馬匹借上地毎ニ豫メ馬匹借上委員ヲ定ム其組織概テ
左ノ如シ

委員主座 將 校
委員 員 獸醫官 一 一
外ニ金錢支拂整理ノ爲メ軍吏若クハ計手 一
其他助手トシテ下士卒若干名ヲ附スルコトアリ
但委員中獸醫官ヲ欠クトキハ地方獸醫ヲ雇用スルコトアリ又委員長タル佐官ヲシテ馬匹

借上地委員主座ノ業務ヲ兼掌セシムルコトアルヘシ

總テ委員ノ打合ニ於テ定メタル事項ハ委員ナキ部隊ヘモ通報スルヲ要ス

第四條 委員ヲ欠ク部隊ニ在テハ其隊長若クハ隊長ノ定ムル將校並同相當官委員ノ事務ヲ取扱フ
モノトス故ニ其事務ヲ取扱フヘキ者ノ姓名ヲ委員長ニ通知スヘシ

第五條 借上馬匹委員借上ノ爲メ馬匹ノ檢査ヲナストキハ借上地ノ役所吏員(郡、區、市町村役場ノ吏員以下同シ)ハ其
場ニ立會フモノトス

但不得止事故アルトキハ馬主總代人ヲ出スモ妨ケナシ
解雇ノ爲メ馬匹ノ檢査ヲ爲ス場合ニ於テモ本文ニ準ス
但不得止ハ馬主總代人ヲ出サ、ルモ妨ケナシ(馬匹ト共ニ口附人ヲ雇上ケタルトキニ限ル)

第二章 賃金及手當

第六條 馬匹及口附人ノ賃金日額(馬匹ト人夫トテ區別シ)ハ地方ノ時價ヲ酌量シ第七條ノ定額以內ヲ以テ協定
シ借上ノ當日ヨリ解雇當日マテ之ヲ下附ス

第七條 前條賃金日額ハ左ノ額ニヨルモノトス

駄馬(鞍馬)一頭 一日 八拾錢以內(馬糧官給)

駄馬一頭(口附人共) 一日 壹圓貳拾錢以內(糧食、馬糧官給)

鞍馬一頭(車輛并ニ口附人共) 一日 壹圓七拾錢以內(全 右)

馬匹口附人一人 一日 四拾錢以內(賄 官 給)

第八條 借上ノ際檢査上不合格ノ馬匹ニハ歸郷手當トシテ第六條ニ依リ決定シタル賃金ノ半額ヲ
往復日數ニ應シテ支給ス

第九條 解雇ノ時ハ其翌日ヨリ歸郷手當(解雇地ヨリ本人居住地マテ以下皆同シ)トシテ十里(五里以上ハ十里ト見做ス以下皆同シ)毎ニ一日人馬賃金ノ半額ヲ給シ五里未滿ハ同上四分ノ一額ヲ給ス(一里未滿ハ給セス)

第十條 借上中ハ馬匹飼料(一日麥四升其他粟等ハ地方ノ便宜ニ依リ代用品ヲ給ス)口附人ノ食料ハ官給トス但時トシテ規定ノ食料、宿泊料(第一師團演習規程ヲ賃金ニ合セテ支拂ヒ自辨セシムルコトアリ)

第十一條 借上馬匹斃死若シハ永久使用ニ耐ヘサルニ至ルトキハ總テ豫定價額ヲ以テ買上ケルモノトス然レトモ一時ノ疾病若シハ創傷ニシテ買上ケ要セサル時ハ豫定價額以内ノ手當金ヲ給シテ解雇スルモノトス

第十二條 解雇ノ際口附人夫正當ノ原因ニ依リ疾病若シハ負傷ノ者アルトキハ醫官(地方醫師)ノ診斷ニ依リ左表ニ準シ委員及吏員ニ於テ等差ヲ定メ保護手當金ヲ給ス

等	差	快復ニ至ルマテ豫定期日數	金額
一	等	一ヶ月以内	拾貳圓以内
二	等	十五日以内	六圓以内
三	等	十日以内	四圓五拾錢以内
四	等	七日以内	參圓以内
五	等	輕症	貳圓以内

備考 一ヶ月以上ニ亘ルモノハ其超過日數ニ相當スル金額ヲ一等ノ金額ニ加ヘタルモノトス

又口附人正當ノ原因ニ依リ癩疾ニ至ルトキハ委員及地方吏員協議ノ上特別ノ詮議ヲナシ救助金ヲ附與スルコトヲ得然ルトキハ委員ハ其事由ヲ悉シテ豫メ師團長ノ認可ヲ受クヘシ

但シ癩疾ノ現認證書ヲ要ス

第十三條 總テ馬匹附屬具ノ破損修理料ハ給セス但シ正當ノ原因ニ依リ特別ノ事由アリテ所屬監視人ノ證明書ヲ以テ届出ルモノハ委員ニ於テ隨機相當ノ手當ヲ給スルヲ得

第十四條 馬匹ノ借上或ハ其他ノ場合ニ於テ口附人ヲ解雇シ若シハ更ニ馬匹所有者ヲ馬匹解雇地ヘ召集スルトキハ共ニ手當トシテ拾里毎ニ金四拾錢ヲ給シ五里未滿ハ同半額ヲ給ス(一里未滿ハ給セス)

第十五條 馬主、口附人若シハ馬主總代人解雇ノ際検査ヲ受ケ之ヲ承諾シテ一旦検査場ヲ退キタル後ハ如何ナル事故出來スルモ決シテ採用セサルモノトス

第十六條 第三條但書ノ地方獸醫ヲ雇入ル、トキハ一日賃金壹圓五拾錢ヲ給シ若シ特ニ検査地ニ宿泊ヲ命スルトキハ宿泊料トシテ更ニ金壹圓ヲ増給ス

但雇賃金ノ外現住地ヨリ検査地ニ至ル里程ニ應シ陸路一里ニ付車馬賃金拾錢漁車一哩ニ付金參錢ノ額ヲ以テ往復共旅費ヲ給ス

第三章 地方ニ係ル事務

其一 集合及解雇

第十七條 馬匹借上地ノ地方役所ニハ豫メ左ノ諸件ヲ通知ス

一、借上馬匹委員主座ノ官姓名

二、借上馬匹ノ集地及其日時

三、借上ヘキ馬匹ノ種類並ニ員數
四、検査ノ爲メ豫備ノ馬數

第十八條 前條ノ通知ヲ受ケタル地方役所ハ委員出張迄ニ左ノ各項ヲ取扱フモノトス

一 最近ノ町村ニ就キ借上馬匹ノ調査ヲナシ毎年度行フヘキ第一師團ノ馬匹検査ニ合格シタル者若シ然ラサル者ハ合格ノ見込アル馬匹中ヨリ可成集合地ニ近キモノヲ以テ其所要數ヲ充足スルノ準備ヲナスコト

但シ馬匹ハ牡馬ニシテ年齢五歳ヨリ滿十五歳迄ノモノヲ以テ之ニ充テ其体格肥大且惡癖ナクシテ少クモ駄馬ハ二十五貫目ノ重量ヲ負擔シ鞍馬ハ山地ニ於テ五拾貫目平地ニ在テハ七拾五貫目ノ重量ヲ輓キ得ルヲ要ス但シ其重量ハ屬具ヲ除キ荷物ノミノ重サトス馬主ハ若クハ口附人ハ年齢貳拾歳以上五拾歳以下ニシテ身体強壯且馬匹ノ取扱ニ馴レ能ク勞働ニ耐ヘ白痴不具ニアラサルモノヲ撰フヘシ

二 主任ノ吏員ヲ定メ置クコト

第十九條 行軍途中等ニテ臨時ニ馬匹及口附人ノ補欠ヲ要スルトキハ委員ヨリ其借上若クハ雇入ヲ地方役所ニ依頼スルトキハ前條ニ準據シ其取扱ヲナスモノトス

第二十條 解雇期日前委員ヨリ解雇地及其日時ヲ借上地ノ地方役所ニ通知ス然ルトキハ該役所ハ馬匹口附人ノ附屬ナキ場合(輸卒ヲシテ馬匹ヲ牽^{カシムル等}トキ)ニ於テハ洩レナク馬主ヘ解雇地及解雇日時ヲ通達シ而シテ馬匹受領ノ爲メ其日限迄ニ解雇地ヘ參着セシムヘシ若シ馬主或ハ馬主總代正當ノ理由ナクシテ指示ノ日限ニ解雇地ニ參着セサルトキハ馬匹ヲ解雇地ノ地方役所ニ預ケ置キ其費用ハ馬主ヲシテ辨償セシムルモノトス

其二 金錢ノ收支

第二十一條 借上馬匹賃金手當金等ノ支拂ヲ地方役所ニ依頼スルトキハ左ノ條項ニ準シ取扱フモノトス

但シ地方役所ニ依頼シ難キ場合ニ在テハ委員及馬主總代人若クハ口附人ニ於テ爲スヘキ手續モ之レニ準スヘシ

第二十二條 賃金支拂ハ借上期限滿チ解雇スルトキ馬匹受領乙證票(第六書)ト引換ヘ支拂フモノトス

第二十三條 馬主前條ノ期ニ先チ止ムヲ得サル事故ヲ以テ若干ノ賃金下渡ヲ請求スルトキハ時宜ニ依リ之ヲ下渡スコトヲ得然ルトキハ地方吏員若クハ馬主ニ下附シ馬匹受領證票ノ餘白欄ニ其金額ヲ記入シ之ニ捺印セシムヘシ

但シ金額ハ經過セシ日數ノ給料額以內トス

第二十四條 總テ解雇ノ時委員ハ馬匹受領證票ニ解雇月日等ヲ記入シタル後乙證票ヲ馬主若クハ口附人或ハ馬主總代ニ交付ス馬主若クハ口附人或ハ馬主總代ハ使用日數ニ應スル賃金及手當金ヲ計算シ受領證票(第一書)ヲ作り之ニ乙證票ヲ添ヘ支拂ヲ委員ニ請求スヘシ

第二十五條 口附人ナキ馬匹ヲ臨時解雇スルトキハ其賃金手當金ハ之ヲ最寄地方役所ニ依託シ其馬主ニ引渡サシム此場合ニ於テ被托役所ヨリ馬匹預リ證(第四書)並ニ金員受領證(第一書)ヲ徴シ又地方役所ハ馬主ヨリ出ス借上馬匹受領乙證票ト引換ニ馬匹並ニ賃金ヲ馬主ニ渡シタル後證票ハ直ニ師團司令部ニ送達スヘシ

第二十六條 馬匹斃死シ若シクハ癡馬トナリ之ヲ買上クルトキハ馬主若クハ口附人或ハ馬主總代

八、買上豫定價格ニ依リ受領證書(第二書)ヲ作り支拂テ委員ニ請求スヘシ
 第二十七條 地方吏員ニ依頼シ癡斃馬ヲ賣却シタルトキハ現金ニ第三書式ノ納金證ヲ添ヘ之ヲ委員ニ廻送スヘシ若シ傳染病等ニテ地方ニ於テ引受人ナキトキハ委員ニテ適宜處分ノ上其始末ヲ報告スヘシ

第二十八條 雇入獸醫ノ賃金ハ馬匹借上若クハ借上馬匹解雇ノ検査終リタル後受領證書ヲ以テ委員ニ請求スヘシ

其三 馬主、口附人ノ心得

第二十九條 左ノ箇條ハ地方吏員ヨリ嚴重ニ馬主若クハ口附人ニ諭達スヘシ

一、馬匹借上中ハ各部隊ヘ附屬シ輜重監視人ノ指圖ニ從ヒ誠實ニ荷物ヲ運搬スルコト

二、借上中ハ軍隊ノ命令ヲ守リ自己ノ勝手ナル所業ハ嚴禁ノコト

三、口附人ハ自己ハ勿論馬匹ノ疾病ニ罹ラサル様注意シ若シ鞍傷其他疾病ニ罹リタルトキハ直ニ輜重監視人ニ届出ルコト

四、口附人ノ不注意ヨリ生シタル疾病ハ假令馬匹癡斃ニ至ルモ自辨タルヘキコト

五、検査場ニ出ル馬匹ハ少クモ三週日使用ニ堪ヘ得ヘキ蹄鐵ヲ裝著シアルヲ要ス而シテ爾後ノ裝蹄ハ總テ所屬隊ニ於テ爲スモノトス

六、二輪ノ荷馬車ハ休憩若クハ停止間馬匹ノ負擔スヘキ重量ヲ減殺シ休憩セシムル爲メ必ス轆木ニ支柱ヲ附着シアルコト

七、第二十條ノ違テ地方役所ヨリ受ケタルモノハ其日限ニ後レサル如ク解雇地ニ參着シ委員ニ届出テ馬匹受領乙證票ヲ示シ其差圖ヲ受クヘシ

八、口附人ハ携帶食糧精米一升二合ヲ容ルヘキ袋若クハ器物ヲ携帶スルコト
 九、馬匹受領乙證票ハ口附人ニ於テ保存シ解雇ノトキ委員ニ差出スヘキコト
 十、委員ヨリ渡ス馬匹番號札ハ紛失セサル様注意スルコト

第三十條 馬匹検査ノ爲メ地方吏員ヨリ集合ヲ命シタル馬主ニハ左記ノ馬匹名簿並ニ物品ヲ持參セシムヘシ

馬 匹 名 簿(用紙ハ半紙トス)

一、馬主並口附人ノ住所姓名 何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)番地 何 某

二、馬匹ノ年齢及寸尺 何才、何尺寸

三、馬匹ノ產地 何々

四、毛色及別徴 何々

五、馬匹ノ價格 何拾何圓何拾錢

持參スヘキ品目

一、駄鞍、屬具及輓具、屬具並車輛、雨覆

二、飼麥一斗五升ヲ容ルヘキ叭或ハ袋

三、人馬ノ雨具但シ傘ヲ用ユルヲ禁ス

四、落鐵ノ際ニ用ユル豫備トシテ藁沓若干

五、飯行李二個

六、網具

七、口網但之ヲ要スル馬匹ニ限ル

第三十一條 口附人若クハ馬匹ハ借上中正常ノ原因ニ依リ疾病ニ罹リ尙ホ使用ニ堪ユルモノハ人員ハ所屬部隊ニ馬匹ハ最近ノ乘馬隊ニ於テ治療ヲ受クルコトヲ得

第四章 軍部ニ係ル事務

其 借 上

第三十二條 馬匹受領證票、馬匹番號札ハ委員之ヲ検査場ニ携行スヘシ

第三十三條 委員ハ地方吏員ニ諮リ馬匹検査場ヲ定メ地方吏員ト共ニ馬匹及持參物品ヲ検査シ合格馬匹ニハ豫定買上價格ヲ附シ馬匹ニ番號札ヲ附着シ(番號ニハ地名ノ第一ノ字ヲ冠ス例)馬匹受領證票ノ各項(解雇月日、使用日數、解雇地名ハ解雇ノ時記入ス)ヲ記入ス

第三十四條 豫定買上價格ヲ定ムルニハ馬主ノ出シタル價格ニ依テ之ヲ定ム若シ不相當ト認ムルニキハ各委員及地方吏員各別ニ評價シ其平均高ヲ以テス

但特別ノ場合ニアラサレハ駄鞍其他屬具ハ買上豫定價格ヲ定ムルコトナシ

第三十五條 馬匹受領甲證票ハ委員之ヲ所持シ乙證票ハ馬主若クハ口附人或ハ馬主惣代ニ下附スヘシ總テ甲、乙兩證票ニハ同一ノ事項ヲ同時ニ記載スヘキモノトス

第三十六條 臨時馬匹借上ヲ要スルトキニ於テハ亦前諸條ニ準シ取扱フヘシ

第三十七條 合格馬匹ハ各部隊ニ區別シ之ニ馬匹略名簿(第五卷)ヲ添ヘ各部隊ニ引渡スヘシ委員悉皆其團隊下分離スルトキハ馬匹受領甲證票其他委員ノ物件ヲ其團隊ニ引渡スヘシ

但解雇ノ時ハ本文證票及其他各物件ハ遲滞ナク團隊ヨリ委員ニ送附スルヲ要ス

其 解 雇

第三十八條 解雇ニ當リ馬主若クハ馬主總代ヲ召集スル爲メ豫メ借上地ノ地方役所へ解雇地、解

雇日時ヲ通知スヘシ

第三十九條 總テ借上馬匹ヲ解雇スルニハ委員ハ馬匹一(若シ止ムヲ得サ)地(ル時ハ數地)ニ集合シテ検査シ馬匹受領乙證票ヲ口附人若クハ馬主或ハ馬主總代ヨリ受領シ之ニ解雇月日地名及使用日數ヲ記入シテ下附シ而シテ賃金手當金ノ受領證書ヲ作ラシメ乙證票、番號札ヲ返納セシメ然ル後現金ヲ交

付スヘシ

第四十條 馬主若クハ馬主總代不參ノ爲メ馬匹並ニ賃金ヲ地方役所ニ預托スルトキハ預托中ノ費用(一日參拾錢ヲ日途トス)ヲ定メ馬匹預リ證並ニ賃金受領證ヲ受取リ置クヘシ

第四十一條 馬匹、口附人孰レカ病氣事故アルニ於テハ共ニ解雇スルコトアリ

第四十二條 癩斃馬ノ賣却ヲ要スルトキハ地方吏員ニ依頼シ其代金ハ納金證ト共ニ受領スヘシ

第四十三條 借上馬匹ノ解雇ハ委員之ヲ行フ故ニ各部隊ニ於テハ相當ノ幹部ヲシテ解雇地迄引率セシメ委員ニ交付スヘシ

但同地方ニ於テ借上タル馬匹甚シク散在セルトキハ時トシテ各部隊毎ニ解雇セシムルコトアリ然ルトキハ各部隊ニ於テ之ニ關スル手續ヲナスヘシ

第四十四條 委員ハ借上馬匹景况(馬匹種類、年齡、產地、身軀鞍屬具等ニ就キ特別ノ注意ヲナシタル事)件並ニ將來改良ニ關係スル意見ヲ歸營後七日以内ニ師團長並ニ其所屬團隊長(馬匹等ノ屬セル團隊長)ニ報告スヘシ

第四十五條 臨時途中ニ於テ解雇セシモノハ委員ヨリ借上地ノ吏員ニ通知ス可シ

第一書式(甲) 用紙半紙野紙以下皆同シ

受 領 證

兵 事 徵發借上

斃 馬 何 圓 何 匹 金 何 圓

但何月何日何郡(區)(市)(町)村ニ於テ借上中斃死ニ付買上代

右正ニ受領候也

明治 年 月 日

何府(縣)何區(市)(郡)何町(村)

馬主(口附人)(馬主總代) 何ノ誰印

第三書式

納 金 證

一金 何 圓

內 譯

名 稱	一 匹 價	匹 數	小 計
斃 馬 何	圓 何	匹 何	金 何 圓

但何々隊第何號 (何府(縣)何區(市)(郡)町(村)何番地何某所有借上馬) 何月何日何郡(區)

(市)(町)村ニ於テ斃死ニ付御拂下代金

右正ニ上納候也

明治 年 月 日

何府(縣)何區(市)(郡)町(村)

何ノ誰印

第四書式

馬 匹 預リ 證

一乘(駄)馬 鹿 毛

何隊附何第何號

但一日預貸(治療代共)何錢ノ約定 何府(縣)何區(市)(郡)町(村)何某所有馬 一 匹

右病馬ニ付治療中(又ハ何々ニ付)屬具何々共正ニ預リ候也

明治 年 月 日

何府(縣)何區(市)(郡)町(村)

預リ主 何ノ誰印

第五書式

借上馬匹略名簿

所有主住所姓名	番 號	毛 色	屬 具
何府(縣)何區(市)(郡)何町(村)何番地 何ノ誰	何 第 一 號	鹿 毛	何 々

合計馬匹 何 十 何 頭

明治 年 月 日於何地

借上馬匹委員主座

官 姓 名

第六書式

借上馬匹受領甲證票

何 第 何 號

馬主住所姓名 何府(縣)何區(郡)(市)何町(村)何番地

何 / 某

口附人住所姓名 右ニ同シ

借 上 年 月

解 雇 年 月

口附人解雇地ヨリ

解 雇 地

居住地ニ至ル里程

解雇地ヨリ居住地ニ至ル里程

使用中數

豫定 買上 格	馬	金	借上 日	馬	金
	馱鞍屬具	金		人	金

明治 年 月 日

第一師團借上馬匹委員首座

官 姓 名 印

刻印

借上馬匹受領乙證票

何 第 何 號

記載前方ニ同シ

●群馬縣訓令乙第二百四十六號 明治二十六年三月四日 各都市役所
 徵發令ニ依リ市町村ノ徵發區ニ於テ負擔スヘキ費用ハ各各市會町村會ノ議定ニ付スヘキ儀ト心得
 ヘシ

行 軍

●群馬縣乙第八十一號 明治十八年七月十一日 那役所 戶長役場
 從來近衛諸隊行軍演習等ノ節ハ該隊ノ照會ニ據リ通行ノ道筋宿泊地名日割及ヒ供給物品ノ準備等
 其都度當廳ヨリ相達候處以來一二泊行軍ノ如キハ該團隊ヨリ直ニ郡役所又ハ戶長役場へ通報或ハ
 臨時士官下士ヲ派シ可爲申入儀モ可有之旨其筋ヨリ報知越候條右場合ニ於テモ其照會ニ應シ諸事
 注意懇切ニ取計フヘシ

●群馬縣訓令甲第十二號 明治二十五年二月二十三日 町村役場

近衛師團及第一師團并ニ陸軍教導團ノ諸隊行軍演習ノ節町村ニ於テ需用ニ供セル物品代及宿舍
 料等ノ領収證書ハ別紙様式ニヨリ調製ス可シ

受 領 證
 一金 何 圓
 內 譯

名	種	員	數	單	價	小	計
宿	舍	料	何	何	錢	金	何
			百			何	圓
			名				

但何年何月何日舎營料
右正ニ受領候也

群馬縣何郡何町(村)長

何

某印

年 月 日
何 團 隊 主 任 官 宛

備考

一本書ハ宿舍料ノ一例ヲ掲ケタル者ニシテ團隊ノ供用品ニ依リ其品目ヲ名稱ノ所ニ記載スヘシ
一單價ニハ個數ノ外ハ壹名或ハ何貫目ト片書スヘシ
一證書ハ總テ一通タルヘシ

國 籍

●群馬縣訓令甲第八十八號 明治三十二年十月四日 郡役所 市役所 町村役場
本年內務省令第五十一號ニ依リ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲シ及ヒ歸化ヲ爲シ又ハ國籍ヲ回復セン
トスル願書ヲ差出シタルトキハ市町村長ハ法律ニ掲ケタル條件及其目的又ハ歸化人ト共ニ國籍ヲ
取得スヘキ者(妻子)アルトキハ其品行年齡職業等詳細取調具申スヘシ

戶 口

●群馬縣訓令甲第九十五號 明治三十一年十一月十五日 郡役所 市役所 町村役場

明治三十一年十一月七日內閣訓令第一號統計表並ニ統計小票ニ關シ左項ノ通り規定候條右心得ヘ
シ

但明治二十三年十月本縣訓令甲第六十號并ニ明治二十九年十二月本縣訓令甲第四百十八號
ハ自今之ヲ廢止ス

第一項 市町村長ハ甲號人口統計材料統計表取扱手續別記様式第一號乃至第四號表ヲ各様式ニ示
ス所ニ依リ調製シ其調査ノ事實ノ屬シタル年ノ翌年二月末日迄ニ市長ハ縣廳ニ町村長ハ郡役所
ニ差出スヘシ

第二項 郡役所ハ町村長ヨリ差出シタル統計表ノ體裁及計數ヲ調査シ其年三月二十日迄ニ縣廳ニ
差出スヘシ

第三項 乙號人口統計材料統計小票取扱手續第七條ニ依リ統計小票ヲ市長ヨリ縣廳ニ町村長ヨリ
郡役所ニ送付スヘキ期限ハ第一期ノ統計小票ハ五月二十日迄第二期ノ統計小票ハ八月二十日迄
第三期ノ統計小票ハ十一月二十日迄第四期ノ統計小票ハ翌年二月二十日迄トス

第四項 乙號統計材料統計小票取扱手續第十一條ニ依リ統計小票ヲ取纏メ郡役所ヨリ縣廳ニ送附
スヘキ期限ハ第一期ノ統計小票ハ六月五日迄第二期ノ統計小票ハ九月五日迄第三期ノ統計小票
ハ十二月五日迄第四期ノ統計小票ハ翌年三月五日迄トス

●群馬縣訓令甲第七十五號 明治三十二年八月十一日 郡役所 市役所 町村役場
本縣統計表調製ニ關シ必要ニ付明治三十一年十一月內閣訓令第一號甲號人口統計材料統計表様式
第一號乃至第四號表ニ準シ毎年十二月末日調ヲ翌年二月末日迄ニ市長ハ縣廳へ町村長ハ郡役所ニ
差出スヘシ郡役所ニ於テハ之ヲ取纏メ郡表ヲ調製町村表ヲ添付其年三月二十日迄ニ縣廳ニ差出ス

但シ明治三十一年未調ニアツテハ市町村ハ九月十五日迄ニ郡役所ハ九月末日迄ニ差出スヘシ
 ●群馬縣訓令甲第八十九號 明治三十三年七月二十七日 郡役所 市役所 町村役場
 人口統計小票死産票ノ儀ハ記入心得第十二條ニ據リ埋火葬認許證ノ番號ヲ記入スヘキ儀ニ有之該
 認許證ハ從來死亡及死産ヲ通シテ記號シ爲メニ死産票ニノミ番號ヲ逐フ能ハス隨テ市町村送致目
 録ニ在テモ其番號ニ依リ枚數ヲ調査スルノ便宜ヲ欠キ候處本年六月内務省訓令第二十一號ニ依リ
 死産ニ關スル埋火葬認許證ハ特ニ順號ヲ付スヘキ事ト相成就テハ本年第二期以降ノ送致目錄ハ
 他ノ小票ト同シク毎期ノ順號ヲ記載シ差出スヘシ
 但本年度ハ現行ノ送致目錄用紙ヘ左記ノ例ニ依リ關號云々トアル欄ノ餘白ヘ其番號ヲ記入シ
 第二期ニ在テハ其備考ヘ舊番號ニ係ル枚數ヲ記載スヘシ

市町村送致目錄

明治三十三年度第二回

票名	枚數	番號	備考
出生	自第	號號	
死亡	自第	號號	
婚姻	自第	號號	
離婚	自第	號號	
葬	自第	號號	

死産	一五	關號アルトキハ其枚數及理由ヲ備考ニ記入スヘシ
合計		死産 自一號 至一二號 上ノ枚數ノ内三枚舊番號ノ分

明治 年 月 日

内閣統計局御中

北海道及	市名	市役所及
郡名	町村役場名	

●群馬縣甲第三十五號 明治十二年三月十三日
 昨明治十一年本縣甲第九十七號布達宅地番號標札ノ儀地所ニ關セス今般別紙書式之通改定候條右
 雜形ニ照準記載來ル四月十日迄ニ本籍寄留ヲ不問渾テ門戸入口ヘ可相揭此旨布達候事
 但標札番號之儀ハ每町村限リ「戸長役場」ニ於テ調製該費ハ附與ノ節毎戸ヨリ可取立事
 本籍人標札書式

標札 木品 適宜

何郡何町村

何之誰

第何番宅住居

又ハ第何番宅同居

士族又ハ平民

肩書

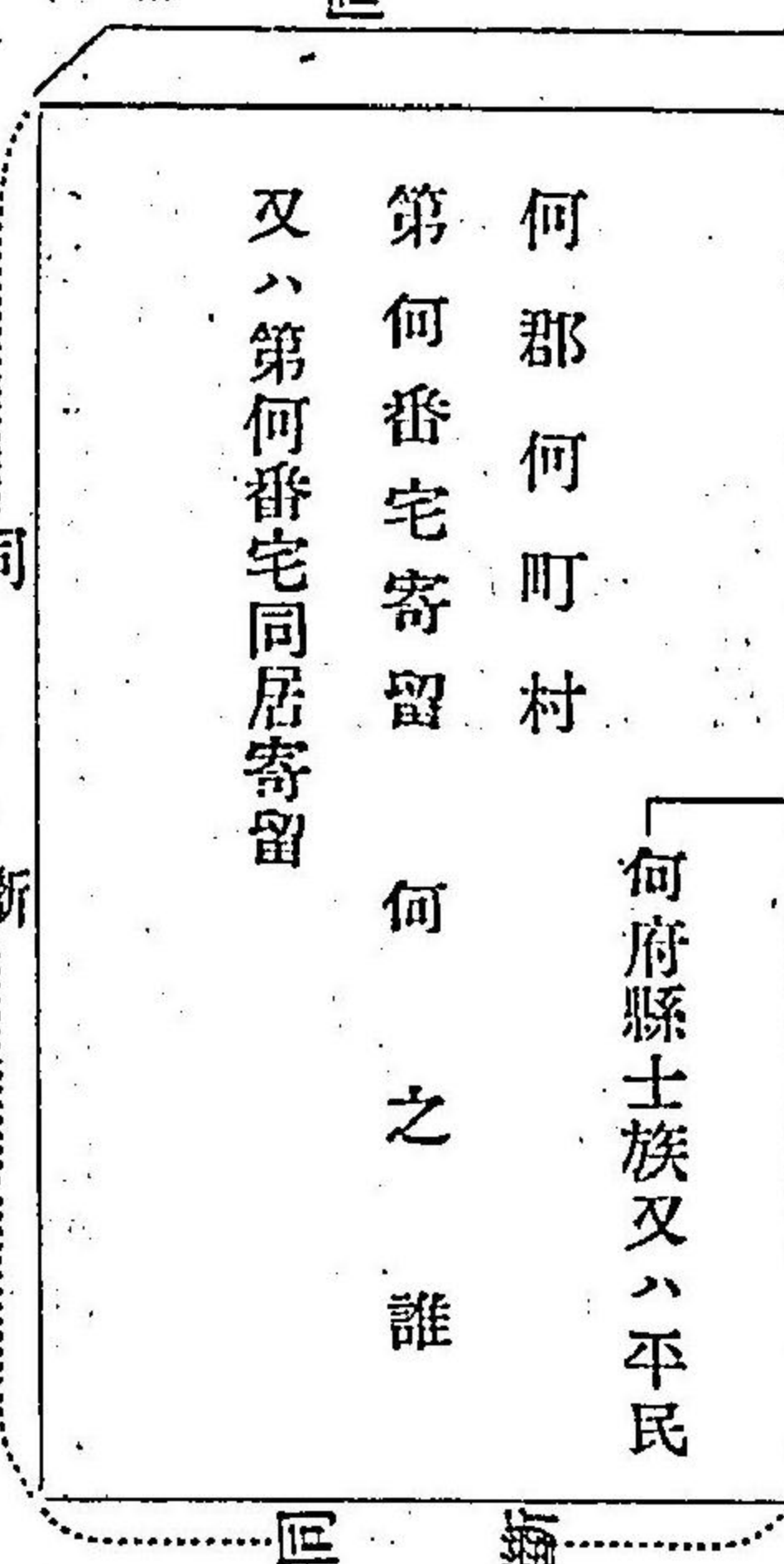
標札番號

圖本川水

豎曲尺六寸五分

橫曲尺二寸五分

番號順序ハ町村上下ノ内ヨリ適宜相始ムヘシ
寄留人同書式 肩書



同 同 斷

●群馬縣訓令甲第八號 明治三十一年二月四日
郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

門戸標札掲表ニ付テハ明治十二年甲第三十五號達ニ依リ毎戸必ス掲表スヘキ筈ノ處近頃該標札ヲ掲ケサルモノ又掲ケアルモノ違式若クハ文字不明ノモノ往々有之爲メニ通信事務其他ニ關シ不便甚ナカラス候條此際掲表ナキモノ及違式若クハ文字不明ノ標札ハ右甲第三十五號雜形ニ據リ掲表セシムヘシ

寄留

●群馬縣令第二十三號 明治十九年十一月二十六日
郡内他町村ヘ寄留シタル者届出方左之通り相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

第一條 郡内他町村ヘ寄留シタルトキハ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長ヘ届書ヲ發送スヘシ

但一戸長役場管内他町村ニ寄留シタルモノニ限リ本籍地戸長ヘ届書ヲ發送スルニ及ハス

第二條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ

第三條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第四條 本令施行以前已ニ寄留シ届滿ニ係ルモノハ十二月一日ヨリ十日マテニ第一條ノ手續ニ據リ届出ヘシ

第五條 前數條ノ届出アルトキハ寄留簿登記及ヒ編製之義ハ本年九月内務省令第二十二號第二十条以下ノ例ニ準ス

●群馬縣達第七十九號 明治十九年十一月二十六日 「戸長」役場

内務省令第十九號第五條但書ニ依リ本籍外ノ者ヨリ差出シタル届書ハ左ノ如ク取扱フヘシ

一寄留者ニ係ル届書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留届書ト合綴スヘシ

但出產ニ於テハ別ニ入寄留届ヲ爲サシムルニ及ハス

一寄留者ニ非サル者ノ届書ハ總テ便宜編綴スヘシ

同令第六條ノ入寄留届書第七條ノ寄留者退去届書及第八條ノ寄留者復歸届書ハ類集編綴スヘシ

同令施行以前ニ於テ出入寄留ノ届出ヲ爲シ現ニ出入寄留ノ記載アルモノハ本籍地ニ於テハ出寄留者ノ留守引受人又ハ其戸主入寄留地ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヲ取調タ

ル上出入寄留簿ヲ整頓スヘシ

群馬縣令第二十三號施行以前ニ於テ已ニ届出アル寄留者ハ前項ニ據リ出入寄留簿ヲ整頓スヘシ

群馬縣訓令第一號 明治二十年一月七日 「戸長役場」

陸軍校團生徒隊ニ屬スル馬丁ハ「在屯營下士卒同様ニ看做シ現在地ニ於テハ其出入調査ヲ要セサル筈ニ付」本籍地ニ於テハ備入又ハ解備ノ通知若クハ届書ヲ受領シタルトキハ戸籍取扱手續ニ依リ出寄留簿ヲ加除シ「戸籍表調製ノ節」ハ之ヲ第二人口出入表出寄留ニ算入「スヘキ儀ト心得ヘシ

群馬縣訓令甲第五十九號 明治二十九年六月十日 郡役所 市役所 町村役場

今般内務省訓令第四號ヲ以テ寄留ニ關スル届書取扱方定メラレ候ニ付テハ届書ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ出寄留入寄留又ハ退去ノ届出ヲ怠ルモノナキヤ否ニ注意シ時宜ニ依リテハ本人又ハ家主地主等ヲ喚問シ又ハ警察官ニ囑托シテ取調ヘシムル等整理ヲ目的トシテ嚴重施行致スヘシ

但シ從來届漏ノ分ニ對シテモ同様此際嚴重ノ調査ヲナシ整理ヲ計ルヘシ

群馬縣訓令甲第二百一十一號 明治二十九年十月六日 町村役場

明治十九年十一月縣令第二十三號ヲ以テ郡内他町村寄留者届出方相定候處右届書ハ本年六月内務省訓令第四號ニ準シ取扱フヘシ

群馬縣訓令甲第二十號 明治三十年三月二十二日 郡役所 市役所 町村役場

明治十九年(九月)内務省令第十九號ニ依ル寄留届寄留者復歸届ニ付テハ明治二十九年(六月)内務省訓令第四號ヲ以テ取扱方被相定候處尙ホ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ

一 甲地ヨリ乙地ヘ寄留替ノ届書ヲ受ケタル本籍市町村長ハ前寄留地ノ市町村長ニ對シ届書寫ヲ送付シ若クハ其ノ旨ヲ通知スヘシ

一 寄留者ヨリ本籍移轉ノ届書ヲ受ケタル寄留地市町村長ハ内務省訓令第四號第一項ニ準シ之ヲ轉籍地ノ市町村長ヘ送附シ轉籍地ノ市町村長ハ同第二項ニ準シ取扱フヘシ

但本項ノ場合ニ在テハ舊本籍市町村長ハ新本籍市町村長ヘ其ノ出寄留届書ヲ引繼キ若クハ其ノ旨ヲ通知スヘシ

一 寄留者ノ出產ハ内務省訓令第四號第一項第二項ニ死亡失踪ハ同第三項ニ準シ取扱フヘシ
一 前數項ノ届書ニシテ明治十九年(十月)内務省令第二十二號第十五條ニ依リ保存ヲ要スルモノニ在テハ其ノ届書寫ヲ送付シ若クハ其ノ旨ヲ通知スヘシ

移住渡航

群馬縣訓令甲第七十五號 明治二十四年六月十六日 郡役所

北海道ヘ移住民之件ニ付告諭第五號之通り諭達候條爾後移住企望者ニ於テ土地選定方照會或ハ總代人證明書又ハ添書下附等ノ儀出願候時ハ事實詳細取調ノ上許否スヘシ

(告諭第五號ハ北海道渡航者中往々不正ナル移住總代人等ヘ誘惑セラル、モノアルニ付注意方ノ件ナリ本文略)

群馬縣訓令甲第三百三十八號 明治二十九年十二月八日 市役所 町村役場

本年十一月内務省令第十一號ヲ以テ明治十九年内務省令第十九號ヘ第九條追加相成候ニ付テハ外國渡航人名簿ヲ調製シ渡航又ハ歸朝ノ届出アリタルトキハ戸籍取扱手續第二十三條出寄留簿及第二十四條出寄留者復歸記載例ニ依リ取扱ヒ其ノ届書ハ便宜編綴保存スヘシ

群馬縣告示第八十號 明治三十年六月四日

北海道國有未開地處分法第三條ニ依リ土地ノ貸付ヲ受ケントスル者ニシテ府縣知事ノ證明ヲ得タ

ル者ニ對スル取扱方左記ノ通定メタル旨北海道廳ヨリ通知アリタリ
北海道廳令第二十四號 明治三十年四月二十三日

北海道國有未開處分法第三條ニ依リ土地ノ貸付ヲ受ケントスル者ニシテ府縣知事ノ證明ヲ得タル者ニ對シ特ニ左ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

一 他ノ出願者ニ先チ土地ノ貸付ヲ爲ス事

但シ同一ノ者二人以上アルトキハ出願ノ先後ニ依ル

二 二十戸以上團結シテ三年以内ヲ以テ移住セントスル者ハ其移住ヲ完了スル迄未移住者ニ貸付地ヲ豫定存置スル事

但シ豫定存置期間二年ナルトキハ初年ニ總戸數ノ二分一以上三年ナルトキハ初二年ニ總戸數ノ三分一以上宛移住スル者ニ限ル

三 二十万坪以上ヲ以テ自作農ヲ爲ス者又ハ前號ノ移住者若クハ前號ト同一ノ配當ヲ以テ二十戸以上ノ小作人ヲ移住セシメントスルモノハ貸付停止中ノ土地ト雖モ貸付地ヲ豫定存置スル事

四 二號三號ノ移住期限又ハ二十万坪以上ヲ以テ自作農ヲ爲ス者ノ起業方法ハ特ニ變更セシムルコトアルヘシ

●群馬縣訓令第七十二號

明治三十年六月二十八日

郡役所 市役所

日本臣民ニシテ佛領印度支那ニ赴カントスル者ハ其出發ノ際在本邦佛國領事館ニ就キ旅券ノ査証ヲ受クヘキ筈ニ付爾今該地ヘ赴カントスル者有之候節ハ其旨注意方取計フヘシ

●群馬縣告示第三百三十八號

明治三十一年五月三日

北海道移住民ニシテ北海道内ノ一港ニ上陸後二箇月以内ニ於テ更ニ移住目的地ニ到ントスル者ノ爲メ北海道廳ニ於テハ本年二月内務省告示第九號第二條ニ掲クル瀛松ノ外管下ノ松主ト特約ヲ爲シ同廳又ハ支廳ハ右目的地ニ到ル者ニ對シテ該瀛松賃割引券ヲ下付スヘキ事ニ定メラレタリ

●群馬縣訓令第十三號

明治三十一年二月九日

郡役所 市役所

今般内務省令第一號ヲ以テ北海道移住ノ瀛車賃割引券取扱方定メラレ候ニ付テハ目今第六條ニ準シ割引券受拂表及同下附表毎年一月十日限り當廳ヘ報告スヘシ

●群馬縣令第四十七號

明治三十三年五月四日

移民保護法ニ依ル移民ニシテ出稼中死亡シタル者アルトキハ其氏名ヲ保證人ヨリ當廳ヘ届出ヘシ

但移民取扱人ニ依ルモノハ取扱人若クハ其代理者ヨリ届出ヘシ

●群馬縣告示第九十七號

明治三十二年五月二十二日

帝國議會議員及商業會議所惣代ニシテ視察ノ爲メ渡臺セントスル者ニ對シ便乘券ヲ下附シ以テ一航海凡三人限日本郵船大阪商船兩株式會社臺灣航海定期船并基隆新竹間鐵道及輕便線ニ無料搭乘セシムルコトニ臺灣總督府民政長官ニ於テ取計タル旨通知ニ付右等渡臺者ニシテ便乘券ノ下附ヲ得ントスルモノハ所轄町村役場及郡市役所ヲ經由シ本廳ヘ出願スヘシ

社 寺

官 國 幣 社

●群馬縣訓令甲第三十四號

明治三十二年四月十七日

國幣中社貫前神社

官國幣社祭神分靈ノ儀ハ濫リニ授與不相成儀ニ候條若シ特別ノ理由アリテ分靈ヲ授與セントスル

場合ニ於テハ宮司ヨリ詳細事由ヲ具シ出願許可ヲ受クヘキ儀ト心得ヘシ

●群馬縣訓令甲第九十九號 明治二十四年八月二十五日 貫前神社

官國幣社神職奉務規則左ノ通相定ム

官國幣社神職奉務規則

第一條 官國幣社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國體ヲ辨

シ國典ヲ修メ躬行ヲ正シクシテ以テ本務ヲ盡スヘシ

第二條 官國幣社祭典ハ國家發倫ノ標準タルヲ以テ齊肅恭敬首トシテ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第三條 新年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアラサレハ成規ノ時間ヲ猥リニ伸縮スヘ

カラス

第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神賑等適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ地方廳及所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第五條 人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ナシト雖トモ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第六條 社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セズ悠久ノ保存ヲ要ス

第七條 神社所藏ノ寶物什器古文書類等常ニ散失ナキ樣監護シ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出

納スヘシ

第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金穀ヲ變更セントスル場

合ハ官國幣社ト雖モ氏子又ハ講社アルトキハ其總代協議ノ上縣廳ノ許可ヲ得ヘシ

第九條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトヲ

カラシムルヲ要ス

●群馬縣訓令甲第五十一號 明治二十九年四月二十七日

北甘樂郡一ノ宮町大字一ノ宮町國幣中社貫前神社

神職ノ儀ハ神社一般内外ノ社務ヲ合セ司ル者ニシテ日々社頭又ハ社務所ニ於テ其職務ニ從事シ官

祭ヲ始メ月次祭典等謂レナク闕席不相成儀ニ有之萬一不得止病氣若クハ旅行等ノ節ハ一々許可ヲ

受クヘキモノニ候處其許可ヲ得スシテ旅行ヲ爲スニ於テハ曠職怠慢ノ責免ルヘカラス爾後一層戒

心ヲ加ヘ假令兼務神社祭典等ノ爲メ旅行スルニ付テモ往復日數ヲ詳記シ當廳ヘ届出ツヘキ儀ト心

得ヘシ

●群馬縣訓令甲第四十三號 明治三十年四月二十一日 國幣中社貫前神社

宮司ノ職務上ニ關スル文書ニハ自今明治八年太政官第百十號達ニ準シ職印ヲ調製押用致スヘシ

但職印出來ノ上ハ該印鑑速ニ届出ツヘシ

●群馬縣訓令甲第五十九號 明治二十六年九月二十七日 國幣中社貫前神社

從來關省ノ訓令ニシテ其社ニ關係アルモノハ官報ニ掲載アルニ拘ハラヌ其都度更ニ縣廳ヨリ訓令

候處自今別段不及訓令候條官報ニ依リ取扱フ可シ

但明治二十六年九月二十七日官報第三千七百七十五號ニ掲載アル内務省訓令第十七號モ本文ノ通

心得ヘシ

●群馬縣訓令甲第六十七號 明治二十六年十一月二日 國幣中社貫前神社

宮司旅行ノ儀ハ本年内務省訓令第十七號ニ依リ總テ當廳ヲ經テ内務省ヘ稟請ノ筈ニ候處右許可ヲ

得テ東京へ滞在中ニ限り不得已事故ニ依リ歸社日限延期ヲ要スル節ハ本人ヨリ直ニ内務省へ出願

裁可ノ上ハ其旨當廳へ届出ル儀ト心得ヘシ

●群馬縣訓令甲第四十一號 明治三十二年五月八日 國幣中社貫前神社
 社務所庶務規程并文書保存等ニ關スル規則左之通相定ム(規則略之)
 ●群馬縣訓令甲第七十號 明治三十年六月二十四日 國幣中社貫前神社
 神職之定員及俸給等ニ關スル件左之通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス
 第一條 神職之定員ヲ定ムルコト左ノ如シ
 宮 司 一人 禰 宜 一人 主 典 二人
 第二條 禰宜主典ノ俸給ヲ定ムルコト左ノ如シ

神	俸	給	年		
			一 等	二 等	三 等
禰	宜	給	百 四 拾 五 圓	百 貳 拾 圓	百 圓
			主	典	禰
主	典	給	百 圓	八 拾 五 圓	七 拾 五 圓
			禰	宜	主

第三條 禰宜主典之俸給支給方ハ明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ニヨリ保存金及社入金ヨリ支出スルモノトス
 第四條 主典欠員ノ場合ニ於テハ當廳ノ認可ヲ經テ主典ノ俸給ヲ流用シ雇員ヲ使用スルコトヲ得
 第五條 神職ハ神社所在地ニ居住スヘシ
 第六條 但土地ノ情况ニヨリ神社所在地ニ住居シ難キトキハ事由ヲ具シ當廳ヘ伺出ツヘシ
 第六條 本令ニ抵觸スル從前ノ令達ハ總テ廢止ス
 ●群馬縣訓令甲第三十三號 明治三十二年四月十四日 國幣中社貫前神社

宮司俸給ノ儀ハ永遠資本金利子ヨリ給與之旨明治三十年六月訓令乙第八一六號ヲ以テ相違候處明治三十二年度以後ハ經常金ノ内ヨリ給與相成儀ト心得ヘシ
 ●群馬縣訓令甲第八十三號 明治三十一年十月十四日 國幣中社貫前神社
 明治三十年六月訓令甲第六十二號官國幣中社貫前社司權宮司旅行規程左ノ通改正ス

國幣中社貫前社司權宮司旅行規程
 第一條 旅行ヲ爲サントスルトキハ第二條以下ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テ知事ニ稟請シ其許可ヲ受クヘシ
 第二條 一泊ニ止マル私費旅行又ハ賜暇中私費旅行若クハ忌引中歸省ハ稟請ヲ要セス
 知事ニ届出テ旅行スルコトヲ得
 第三條 宮司ノ稟請及届出ハ旅行ノ事故日數地名等ヲ詳記スヘシ
 第四條 社務ニ由テ旅行スルモノ、外總テ私費ヲ以テ支辨スルモノトス
 旅費ハ保存金及社入金ヨリ之ヲ支出スヘシ

●群馬縣訓令甲第四百四十六號 明治二十九年十二月十九日 北甘樂郡一ノ宮町國幣中社貫前神社
 國幣中社貫前社司權宮司旅行規程
 管内外旅費支給額

種	別	瀛車賃		哩ニ付		車馬賃		里ニ付		日當		日每	
		管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外
宮	司	參 錢	四 錢	拾 錢	拾 錢	六 拾 五 錢	七 拾 錢	參 錢	四 錢	七 錢	七 錢	四 拾 五 錢	五 拾 錢
禰	宜	貳 錢	參 錢	七 錢	七 錢	四 拾 五 錢	五 拾 錢	貳 錢	參 錢	七 錢	七 錢	四 拾 五 錢	五 拾 錢

●群馬縣訓令甲第七十一號 明治三十年六月二十五日 國幣中社貫前神社
保存金ノ配付ヲ受クル官國幣中社宮司權宮司ニ補セラレシ者ニハ左ノ規定ニヨリ赴任旅費ヲ支給セラル

但本令ニヨリ赴任旅費ヲ支給セラル、ハ本年七月一日以降宮司權宮司ニ補セラレタルモノニ限ル(規程省察)

●群馬縣訓令甲第五十九號 明治三十年五月二十六日 國幣中社貫前神社

貫前神社保存金及社入金取扱順序左ノ通改正ス

但本令ニ抵觸スル從前ノ令達ハ總テ廢止ス

保存金社入金取扱順序

第一條 保存金ハ三ヶ月分宛四月、七月、十月及翌年一月ノ上旬ニ之ヲ交付シ十分ノ五ヲ經費及經常營繕費トシ三分五厘ヲ永遠資本トシ一分五厘ヲ各社共通非常臨時營繕費トス

但經費及經常營繕費ハ五分ノ四ヲ經費トシ五分ノ一ヲ經常營繕費トス尤經常營繕費營繕ノ都合ニ依リテハ經費金ヨリ該費ヘ流用支辨スルコトヲ得

第二條 經費及經常營繕費支拂殘金並永遠資本各社共通非常臨時營繕費金ハ總テ大藏省預金局ヘ預ケ入ル、モノトス

第三條 經費及經常營繕費支拂殘金ハ翌年度該費ノ臨時補充ニ充テ永遠資本金ハ利倍増殖ノ方法ヲ以テ永遠ノ保存金ト爲スヘキモノトス

第四條 各社共通非常臨時營繕費ハ更ニ各社ノ共有トシテ別段ノ積立トシ風火災等非常ノ破損ニ際シ臨時營繕費トシテ下渡スヘキモノトス

第五條 國幣中社非常臨時營繕費ハ一ケ年内金五千五百圓以内トス

第六條 風火災等非常ノ破損ニ際シ臨時營繕ヲ要スルトキハ仕様目論見帳ヲ以テ宮司ヨリ最寄官國幣中社宮司ノ連署ヲ得當應ヲ經由シ内務省ヘ出願スルモノトス

第七條 經常營繕ハ宮司ヨリ仕様目論見帳ヲ以テ當應ヘ出願スルモノトス

第八條 非常臨時營繕費下附ノ許可ヲ受ケタルトキ金高千五百圓未滿ハ一時ニ請求スルコトヲ得ルト雖モ金高千五百圓以上ハ金千圓以内ヲ其必要ニ依リ請求スルモノトス

但請求スル場合ニ於テハ爲替振込先ヲ指定スルモノトス

第九條 非常臨時營繕費ノ請求及領收書ハ別紙第一號書式ニ據ルヘキモノトス

第十條 非常臨時營繕費金千五百圓以内一時ニ受取リタルトキハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ必要ノ都度引出シ支拂ヲ爲スヘキモノトス

第十一條 保存金受拂ニ關スル文書ニハ總テ宮司ノ職印ヲ押用スルモノトス

第十二條 保存金受拂文書中ニハ改削塗抹ヲ禁シ一二三ノ文字ハ必ス壹貳參拾ノ文字ヲ用ユヘキモノトス

第十三條 保存金配付ノ年限滿ルノ後ト雖モ經費及經常營繕費並各社共通非常臨時營繕費ハ第一條ノ割合ニ依リ永遠資本金ノ利子ヲ以テ支辨スルモノトス

第十四條 社入金ハ左項ニヨリ分割スヘシ
一非常豫備積立金 一營繕費 一社債 一分配金

第十五條 保存金受拂精算並社入金受拂精算及永遠保存金異動、社入金、積立異動ハ別表第二、

第三、第四、第五號表式ニ倣ヒ年度後一ヶ月限リ當應ヘ差出スヘシ

第二號書式用紙美濃紙

報 年										
類 別	何々殘金拂高	保 存 金	何々利子	計	永 遠 資 本 金	非 常 臨 時 營 繕 費	經 常 營 繕 費	俸 給	雜 給	應 費
國幣社保存金受拂精算										
(明治何年度)										
國幣中社貫前神社										

第三號書式用紙美濃紙

報 年						
類 別	社 入 金	計	非 常 豫 備 積 立 金	社 費	營 繕 費	分 配 金
國幣中社々入金受拂精算						
(明治何年度)						
國幣中社貫前神社						
祭 典 費	旅 費	計	何々殘金	計		

第四號書式用紙美濃紙

計									
國幣社永遠保存金異動									
國幣中社貫前神社									
(明治何年度)									
類別									
前年度預金越高									
本年度積立金									
受金									
公債利子									
預金利子									
計									
本年公債證書買入金									
拂金									
預金局預入									
計									
整理公債證書額面									
現在									
本年度買入公債額面									

第五號書式用紙美濃紙

計									
國幣社々入金積立異動									
國幣中社貫前神社									
(明治何年度)									
類別									
前年度預金越高									
本年度積立金									
受金									
公債利子									
預金利子									
計									
本年度公債證書買入金高									
拂金									
預金局預入									
計									
公債證書額面									

現在	本年度買入公債額面
計	預金 局預金

●群馬縣訓令甲第十五號 明治三十一年二月十日

國幣中社貫前神社

官國幣中社臨時祭又ハ私祭其他一時限リノ收入金ヲ以テ直ニ當日ノ諸費ニ支辨シ若クハ一時寄附金ヲ募リ社費ヲ以テ修繕スヘキ建物修繕費ニ支辨シ一般社入金取扱ノ手續ヲ履マサルモノ往々有之哉ノ趣ニ相聞候處有等ニ係ル收入支出ト雖モ總テ社入金支出ノ例ニ依リ取扱フヘキモノニシテ年末計算書中社入金受拂精算表ニ其收入支出ヲ掲クヘキモノニ有之候條篤ク注意ヲ加フヘシ

●群馬縣訓令甲第十四號 明治三十四年二月二日

國幣中社貫前神社

其社經費及經常營繕費支拂殘金並永遠資本金外ノ各種蓄積金、國債證券株券等ハ自今總テ中央金庫(本支金庫)又ハ日本銀行へ預入レ又ハ保管委託ヲ爲スヘシ

但預入及保管委託ハ宮司ノ職名ヲ以テシ其預入、預替、引出、委託外等ハ總テ知事ノ副書ヲ要ス

●群馬縣訓令甲第四十四號 明治三十年四月二十一日

國幣中社貫前神社

保存金ヲ以テ支辨スヘキ經費及ヒ營繕費ヲ補充スル爲メ金穀財產等ヲ寄附シタル者ハ明治十六年太政官達第十七號ニ依リ行實相成候條右寄附シタル者アリタル時ハ寄附願書寫相添へ申出ツヘシ但保存金ヲ以テ支辨スヘキ經費及營繕費外ニ屬スルモノト雖モ行實ノ事由アリト認ムルモノハ特ニ申出ツヘシ

儀 式

●群馬縣第二百二十六號 明治八年九月十四日

官國幣社祭式本年四月中式部寮ヨリ頒布相成候付テハ縣社以下ニ於テモ右ヲ準據トシ各社適宜ニ祭典執行可致就テハ右祭式之儀ハ縣郷社ノ内へ罷出問合可申此旨神官へ無洩可通達者也

●群馬縣第一百八號 明治九年七月三十日

神社祭禮之儀ハ人民信仰ノ衷情ヲ以テ專ラ誠敬ヲ旨トシ執行可致ノ所近頃祭禮ノ當日神社へ奉納ハ號シ芝居手踊或ハ淨瑠璃等淫褻之遊藝ヲ致興行候儀概テ一般ノ弊風ニテ上ハ神社ヲ汚濁スルノミナラス夫カ爲メ喧嘩鬪毆等ノ患害ヲ醸シ最モ不宜義ニ付今般縣社以下年中例祭式別冊之通撰定及頒布候條管下一般自今此祭式ヲ遵守シ當日說教之外遊藝ニ屬スル人寄セ興行等一切不相成候此旨毎月無洩通達スヘキモノ也

縣郷社祭式略

縣郷社社祈年祭 二月

本月四日縣廳及大小區町村役場 縣社ハ縣總郷社ハ大小區ニ於テ幣帛ヲ班テ各社ノ遠近ニ准シ日ヲ擇ヒテ祭祀スヘシ 但古例ヲ存スル社ハ其日ニヨルヘシ

地方官或區戶長 縣社ハ地方官郷社ハ正副區長及神官共ニ前日ヨリ齊戒ス

當日早旦神官 縣郷社神官殿ヲ裝飾ス

午前第八時神官 此以前裝束ヲ着シ手水ノ儀アリ

次地方官或區戶長 此以前裝束ヲ着シ手水ノ儀アリ

次地方官或區戶長 幣帛ヲ神門ニ入レ砌上ニ置ク

次神官 縣郷社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌
村社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌

次地方官或臨目是幣ヲ物辛櫃ヨリ出シ殿ニ昇リ假ニ案上ニ置ク案ハ環メ便宜ノ所ニ設クヘシ

次神官 縣郷社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌
村社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌

次同官祝詞ヲ奏ス

祝 詞

掛卷 母 支

其神社 乃 大前 爾 祠官 村社ハ 苗字名恐 美 恐 美 母 白 久 今年 祈年 祭 爾 幣帛 捧奉 其 志 是以 今日 大前 乎 持齋 波

利 惶 敬 比 奉 留 御 食 波 和 稻 荒 稻 爾 御 酒 波 饗 上 高 知 饗 腹 滿 竝 天 鰭 乃 廣 物 饗 久 狹 物 與 津 藻 菜 邊 津 藻 菜 甘

菜 辛 菜 爾 至 留 麻 置 足 波 志 仕 奉 留 事 乎 平 其 氣 聞 食 天 敷 坐 留 公 民 我 取 作 其 五 穀 物 乎 始 天 處 々 爾 生 出 牟

種 々 乃 色 物 乎 彌 益 々 爾 成 幸 倍 給 比 平 其 氣 安 久 新 嘗 祭 仕 奉 其 志 給 倍 止 白 須 事 乎 聞 食 止 恐 美 恐 美 白 須

次地方官或臨目是幣ヲ物辛櫃ヨリ出シ殿ニ昇リ假ニ案上ニ置ク案ハ環メ便宜ノ所ニ設クヘシ

次神官 縣郷社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌
村社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌

次神官 縣郷社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌
村社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌

次神官 縣郷社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌
村社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌

次神官 縣郷社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌
村社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌

次神官 縣郷社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌
村社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌

次各退出退手チニ拍手ヲ拍シテ退手ニ流ルルヲ禁ス以下同シ

神

和稻一臺 酒二臺 瓶一臺 海魚一臺 合セテ一臺トス 野菜一臺 菓一臺 鹽一臺 水一臺

幣物 縣郷社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌
村社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌

縣郷社新嘗祭 十一月二十三日

本月十日縣廳及大小區町村役場ニ於テ幣帛ヲ縣郷社ニ班ツ其式總テ祈年祭ニ同シ

祝 詞

掛卷 母 支

其神社 乃 大前 爾 祠官 村社ハ 苗字名恐 美 恐 美 母 白 久 今年 祈年 祭 爾 幣帛 捧奉 其 志 是以 今日 大前 乎 持齋 波

利 皇 神 等 乃 成 志 幸 波 給 倍 留 八 束 穗 乃 秋 乃 初 穗 乎 御 饗 御 酒 爾 仕 奉 利 鰭 乃 廣 物 饗 久 狹 物 與 津 藻 菜 邊 津 藻

菜 甘 菜 辛 菜 爾 至 留 麻 置 足 波 志 仕 奉 留 事 乎 平 其 氣 聞 食 天 敷 坐 留 公 民 我 取 作 其 五 穀 物 乎 始 天 處 々 爾 生 出 牟

天皇 乃 大 朝 廷 乎 始 底 仕 奉 留 百 官 人 等 四 方 國 乃 公 民 仁 至 留 麻 洩 留 事 無 久 守 幸 倍 波 給 比 立 榮 志 給 倍 白 須

事 乎 聞 食 止 恐 美 恐 美 白 須

神 饗 縣郷社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌
村社ハ桐官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手ニツ額突キ此間奏樂神官奏樂チ心得サレハ一社相傳ノ神樂歌

和稻一臺 荒稻一臺 酒二臺 瓶一臺 餅一臺 海魚一臺 合セテ一臺トス 野菜一臺 菓一臺 鹽一臺 水一臺

幣物同上

右幣物ノ外各地ノ所産外邦ノ物品ヲ副テ奉ルモ妨ケナシ

縣鄉村社例祭

年中祭祀ノ中大祭一度ヲ以テ例祭ト稱ス地方官或區長各社ニ參向シテ祭事ヲ擔當ス其式總テ前ニ同シ尤本社古例ノ神事アラハ神饌ヲ撤スルノ前行アヘシ又神幸ノ式アラハ神饌ヲ撤シテ後渡御アルヘシ行粧整肅ヲ要シ從前ノ如ク神輿任ヘマツルニ氏子打競ヒ恭維ニワタルノ弊固ク禁止ス

祝詞

掛卷母恐支

某神社能大前爾村社ハ苗字名恐美恐美白久常例能隨今日能御祭仕奉留故ニ奉出須幣帛波御服

波明妙照妙御食波和稻荒稻爾御波饗上高知獲腹滿竝底能廣物鱈乃狹物與津藻菜邊津藻菜甘菜

辛菜爾至留滿置足波志奉良志事平久良氣安良氣聞食底

天皇乃大御代乎足御代乃茂御代爾幸倍給比仕奉留百官人等四方國能公民爾至留麻伊加志夜具波衣

乃如久立榮志給倍白須事乎聞食止恐美恐美白須

神饌

和稻一臺 荒稻一臺 酒二一臺 餅一臺 海魚一臺○村社ニハ魚菜 野菜一臺 菓郷村社ニハ除之 鹽一臺

幣物同上

縣鄉村社通式

元始祭 一月三日

此日宮中ニ於テ賢所并天神地祇御歷代皇靈ヲ御親祭在ラセラル是天津日嗣ノ本始ヲ祝シテ歳首ニ祀リ給フ義ナルヲ以テ元始祭ト稱ス因テ地方ニ於テモ此大典ヲ遵奉シ祭祀ヲ執行スヘシ

當日早旦祠掌神殿ヲ裝飾ス

午前第八時祠官村社ハ帳舎ニ着シ

次同官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク再拜拍手此間奏樂

次神官神饌ヲ傳供ス此間奏樂

次祠官村社ハ祝詞ヲ奏ス再拜拍手

祝詞

掛卷母恐支

某神社乃大前爾村社ハ苗字名恐美恐美白久年始乃今日乃祭爾大前乎持齊利慎敬比奉留御食

波和稻荒稻爾御酒波饗上高知獲腹滿竝天鱈乃廣物鱈乃狹物與津藻菜邊津藻菜甘菜辛菜爾至留滿置

足波志仕奉留事平久良氣安良氣聞食天

天皇乃大朝廷乎始天四方國乎堅盤爾常盤仁守幸波比仕奉留百官人等公民爾至留麻伊加志夜具波

衣乃如久立榮志給倍白須事乎聞食止恐美恐美白須

次同官玉串ヲ獻リ拜禮再拜畢テ本所ニ復ス

次神官前條ノ祠官掌ヲ除クノ外一同順次拜禮再拜
次神官神饌ヲ撤ス此間奏樂
次同官御扉ヲ閉ツ畢テ下殿帳舎ニ復ス此間奏樂
次各退出退手

神 饌縣社ハ七臺郷社ハ六臺村社ハ五臺

和稻一臺 酒瓶一臺 餅一臺 海魚一臺 川魚一臺 合セテ一臺トス 野菜一臺 菓一臺 ○郷村社ニハ魚菜 鹽一臺 ○除之

後月輪東山陵遙拜 一月三十日

本日孝明天皇御崩日ナルヲ以テ宮中ニ於テ 御親祭在ラセラレ又勅使ヲ山陵ニ差遣シ 幣帛ヲ奉ラル因テ各神社ニ於テ遙拜スヘシ

早且社頭便宜ノ地ニ新薦ヲ敷キ高机一脚ヲ設ケ玉串ヲ獻ルヘシ 遙拜畢ヲハ玉串ハ燒却スヘシ

掛卷 母恐 支

後月輪東山陵 能大前 乎遙 爾拜 美良久 白須 止

紀 元 節 二月十一日

本日 神武天皇御即位日ニ當ルヲ以テ紀元節ト稱ス此日宮中ニ於テ 御親祭在ラセラル因テ各神社ニ於テ遙拜スヘシ敷設等總テ上ニ同シ

拜 辭

掛卷 母恐 支 祇傍標原宮 爾天下知食々天皇 乃大靈 乃大前 乎遙 爾拜 美良久 白須 止

畝傍山東北山陵遙拜 四月三日

本日 神武天皇御崩日ナルヲ以テ宮中ニ於テ 御親祭在セラレ又勅使ヲ山陵ニ差遣シ幣帛ヲ奉ラル因テ各神社ニ於テ遙拜スヘシ敷設等總テ上ニ同シ

拜 辭

掛卷 母恐 支

畝傍山東北山陵 乃大前 乎遙 爾拜 美良久 白須 止

神嘗祭遙拜 九月十七日

本日宮中ニ於テ 御遙拜且賢所 御親祭在セラレ又勅使ヲ神宮ニ差遣シ幣帛ヲ奉ラル因テ該神社ニ於テ遙拜スヘシ敷設等總テ上ノ遙拜式ニ同シ

拜 辭

掛卷 母恐 支

神宮 乃大前 乎遙 爾拜 美良久 白須 止

群馬縣第百七十六號 明治八年十二月七日

神社祭禮ノ砌相撲及ヒ芝居等興行候節村吏ヨリ該社奉仕之神官ヘ協議ヲ不遂又ハ諸祭典神官一己ノ取計ヲ以願届等差出候向モ有之爲夫不都合相生シ候哉ニ相聞候條以來何等ニ不依神社ニ關係ノ儀ハ奉仕ノ神官ヘ合議シ諸願届等村吏神官氏子惣代ノ者等連署可差出儀ト可相心得此旨毎戸無洩可通達者也

群馬縣乙第三十七號 明治十一年三月十八日

「正副區長」 祠官掌

諸神社神輿渡御之節供奉之者共從前甲冑又ハ大紋素袍等着用ニテ帶刀致來候向ハ供奉中ニ限り

社之古例ニ任セ帶刀不苦旨明治九年七月舊教部省ヨリ神宮並官國幣社へ達相成候處右ハ府縣社以下同様專ラ古代之裝飾ニ摸倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有之向ハ其人員ニ供奉中ニ限リ帶刀不苦旨今般内務省ヨリ達有之候就テハ右帶刀ノ裝飾執行ノ節ハ其都度縣廳並其最寄警察署へ可届出此旨相達候事

但普通祭服着用ノ者帶刀不相成儀ハ勿論タルヘシ
●群馬縣番外 明治九年十月四日
本年七月本縣第百十八號ヲ以テ神社祭式頒布當日說教ノ外遊戯ニ屬スル人寄セ興行等一切不相成段及布達候處有ハ該社境内ニ限リ諸興行不相成筈ニテ境外ニ於テハ祭典式執行時間ヲ除クノ外ハ禁止ノ限外ニ候條爲心得相達候條此旨毎戸無洩可通達者也

●群馬縣丙第四十八號 明治十四年六月七日

郡役所

神社分靈出開扉之儀別紙之通リ處分方相伺候處朱書之通リ指令相成候條爲心得此旨相達候事

神社分靈出開扉之儀ニ付伺

明治九年六月舊教部省布達第四號ヲ以テ各寺院之佛像他管内へ持出シ開帳之儀停止相成居候處神社分靈等他管内へ持出シ開扉之儀ハ未何等御達無之候得共一般佛像ト同様ニ見ナシ可然哉果シテ然ラハ一管内ニ於テ甲某神社ノ分靈ヲ乙某神社ニ持出シ開扉之儀ハ同年十月宮城裁判所伺之通相可心得哉至急差掛リ候件有之決兼候何分之御指揮有之度此段相伺候也

明治十四年四月十四日

群馬縣令 楫 取 素 彦

内務卿 松方正義殿

朱書

書而神社分靈出開扉ト稱シ佛像ノ持出シ開帳ニ類似ノ所業ハ不都合ニ付差止不苦儀ト可心得事
明治十四年五月三十一日 内務卿 松方正義 印

●群馬縣訓令甲第四十四號 明治二十七年五月二十九日 國幣社 縣鄉村社以下神社

國幣社及縣鄉村社以下神社ノ大祭及公式ノ祭祀左ノ通相定ム

第一條 大祭ハ左ノ通

一 新嘗祭

三 例祭

四 臨時奉幣使

五 本殿遷座

第二條 公式ノ祭祀ハ左ノ通

一 元始祭

三 大祓

四 遙拜式

五 假殿遷座

六 神社ニ特別ノ由緒アル祭祀

●群馬縣訓令甲第二十七號

明治二十八年三月二十五日

郡役所 市役所 警察署 警察分署 神職取締所

近頃各地ニ於テ日清戰爭從軍死亡者ノ爲メ葬儀ヲ執行シ又ハ墓碑ヲ建設スル等死者ノ吊魂表節ニ關スル美譽往々有之實況ニ候所國家ノ神明ヲ祭祀スル神社ニ於テ是等ノ事ヲ爲サントスルハ神明ニ對シ憚ルベキ義ニ有之候條豫メ注意嚴重ノ取締ヲ爲スヘク若又神職ニシテ私ニ右等ノ所爲ヲ爲スモノアルトキハ其都度詳細具申スベシ

●群馬縣乙第三十七號 明治十七年三月二十五日

「戸長役場」寺院

各寺院 佛像管内へ持出開帳ノ儀明治九年教部省第四號布達ヲ以テ停止有之候處自今該達被廢候條各寺院ノ佛像他管持出開帳ノ節ハ該寺住職檀家總代(無檀家ノ寺院ハ信徒總代)及ヒ本寺法類連

署ノ上本山ノ添書ヲ以テ出願許可ヲ得更ニ出開帳スヘキ地方廳ヘ出願スヘシ
但寶物古文書持出ハ不相成儀ト心得ヘシ

服 務

●群馬縣令第三十六號 明治二十四年七月十日

縣社以下神官奉務規則左ノ通り相定ム

但本文ニ抵觸スル從前ノ違ハ廢止ス

縣社以下神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ

第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決シテ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑

等ハ適宜行フ事ヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカ

ラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ奮觀ヲ失墜セズ汚穢破損ニ至ラ

シムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖

モ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得

止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經縣廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キ事ナカ

ラシムルヲ要ス

●群馬縣訓令甲第二十二號 明治二十八年三月七日

郡役所 市役所 警察署 警察分署

敎院敎會說敎所及敎師ニシテ左ノ行爲アリタルトキハ差止ムヘシ

但其都度詳細具申スヘシ

一 敎院敎會又ハ說敎所ニ於テ其祭神若クハ安置佛ノ爲メニスル外祭典法用ヲ執行スルコト

一 祭典法用ノ時タルト平時タルトヲ問ハズ社寺及祠宇ニ類似スル裝飾ヲ爲シ衆庶ニ參拜セシム

ルコト

一 敎院敎會所又ハ說敎所ニ居住スル敎師ノ外自宅ニ多衆ヲ集メ說敎ヲナスコト

●群馬縣令第八十號 明治二十九年九月二十一日

神道佛道各敎宗派所屬敎院敎會講社說敎所等ノ敎師僧侶ニシテ左ノ各項ニ違背シタル者ハ一日以

上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 醫師診斷施療中ニアラサル病者ニ付キ禁厭祈禱ヲ爲シタルトキ

一 傳染病者又ハ傳染病ノ疑似アル病者ノ家ニ於テ信者ヲ集メ禁厭祈禱ヲ爲シ又ハ神舞等ヲ爲シ

タルトキ

一 神佛ニ供ヘタル水ヲ病者ニ授與シタルトキ

●群馬縣訓令乙第九十四號 明治二十六年一月二十六日

郡市役所 警察署 警察分署

神佛各派ニ屬スル教院教會所講社說教所ノ儀ハ平素衆庶ニ參拜セシメ又ハ一般ヘ守札配布等ハ不相成ハ勿論神社ニ模擬スル裝飾ヲ爲シ庶人ノ參拜ヲ招誘スル所爲ノ如キモ神社ノ盛衰ニ影響ヲ及ホスノ嫌有之ニ付嚴重ニ取締ルヘキ儀ニ候ヘ共元來神道布教ノ要ハ各其主祭スル所ノ神德ヲ發揚シテ人心ヲ感化スルニ在レハ其室內ヘ神床ヲ設ケテ主神ヲ鎮祭シ教徒若クハ信徒ニ限リ拜禮セシメ候儀ハ不差支筋ニ有之候條彼是ノ區別ヲ注意シ不取締ナキ様致スヘシ

但主神ヲ鎮祭スルハ教院等ノ存立スル間ニ限ルモノニシテ移轉廢合等ノ際ハ直ニ神床ノ撤去ヲ爲ス儀ト心得ヘシ

●群馬縣乙第六十號 明治十五年十二月二日 「戸長役場」 縣社以下神社

縣社以下神社付屬ノ講社ニシテ教法部類ニ非ルモノ今度新ニ結集スル者ハ其方法場所等ヲ詳具シ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ出願可致義ト心得ヘシ此旨相違候事

●群馬縣訓令甲第七十一號 明治三十一年七月六日

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

近來神社寺院佛堂ヨリ出火シテ烏有ニ歸セシメタルモノ多シ是レハ管理不行届ノ致ス所ニ付法律上處分セラル、モノアルト否トニ拘ハララス其ノ神社寺院佛堂ノ管理者ハ各々其ノ責ニ任スヘキモノナルニ依リ神職ニ對シテハ相當之ヲ處分シ住職其ノ他ノ僧侶ニ對シテハ所屬宗派管長ニ移牒シ懲戒ヲ求ムヘク候條右等ノ如キ事實アルトキハ其ノ顛末ヲ審查シ迅速本廳ニ報告スヘシ

●群馬縣訓令甲第七十三號 明治三十一年七月六日

神社寺院

近來神社寺院佛堂ヨリ出火シテ數百年來ノ古名社古名刹ヲ烏有ニ歸セシメタルモノ頗ル多シ是レ

一ハ管理不行届ノ致ス所ニシテ神職若クハ住職タル者ハ職務上ノ責任免ルヘカラサルモノナリ就テハ爾來神社寺院佛堂ヨリ出火シタル場合ニ於テハ法律上處分セラル、モノアルト否トニ拘ハララス其ノ管理者ニハ相當懲戒處分ヲ爲スヘキニ付平素特ニ注意警戒ヲ加フヘシ殊ニ寺院ニ於テ本堂佛壇ノ間ヲ問ハス或ハ蠶室ニ用ヒ又ハ收獲ノ稻麥等ヲ積置ク如キハ災害ヲ來スノ虞有之候條右等ノ如キハ斷シテ爲スヘカラス

●群馬縣達第十號 明治二十年一月二十日

郡役所 警察署 警察分署

神佛教師及寺院住職ニシテ犯罪ノ處分ヲ受ク若シハ行政上妨害ノ行爲アリト認ムルモノハ相當處分方該管長ヘ照會スヘキ筈ニ付右等ノ者アリタルトキハ其事情詳細開申スヘシ

●群馬縣訓令甲第百號 明治二十七年十月三十日

縣社以下神社

自今新年紀元節天長節ニ於テ社司社掌前橋市居住ノ者ハ縣廳ニ參賀シ各郡ニ在ル者ハ左ノ書式ニ依リ賀表ヲ上ルヘシ

料紙大廣奉書横二ツ折 但美濃紙薄葉ヲ代用スルモ妨ナシ

謹奉賀新年	折目
紀元節	折目
天長節	折目

何郡何村何社
社學位勳爵氏名

折目

●群馬縣乙第十六號 明治十一年二月十二日 「正副區戶長」寺院

離末本寺換ノ儀是迄各寺ヨリ出願致來係處自今同宗派内ノ分ハ本末寺協議濟ノ上新舊本寺承諾ノ書面相添ヘ可届出此旨相達候事

但他宗派ヘ附屬候向ハ従前ノ通タルヘシ

●群馬縣第二十五號 明治九年二月二十九日

各管内寺院地移轉等願出之節往々本寺添書無之向有之不都合ニ候條自今其本寺ヨリ添書之上可爲願出旨今般教部省ヨリ達有之候條此旨各寺院ニ無洩可及通達者也

●群馬縣第四十四號 明治七年六月八日

寺院諸願届等寺號ノニ相認寺印ニテ差出候向モ間々有之不都合ニ候條自今何寺院住職何某ト相認都テ實印ヲ以テ差出可申此旨相達候條區内寺院ヘ無洩可通達者也

●群馬縣訓令甲第四十五號 明治三十年四月二十一日

縣社以下神職ニシテ職務上ニ關スル文書ニハ自今明治八年太政官第百十號達ニ準シ職印ヲ調製押用スルコトヲ得可シ

神職取締所

但職印ヲ調製シタルトキハ該印鑑速カニ届出シムヘシ

●群馬縣乙第二十四號 明治十三年四月八日

神社祠官掌及寺院住職等進退直チニ縣廳ヘ出願ノ向有之候處自今郡役所ヲ經由可願出此旨相達候事

但講社及ヒ教會教務分支局出張所各中小教院等設置願伺ノ儀モ本文同様可相心得事

●群馬縣訓令甲第八十三號 明治二十八年八月二十二日

縣社以下神社ノ神職ニ欠員アリタルトキハ明治二十八年八月内務省令第十號第五條ニヨリ神職候補者推薦命令方委任候條期限内ニ推薦書ヲ徴シ意見ヲ付シ具申スヘシ

●群馬縣訓令甲第八十四號 明治二十八年八月二十二日

縣社以下神社ニ社司社掌試驗ヲ經サルモノ推薦手續左ノ通相定ム

神社

縣社以下神社神職推薦手續

第一條 縣社以下神社神職登用規則第五條ニヨリ候補者ノ推薦ヲ爲ストキハ氏子氏子ナキトキハ信徒總代ハ神職取締支所長ノ連署シタル推薦書ニ市町村長ノ與書調印ヲ受ケタル左項ノ資格證明書ヲ差出スヘシ

一 直接國稅貳圓以上ヲ納ムル證明書

二 明治元年以前ニ於テ五代以上引續キ其神社ニ奉祀シタルモノ、子孫ニ在テハ其神社ノ舊神官若クハ地元市町村ニ累代居住シタルモノ二名以上ノ證明書

三 神宮皇學館本科及專科ヲ卒業シタルモノハ其證書寫

四 皇典講究所ノ學階證書ヲ有スルモノハ其證書寫

五 履歷書

第二條 縣社以下神社神職登用規則第一條乃至第四條ニ該當スルモノト雖モ左ノ一項ニ當ルモノハ社司社掌ノ候補者ニ推薦スルコトヲ得ス(二十八訓令甲第九十)
(三號ニテ第二條追加)

一 瘋癲白痴者

二 未成年者

三 女子

四 重罪ヲ犯シタル者

五 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

六 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權シタル後又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘタル後滿一ケ年ヲ經過セサル者

第三條 社掌ヨリ社司ニ推薦スルトキハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 社司社掌ヲ他社司社掌ノ候補者ニ推薦シ轉任セシメントスルトキハ現ニ奉祀神社ノ氏子ハ信徒ニ總代ノ連署ヲ要ス

第五條 社司社掌ヲ他ノ社司社掌ノ候補者ニ推薦シ兼務セシメントスルトキハ別ニ第一條ノ證明書ヲ要セス

但國幣社ノ神職ヲ縣社以下神職ノ候補者ニ推薦シ兼務セシメントスルトキ亦同シ

第六條 社司社掌ニシテ辭職セントスルトキハ氏子氏子ハ信徒ニ總代及神職取締支所長ノ連署シタル願書ヲ差出スベシ

第七條 本條ニ抵觸スル從前ノ諸達ハ總テ廢止ス

◎群馬縣訓令乙第九百七十四號

明治二十六年十一月九日

神官取締所長

明治二十四年四月本縣々令第三十六號ヲ以テ縣社以下神官奉務規則ヲ定メ神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ躬行ヲ正クシ典例ニ從ヒ以テ奉務ヲ盡スヘキモノニシテ政黨組織ノ會社ニ關係シ徧黨ノ行爲アルヘカラサルハ勿論ノ處其法文ナキヲ名トシ政社ニ與シ黨議社則ニ檢束セラレ集會ニ臨ミ演說ヲ爲シ其甚シキハ大政ニ容喙シ齋肅敬恭ヲ欠クノミナラス報本反始ノ誠意ヲ失却スルモノ往々有之哉ニ聞及ヒ候神官ニ有之間敷次第ニ付苟モ神社ニ奉祀スル者ハ一同心得違無之樣嚴重ニ取締方注意ヲ加ヒ萬一ニモ不都合ノ所爲アル者ハ事實ヲ詳記シ上申スヘシ

◎群馬縣訓令乙第二百二十九號

明治二十七年二月七日

神官取締所

客年十一月九日訓令乙第九百七十四號ヲ以テ神官ハ本務ニ從事スルノ外政黨組織ノ會社ニ關係シ大政ニ容喙シ齋肅敬恭ヲ欠クカ如キ行爲無之樣嚴重ニ取締ヲ加フヘキ旨訓令候次第モ有之候處猶又本月六日內務省訓令第五號ヲ以テ神官神職ハ自己享有ノ選舉權ヲ行フノ外總テ政論ニ容喙シ選舉ノ競争ニ關與スヘカラス專心一意本務ニ從事セシムヘキ旨訓令相成候ニ付テハ右心得違ノモノ無之樣篤ク注意ヲ加フヘシ

◎群馬縣訓令乙第七百六十一號

明治二十七年十月二十四日

各郡市役所 警察署 警察分署

神佛各宗教派管長へ別紙秘甲第二百五十三號之通り通牒シタル趣ヲ以テ監督上注意方其筋ヨリ通知越候條神佛各宗教派部内ニ於テ不都合ノ行爲有之ト思量候上ハ其事實ヲ具シ上申スヘシ
秘甲第二百五十三號
別紙神佛各宗教派管長へ及通牒候條御承知置監督上御注意有之度命ニ依リ此段申進候也

明治二十七年十月十五日

內務省社寺局長 阿部 浩

群馬縣知事 中村元雄殿

退テ本件ニ關シ神佛各教宗派部内ニ於テ不都合ノ行爲有之ト御思量ノ上ハ其事實ヲ具シ御内申有之度添テ中進候也

秘甲第二百五十三號

神佛各教宗派部内ニ於テ近時往々官ノ徽章並内外國勳章ニ疑似スルモノヲ調製シ紋章々標等ニ用ユルモノ有之哉ニ聞及ヒ不都合ニ候條其教宗派一同心得違無之様嚴重取締可有之命ニ依リ此段及通牒候也

明治二十七年十月十五日

內務省社寺局長印

神佛各教宗派管長宛

社寺總代人

●群馬縣令第二十九號 明治二十四年六月十一日
社寺總代人ノ件左ノ通相定ム

但明治十四年八月本縣乙第二十六號達ヲ廢ス

一縣社以下神社及寺院ニ各總代人三名以上ヲ置シモノトス

一總代人ハ氏子檀家中氏子檀家ナキヨリ相當ノ財産ヲ有スル者ヲ互選シ其都度町村役場へ届出ツヘシ

但從前ノ總代人ハ此際一般改選スヘシ

一總代人ノ任期ハ滿三年トス任期中犯罪其他不良ノ所爲アル者ハ臨時改選スヘシ

但臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルコトヲ得

一總代人ハ三名以上ナリト雖モ多數ノ爲メ弊害アリト見認ムルトキハ員數ヲ指定シ改選セシムル

コトアルヘシ(二十五年縣令二十三號ニテ追加)

一總代人ハ該社寺ノ願届等ニ渾テ連署スヘキモノトス

一總代人ハ社寺收入財産中田畑山林ノ所得ハ勿論棄物新築費儀社寺有ニ屬スヘキモノト神官住職ニ屬スヘキモノトヲ豫約シ平素混亂セサル様注意スヘシ

●群馬縣訓令乙第一千八十三號 明治二十四年十二月十八日

本年六月縣令第二十九號社寺總代人選舉届ハ社寺ノ届ニ屬スルヲ以テ神官若クハ住職ト現任ノ總

代人ト連署シ届出サシムヘキ義ト心得ヘシ

●群馬縣訓令甲第五十一號 明治二十五年四月二十九日

神社 寺院

社寺總代人ニシテ左ノ二項ニ關スル事實アルトキハ其事由ヲ詳記シ神官ハ神官取締支所長連署シ

同取締所長ノ添書ヲ以テシ住職ハ本寺法類連署ノ上管長添書ヲ以テ町村役場ヲ經由申出ツヘシ

一社寺總代人ハ三名以上ノ規定ナルモ徒ニ多數ノ總代人ヲ置キ之レカ爲メ事務ヲ澁滞セシムル等

ノ弊害アリト認ムルトキ

一社寺總代人ハ其社寺ノ願届等ニ連署シ神官住職ト心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡力スヘキハ勿

論ナレトモ社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニヨリ總代人ニシテ神官住職ニ干涉シ社寺ノ實務

ヲ妨ク社寺收入財産ヲ妄リニ他ニ使用スル等ノ所爲アリト見認ムルトキ

●群馬縣訓令甲第五十二號 明治二十五年四月二十九日 郡役所 町村役場

本年四月訓令甲第五十一號ニヨリ社寺總代人ニ關スル書面ヲ神官住職ヨリ差出シタルトキハ其事

實及狀況等詳細調査シ意見ヲ具シ申出ツヘシ

社寺 社寺總代人

●群馬縣訓令乙第五百八十號

明治二十六年六月七日

社 寺

社寺ノ願届ハ神官住職氏子檀徒氏子檀徒ナキハ信徒モノハ信徒總代人連署ノ上差出スヘキ成規ナルニ往々神官住職欠員ノ旨ヲ以テ總代人ヨリ差出スモ有之候へ共神官住職ノ連署ナキモノハ社寺ノ願届ト認メ難ク又受持神官住職ノ連署セル者有之候得共受持ナルモノハ一時ノ囑托ニ止リ認可ヲ受ケサルモノニ付社寺收入財産ノ豫約區分ヲ爲シ難ク且ツ社寺ノ實務ハ神官住職ノ責務ナルニヨリ一時ノ囑托ニテハ平素社寺ノ實務ヲ爲ス者ニ無之不都合ニ候條欠員ノ向ハ速ニ相當手續ヲ盡スヘク又寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財產ニ關スル願地租條例願及境内危險木ハ本寺法類連署管長ノ添書ヲ要スル儀ニ候處其手續ヲ盡サ、ルモノ有之爲メニ再三往復ヲ爲シ遂ニ事務ノ澁滞ヲ來シ候條爾來一層注意致スヘシ

●群馬縣乙第三十三號

明治十五年五月八日

「戸長役場」

各町村鎮座氏神之儀ハ其土地ニ就キ從來一定之區域有之儀ニ付各自之信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議之上雙方連署届出明細帳引直之儀更ニ出願可爲致儀ト相心得ヘシ此旨相達候事

境内外土地

●群馬縣丙第三十二號

明治十二年三月二十七日

官有地ノ社寺堂宇及ヒ民有ノ鄉村社以上ノ社地境内外區域ノ儀明治九年中地租改正ニ付實地點檢調理ヲ遂ケ候境内外區域ヲ以確定候條此旨相達候事

●群馬縣乙第七十五號

明治十二年三月二十七日

郡役所

官有地ノ社寺堂宇及ヒ民有ノ鄉村以上ノ社地境内外區域ノ義ニ付丙第三十二號之通戸長並社寺ハ

相達候條爲心得此旨相達候事

●群馬縣番外

明治六年十二月十四日

社寺境内ノ樹木ハ其區畫ノ位置ヲ定メ隨テ古來社堂之體裁ヲ存セシメ候儀ニ付既ニ本年第二百三十五號ヲ以テ御布達ニ相成候御趣意厚可相心得己ムコトヲ得サル事故アリ其境内ノ樹木ヲ以テ修繕ニ相用ヒ度向キハ其事由並境内ノ繪圖樹木ノ總數伐木ノ數修繕ノ仕様共詳細取調書而相添可願出事

但伐木賣拂代金ヲ以テ營繕入費ニ充テ候儀ハ決シテ不相成候事

●群馬縣第十號

明治八年一月二十日

社寺境内伐木ノ儀ニ付テハ兼テ相達置候趣モ有之候得共枯損木等不得止伐取ノ儀出願ノ節圖而不差出向モ有之調査上不都合不少候條以來境内繪圖而ハ伐木ノ箇所致判然候様相認可差出餘ハ明治六年十二月中本縣番外達ノ通可相心得此旨社寺ハ無洩可通達者也

●群馬縣第百二十一號

明治九年七月二十日

社寺境内之儀ハ體裁風致ヲ不損様可致ノ御旨趣ニ候處伐木跡或ハ前々空地アルモ其儘差置候類往々有之哉之趣右ハ無益ノミナラス御旨趣ニモ相反シ候條空地ノ分ハ早々地味相應ノ樹木植附ク成木方厚ク注意可致旨社寺ハ無洩可通達事

●群馬縣第百一十一號

明治九年七月十三日

社寺境内伐木願並官林並木損木届等差出候節官員派出致檢査來候所自今尋常ノ分ハ出張不致點檢候條願届差出方左ノ通可相心得事

一社寺境内伐木願ハ可伐取ノ事故詳細相認ノ神官氏子

氏子無之分ハ小前ノ内又ハ住職檀家檀家無之分ハ寺世話人

ノ類之)連印戸長加印ノ上圖面ニハ境内ノ體裁並可伐取立木ノ位地ヲ認メ且社堂修繕ニ相用候分
ニ代ル)者致押印候仕用帳相添正副區長ノ内へ可差出事(二十四年縣令二十九號ニテ惣
代人三名以上置クモノトス)

一官林並木等損木届方粗略ノ儀有之候テハ不都合ニ付「戸長」ニ於テ實地取調風折立枯根返リ等他
目生存ノ見込無之モノニ限リ候儀ト相心得届書ハ正副區長ノ内へ可差出事

二「正副區長」ニ於テハ前兩件願届差出候節實地點檢取調ノ上奥書押印致シ郵便ヲ以本支兩廳ノ内
へ可差出事

但昨八年六月本縣第七十八號ヲ以テ社寺境内ノ立木風折損木等伐取願并官林並木損木届等最
寄警察出張所へ可差出旨相達置候處自今總テ本文之通本支兩廳ノ内へ可差出事

●群馬縣乙第九十號 明治十年十月十一日 「正副區戸長」
社寺境内枯木損木等他目生存ノ見込無之分ハ伐採方々協議ノ上可願出箬ノ處中ニハ村吏一名ニ
テ枯損木ノ趣届出候向モ有之不都合ニ付明治九年七月舊熊谷縣第百一十一號第二十三大區ハ同年
十月本縣補第二號達ニ照
準夫々連署ヲ以可願出且生木枯木等ヲ問ハヌ伐木願出候節ハ必境内反別地種並立木惣數等詳記可
致此旨相達候事

●群馬縣乙第二十八號 明治十年五月二十九日 「正副區戸長」
社寺境内伐木ノ儀ハ御禁止ニ付若シ不得止伐木ヲ要スル節ハ縣廳へ願出許可ヲ得伐取可致所無其
儀神官氏子又ハ寺檀ノ私議ヲ以テ無願伐木致甚シキハ其町村「戸長」ニ於テモ私議ニ同意シ或ハ其
情ヲ知テ制止セサル等ヨリ終ニ擅伐ノ罪ヲ治セラレ候者往々有之畢竟法度ヲ熟知セサルヨリノ儀
ニモ可有之候條自今第廿二大區以下へハ昨九年七月元熊谷縣第百一十一號第二十三大區へハ同年十
月本縣補第二號ヲ以テ相達候手續ヲ以テ必ス願出許可ヲ經テ伐木可致此旨社寺ハ勿論一般人民へ

モ可告諭此旨相達候事

●群馬縣乙第三十三號 明治十三年五月十四日
社寺境内官有地立木伐採ノ儀ニ付兼テ公布ノ趣モ有之限ニ伐採不相成ハ勿論ノ處往々名實不相當
ノ伐採願出候者不少方今山林保護ノ旨ニ悖リ不都合ノ事ニ候條出願ノ次第ニ依リ臨時派出可及檢
査候條自今一層注意可願出此旨爲心得相達候事

●群馬縣乙第十九號 明治十四年六月二十五日 社寺 「戸長役場」
先般社寺境内外區別査定分裂上地其後追々社寺へ拂下或ハ耕宅地山林等社寺名受ヲ以テ境外所有
地ニ買得候節其都度可届出箬之處中ニハ一切不届出社寺モ有之不都合候條明治十二年七月一日以
降買得候分別紙雛形ニ照準シ一筆限リ取調來ル七月三十日迄ニ所轉郡役所へ可差出此旨相達候事
但向後社寺名受ヲ以テ境外所有地買得候節ハ耕宅地山林ヲ論セヌ其都度本文之通届出ヘキ事
群馬縣下上野國何郡何町(村)字何々
社格或ハ何宗
某 寺 神 院 社
何町(村)字 何々

一境外所有地
田何反何畝步
地價金
畑何反何畝步
地價金
山林何反何畝步
全 全